

SUPER☆Star

空海の太 KU-KAI

DAINICHI POWER

Religion philosopher
空海ゆかりの千光寺 管長

上野 玄津
Ueno Genshin

さんが出版



阪神・淡路大震災により全壊した神戸の千光寺総本山の瓦礫の中から、奇跡的に探し出された300年前の千光寺の寺宝『空海像』。残念ながら五鈷杵ごこしよを持たれた右手と108個（人の煩惱の数）の念珠をお持ちの左手は見つかりませんでした。

空海（幼名は真魚まお）は、774年に四国・香川県に生まれ「仏教」を学ぶ修行に入ります。室戸岬の御厨人窟みくろどで修行中に口にいきなり明星が飛び込んで、空海は『大日力だいいちりきよく』を得ました。そして、仏教の秘密の教え、密教の経典『大日経』が真実の教えであると感銘した空海は、805年に密教の師を求め唐（中国）に渡り、長安・青龍寺の密教の最高位第七祖である恵果和尚（阿闍梨あせり）は空海を密教の後継者とし、全ての奥義を伝え密教の第八祖に指名しました。その時、空海は「虚しく往きて実ちて帰る」と語るように、膨大な成果（不動明王像と奥義護摩行、宿曜経しゆくようきよう占星術）など密教の全ての経典を持って帰国し、『高野山の開山』の折も「宗派で争うことはない。すべては天、『大日如来』のもとで行われているのだから」と、空海により日本仏教界に多大な影響を与える事となりました。





表紙カバー及び口絵写真は、白浜を専門に撮影されているカメラマンmacky先生 ([instagram.com/macky646](https://www.instagram.com/macky646))の作品です。不思議な事に、千光寺へ行くとよく左記の様な神秘的な写真が撮れます。読者の皆さんも千光寺へ出向けば、神秘的な写真を撮る事が出来ると思います。ぜひお参りをなさって、インスタ映える写真撮影にチャレンジしてみてください。

SUPER★Star

空海の
大日力

Religion philosopher

空海ゆかりの千光寺管長

上野 玄津

Ueno Genshin



はじめに

一般的に、僧侶は丸坊主。そんなイメージを持つておられる方は多いでしょう。私は、令和元年より、僧侶でありながら普段は髪を伸ばして（テカテカに剃ることもありますが）、スーツ姿で活動しております。「僧侶らしくない」。そう思われる方もいらっしゃるかと思います。ただ、それには理由があるのです。

もともと、仏教の始祖であるお釈迦さまは、螺髪ちほつと呼ばれる細かいパーマヘアでありました。いわゆるパンチパーマです。それが、いつのまにか、仏教界では剃髪（丸坊主頭）がスタンダードになりました。その理由については、「髪は俗世への執着につながる」「剃っても剃っても生えてくる髪は煩惱そのものである」「ヘアスタイルなど余計なこだわ리を持つてはいけないから」……などなど、諸説ございます。

いずれの説であつても、私にとつてはあまり重要ではありません。なぜなら、剃る、剃らないは、仏教の教えを広めることに直接関係がないことだからです。むしろ、こうした「従来の枠にはまつて常識にこだわる」ことこそ、宗教者がすべき真のおつとめの妨げになると考えております。

私が空海の教えに出会つてから自分自身の「不思議な力」を探し求めて来ました。その「現世利益」を叶えるスーパーパー「大日力」を説いた空海は、常識にこだわらず既成概念を覆し続けた天才であり超能力者でありました。私も現在という混沌とした世界を生きる空海の後継者の一人として修行を重ね、宗教界に身を置きつつ僧侶の枠を超え「令和しあわせの会」（光永勇会長）など様々な活動を行つているところです。これまでのお寺の常識から外れた活動なので違和感を持たれる方もおられると思いますが、仏教には「世界平和」の教えを広めていく勤めがございます。私は「新発想」で、新しい時代の真言密教の布教のあり方を模索し、願望を達成するために必要となる、新しいお寺の役割を見出し、空海の真言密教の加持祈祷（護摩行）により、幸せになりたい、願いを叶えたい、良い人と結婚したい、事業で大成功をおさめたい、どんな望みでも結構です。空海のお導きによる令和を「しあわせ」な時代となるように、境内の約8メートルの黄金色に輝く「観音さま」に祈願しております。そのために必要となる空海の「大

日力」をご紹介させていただく本書には、そのヒントが数多く散りばめられております。

ぜひ、何かのご縁によりその手にとって最後まで読み進めてください。そうすれば、必ずや心が希望に満ちあふれ、前向きに生きる力が力強く湧き上がってくることに気がつかれるでしょう。

合掌


空海ゆかりの千光寺・白浜別格本山

管長（宗教哲学者）

上野 玄津

目次

contents

はじめに

第1章 SUPER☆star「空海」

1	空海、その悟りへの道のり	12
2	SUPER☆star「空海」の超人伝説	17
	空海伝説①	
	弘法清水の話 こうぼうしみず	17
	「満濃池」 まんのういけ 「満濃井戸」の話	19
	「五筆和尚」 ごひつわじょう の話	24
	「磐梯山」 ばんだいさん の妖怪の話	27
	善女龍王 ぜんにょりゅうおう の話	29
	「十夜ヶ橋」 とやがばし の話	31

第2章 空海と願望達成術、そのおしえ

- 1 仏教の秘「密」のお「教」え 密教とは 36
- 2 空海の「三密・六大・四曼」について 45
- 3 不動明王の力を得る護摩行・加持祈禱 51
- 4 奇跡の瞬間に出会える「火渡り」「星まつり」 54
- 5 山伏、その修業で会得した力とは 59

第3章 玄津、空海にみちびかれて

- 1 私が僧侶の道へと進んだ理由 64
- 2 空海から408代目となる崇峰管長猊下との縁 70
- 3 千光寺総本山と南紀白浜水晶山・別格本山について 74
- 4 ほんの少し雑字を 74
- 5 なぜ坊主はボウズなのか？ 77

第4章 空海の教えを沖縄から世界へ

1 SNSで発信する平和への想い 84

2 大田稔少将と沖縄戦没者供養 86

コラム 沖縄、米軍基地、戦争の傷痕と平和 92

3 「日韓友好平和の搭」と「世界人類平和祈願の鐘」 93

4 仏教が脈々と息づくアジアの国々と平和活動 97

5 令和しあわせの会の活動 102

コラム 「令和しあわせの会」会長・光永勇氏

(千光寺信徒総代)について 110

第5章 空海、心のふるさと和歌山・南紀白浜温泉

「三鈷杵」の話

112

「姿見の井戸」の話

115

1 空海が信仰の抛り所とした高野山とは

117

2 世界に注目される紀伊半島の魅力

131

空海伝説③

和歌山に残る「空海伝説」の足跡

148

コラム 南紀白浜温泉の「松下村塾」を目指して

152

第6章 空海にしたしむ、千光寺

1 「空海のテーマパーク」を白浜に

154

2 千光寺の宝「空海像」について

162

3 空海との「同行二人」で祈願成就を

164

4 誕生月の観音さまについて

173

5 不動明王と如意輪観音、そして丸うさぎ

178

6 パワースポット・白浜千光寺の不思議を巡る

186

金剛靈力岩の粉末を持ち帰る

191

願いを叶えるための煩惱捨壺

194

洗心不動明王(お不動さん)六尊

197

水子供養の洗心六地藏菩薩

201

千光寺の3兄弟の一休さん

202

7 空海の教えを広めるために

203

コラム 沖縄の終戦記念日にて

208

第7章 空海の占星術「宿曜経」

1 空海が日本に伝えた「宿曜経」しゅくようきやう

210

2 空海の驚異の占い「宿曜占星術」の驚異の的中率

215

3 良き縁を見つける「引き寄せ」の法則

226

おわりに

第1章

SUPER☆star「空海」

SUPER☆
star



「空海」

1 空海、その悟りへの道のり

空海ってどんな人？昔、学校で習ったことはあるけど、詳しくは知らないな……という人も多いのではないでしょうか。そんな方々のために、まず、空海とその教え「真言密教」について、お話しましょう。

後ほど、空海伝説等で詳細を説明しますが、その前にまず、申し上げたいことがあります。空海をひと言で表現するなら、2000年以上前の古代インドから伝わる仏教の秘「密」のお「教」え『密教』の奥義を極めた「超人」、今風に表現すると「超能力者」である、言うことです。超能力と聞くと、眉をひそめる方もいらっしゃるかもしれませんが、空海その力は、極めて理論的かつ科学的な事実裏打ちされたものです。

空海が日本で体系化した真言「密教」とは、大日如来を最高位とし、その力により、あまねく世界を救うと考える仏教ですが、大日如来の「大日」とは太陽のことを指します。人間界や自然界は、強大なパワーを持つ太陽の恵みを受けており、非常に理にかなった考え方だと言えるでしょう。

実は、20世紀の天才科学者・アインシュタインは、空海と極めて似通った宇宙観を持っていたと言われております。現在の物理学の常識である宇宙創生のシステムと、空海が説く真言密教の曼荼羅の教えは、非常に類似点が多いことに驚きます。

そう考えると、空海が民衆に披露してきた数々の「奇跡」や「超能力」による伝説は、論理的、科学的根拠に基づいたものであることがわかりになるでしょう。

その奇跡を起こす超能力の根本は、大日如来のパワー、すなわち、大日（＝太陽）の力でございます。私、玄津は、このパワーを「大日力^{だいにちりよく}」と呼んでおります。

空海は、この「大日力」を用いて、各地に奇跡を起こし、人々を幸せに導きました。そんな空海の足跡を、少したどってみることにしましょう。



空海がこの世に命を授かったのは、今から1200年以上前の774年のことです。四国の讃岐国（香川県善通寺市）に生まれ、幼名は真魚まおと言いい、「仏教」を学ぶ修行に入りました。19歳の時に四国、土佐の室戸岬の御厨人窟で修行《虚空蔵求聞持法こくうざうぐもんじほう》南牟阿迦捨揭婆耶淹阿利迦麻喇ナウボアハシヤギラバヤオシアリキマラ慕唎莎縛訶ボリソワカ》古代インドのサンスクリット語を100万回唱えまばゆい光を見た瞬間、口にいきなり明星（虚空蔵菩薩こくうざうぼさつの化身）が飛び込んで『空海』は悟りを開きました。

その後は、四国や和歌山で厳しい山岳修行を行いつつ、本物の仏教を探し求めて奈良等の寺院で経典を学び、その修行中、訪れた久米寺で、仏教の秘密の教え、密教の経典『大日経』が真実の教えであると感銘した空海は、密教の師を求めて、遣唐使として唐（中国）に渡りました。当時、栄華の絶頂を誇る首都・長安に入り、青龍寺の恵果和尚に師事します。そこで、仏教の奥義「密教」を伝授され、3000名ともいわれる弟子を出し抜いて日本人の「空海」が八祖はっそ（八代目）の継承者となったのです。

なお、余談ですが、中国で大ヒットし、日本国内は2018年2月に封切られた『空海―KU―KAI―美しき王妃の謎』という日中合作映画があります。ご覧になられた方もいらっしゃると思いますが、空海が長安の都に滞在した時期を描いた壮大なフィクションです。

謎に満ちたストーリー展開で、エンターテインメント性の高い内容でよい映画だと思います。た

だ、肝心の空海の真言密教の秘技、奥義、加持祈祷などが映画の中で披露されていない…。私個人としては、それが少し残念ではあります。

話を空海の人生に戻します。

中国で密教の秘儀・奥義・全ての経典を伝授されたのち、空海はその教えを日本に持ち帰ります。そして、42歳の時、ついに和歌山県の高野山に入山を果たします。真言密教の総本山として、金剛峰寺を建立されました。

それから、護摩行（加持祈祷）により、日本全国津々浦々、人々のあらゆる問題を解決していきます。三千もの奇跡を起こし、現世利益、つまり生きている『今』こそ、幸せになる。そんな教えを世に広めていかれました。その過程で人々を救い、世の平和のために全身全霊を尽くされた後、食を断ち835年2月21日から、水さえもを断つことを遂行します。「即身成仏」の究極の修行

超天才が挑む、史上空前の映画

KU-KAI

空海

出演: 染谷将太 / 松坂慶子、阿部寛、火野正平、黄軒 (ホアン・シュアン)、張榕容 (チャン・ロン・ロン)
原作: 夢枕獏 (ゆめまくら ばく)「沙門空海・唐の国にて鬼と闘す」(角川文庫 / 徳間文庫)
監督: 陳 凱歌 (チェン・カイコー) 配給: 東宝 / KADOKAWA 空海 ku-kai 映画 <http://ku-kai-movie.jp>

祝 全国の東宝系の劇場で! ご覧いただけます。

平成30年2月24日(土)公開記念!!

大冒険絵巻!!



に入られたのです。そして、同年3月21日、62歳の空海は、永遠の禪定（ぜんじやう、心を迷いなく定めること）に入るようになりました。

逝去（せいぎよ）から千二百年以上経った今日もなお、高野山・奥の院で禪定を続けておられる。そう固く信じられているのです。

なお、カレンダーに記されている毎月21日は、弘法大師（お大師さん）の命日です。弘法大師は空海の別名ですが、昔からお大師さんに会える日、空海に願望成就のお礼をする日として人々に親しまれています。

『なむ、たいし、へんじやう、こんごう』と唱えることで、空海と一緒に願掛けや各問題の解決を行い願望が達成できる。これを『同行二人（どうぎょうににん）』と言いますが、実は、私が管長の役目を授かっている白浜の千光寺も「同行二人」が行えるパワースポットのひとつです。

後ほど詳しく説明させていただきますので、ご記憶にとどめておいてください。

さて、空海は、その超人的な活躍により全国各地で奇跡を起こしてきた人物でした。それは「空海伝説」として今なお語り継がれています。「弘法も筆の誤り」といった格言など、現代に生きる私たちに多くの教訓を残している空海。

その伝説の一端は、次の物語で詳しくお話することにしませう。

2 SUPER ☆ star「空海」の超人伝説

はるかな時を越えて私たちを魅了し続ける空海は、その生涯にわたり数々の伝説を残してきました。まさにSUPER ☆ starの言葉がびつたりの偉人でしょう。ここでは、そんな空海が各地に残した奇跡をいくつかご紹介します。

空海伝説①

こうぼうしみず
弘法清水の話

空海は、諸国行脚しよこくあんぎやの際に、各地で数々の奇跡を起こしています。とりわけ、「水」に関するエピソードが多いのが特徴です。それらは『弘法水伝説』として今に伝えられています。今から紹介するお話もそのひとつです。

富山県の上市町に、空海の偉業を称える「護摩堂」ごまどうがあります。その側には、清らかな「弘法大師の清水」が湧き出ています。富山の名水にも選ばれている、この「水」にまつわる物

語を紹介しましょう。

昔むかし、酷暑の真夏に、「密教」の布教活動をする空海がこの地を訪れ、ある老婆に水を求めました。老婆は、「少しお待ちください」と言いつて、遠くにある溪谷まで出かけていきました。溪谷に着くと、溪流から手桶一杯の水を汲んで戻り、空海に差し上げました。

この村には水源がなく、一杯の水を飲むのにも、遠い溪流までわざわざ出向いて水を汲まなくてはならない。そんな村人の苦労を知った空海は、やおら手に持っていた錫杖しやくじょう（僧侶が巡業時
持つ法具の杖）を地面に突き立てました。

すると、驚くことに清水が勢いよく吹き出すではありませんか。

水を汲んでくれた老婆も村人も大変喜び、その後、村人は、「弘法様の清水」として湧き水を大切に守っていききました。

空海は、湧き水を湧出させただけではなく、この村の人々の幸せを祈って「護摩行」（祈



願の行）を行いました。村人はその感謝を忘れないために、清水が湧く側に「護摩堂」を建てお祈りを捧げるとともに、子や孫に空海の偉大さを伝え続けました。

地元の人々の間では、この清水を飲むと頭が良くなると伝えられているそうです。今でも、こんこんと湧き出る清水は、訪れる人々をなごませ、地域が誇る観光スポットになっています。こうした、空海が錫杖を突いて清水を湧かせたとされる『大日力』の伝説は、全国各地に約1500以上もあると言われています。「弘法清水」「弘法水」「弘法井戸」などと呼ばれ、今なお、空海は「お大師さま」として、地元の人々の尊敬を集めているのです。

「満濃池」まんのういけ「満濃井戸」の話

四国の香川県は古来より雨が少なく、毎年のように干害かんがいに悩まされてきました。そのため、農業用水や飲用水確保を目的に多くのため池が築造されてきました。

香川県の調査によると、県内のため池は一万四千以上もあるそうです。その中でも、日本最大の灌漑用かんがいのため池が「満濃池」です。『空海伝説』の中で最も有名なエピソードのひとつでしょう。



護摩行（加持祈禱・祈願の行） 白浜千光寺本堂に於いて（令和元年6月23日撮影）

満濃池は、大宝年（700年代初期）に築造されました。しかし、当時の土木技術の未熟さもあって何度も決壊し多くの人々が命を落としました。その度に修復工事を行うという繰り返し。やつとのもので、何とかその役割を果たしてきました。ところが、818年に、大規模な決壊が起こります。

余りにも甚大な被害であったため、修復は不可能だと絶望感が漂っていました。

そんな時、中国で「密教」を会得して帰国した空海に白羽の矢が立てられたのです。満濃池の問題解決の全てが空海に託されることになったのです。

実は空海は、唐で密教を学びながら最先端の土木技術も同時に修得していました。その上、密教の秘儀『加持祈祷（護摩焚^たき）』によつて、そして何よりも不思議な大日力（超能力）により、奇跡（超常現象）を起こして人々を助けておられる。そう当時は崇められていたこともあり、人々の期待は大いに高まりました。

空海はその大きな期待に、見事に応えます。今まで何度も決壊していた原因を解決する最新工法と護摩焚き（護摩行）を用いて、わずか半年足らずで工事を完成させたのです。その修復箇所は千二百年経った今でも、当時のままの原型を保っているそうです。

なぜ空海は、この難工事を奇跡とも言えるほど短期間で、完璧に成し遂げることが出来た

のでしょうか。

それは、空海の密教の秘儀『加持祈祷』による叡智・靈力が大いなる力すなわち「大日力」となったことは疑いないでしょう。それに加えて、何より、工事に携わった人々が空海に魅了されていったことも大きな理由ではないでしょうか。

空海は全身全霊で、満濃池のそばに設営された護摩壇の炎に向かって、真言をひたすら唱えていました。工事の期間中、日夜を問わず、働いている方々に密教のオーラパワーを与え続けたそうです。加持祈祷による「大日力」が村人に伝わり、工事現場の熱気は凄まじく、村人達は、空海の真言を真似ることにより大合唱となり歓喜に満ちていたと伝えられています。

満濃池は、歴史が古く大きなため池だけに、今に伝わる空海伝説がたくさん残っています。そのひとつをご紹介します。

満濃池からはかなり離れています、瀬戸内海に浮かぶ「高見島」という小さな島があります。その高見島に、今でも「満濃井戸」と呼ばれる井戸があります。

昔むかし、讃岐地方は何日も雨が降らず、ひどい干ばつに見舞われました。高見島でも井戸が干上がって、島の人々は飲み水にも困る有り様でした。我慢の限界に達した島の男の一

人が、「満濃池なら水があるかも知れない」と、一升びんを持って海を渡り、満濃池へと出かけていきました。

さすがは空海が復活させた満濃池です。干ばつにもかかわらず豊かな水を満々とたたえていました。高見島からきた男は、「さすが、お大師さんの池だ。びくともしていないわ」と、一升びんを池のなかへ沈めました。「お大師さん、一升瓶に一本だけお水をいただきます」とつぶやきながら水を汲み、大事に抱えて高見島へと戻りました。

ところが、舟が高見島に着き、男が舟を降りたときのことです。うっかり、一升びんを取り落としてしまったのです。水はあっという間に地面に吸い込まれていきました。「しまった！ お大師さんの水をこぼしてしまった」と後悔しましたが後の祭りです。

それでも男は、戻るはずがないと分かっているが、それでも諦めることが出来ず、水が染みこんだ地面を掘り始めました。ところが、何とそこから真水



が湧き出てくるではありませんか。それを見ていた周りの島人達は、目を疑いながらも歓声を上げて大喜びしたということです。以上が、空海にまつわる「満濃井戸」の伝説です。

この話には後日談があります。それから、しばらく経ったある日、満濃池の管理担当者から、「満濃池の水利費を支払ってほしい」との通知が来ました。島人たちは、水を止められてしまつては大変と、定期的に水利費を支払うことにしたということです。

今日なお水利費を払っているかどうかは、分かりません。ただ、現在でも空海伝説の「満濃井戸」の水は豊富でおいしいそうです。

「五筆和尚」の話

空海は、書でも人並み外れた天賦てんぷの才能を発揮しました。その名筆ぶりは存命当時より評判で、後世にさまざまな伝説を残しています。後に、書に関する有名な格言が生まれたのは周知のとおりです。「弘法も筆の誤り」「弘法筆を選ばず」などは、聞いたことがあるのではないのでしょうか。

この、空海の書に関する伝説をひとつお教えしましょう。



唐の都、長安の宮中でのことです。二間にわたる壁面一面に王羲之^{おうぎし}の見事な書が書かれていましたが、長い歳月により文字が消えてしまっていました。

そこで、順宗皇帝が修復を命じましたが、王羲之の名声が余りにも高いため、誰も筆を取って書き直す人は現れません。

困った順宗皇帝^{じゆんそう}は、人づてに、当時日本から留学していた空海が筆の名人であると聞きつけます。そして、「空海を宮中に招け」と、命じたのです。

宮中に上がった空海は、壁をにらんだかと思うと、無言で両手両足に筆を持ち口にも筆をくわえ、壁に向かって静かに座りました。そのただならぬ様子に、居合わせた人々は「いったい何を始める気だ」と、息を潜めて空海を見つめます。

すると、空海はやおら立ち上がり、五本の筆を同時に動かして一気呵成^{いっきかせい}に五行詩を書き上げてしまいました。それは、五本のうち一本は詩の一行目を、二本目は詩の二行目をかき分ける神業を見せつけたの

です。

空海が、両手両足と口にくわえた五本の筆を自在に動かし、同時に異なる文字を書き綴っていく様子を見た人々は皆びつくり。わが目を疑いながらも、感嘆の声を上げたのでした。

ざわつく周囲には目もくれず、空海は間髪あけずに、さらに別の一間に墨汁を注ぎます。すると、たちまち巨大な「樹」の一字が浮かび上がったのでした。

順宗皇帝は、その秘技に大いに驚き、空海の才能（大日力）は天から与えられたものに違いないと褒め称えます。空海に「五筆和尙」の称号と、菩提樹の種で作った数珠を与えたと伝えられています。その数珠は現在、京都の東寺に保管されているとのことです。

空海の書として現存しているものに、天台宗の開祖・最澄に宛てた手紙『風信帖』があります。また、空海が高雄山寺（神護寺）で、真言密教の秘法である灌頂を授けた人々を記した『灌頂歴名』も現存しているもののひとつです。

いずれも、国宝に指定されているものばかり。唐（中国）の順宗皇帝が感嘆した筆跡を、現代に生きる私たちも見ることができます。うれしい限りです。

「磐梯山の妖怪」の話

ばんだいさん

その昔、会津（福島県）の磐梯山に、「手長」「足長」と呼ばれる夫婦の妖怪が住んでいました。

しばしば悪行を働き、「足長」は、長い足を伸ばして、磐梯山から隣の博士山や明神嶽まで、ひとまたぎで歩き、空を真つ暗にして大雨を降らしていたそうです。その叫び声は、それはそれは恐ろしいものだったそうです。一方、「手長」の方は、長い手で猪苗代湖の水をすくっては顔をぎぶぎぶ洗い、会津盆地にばらまいていたと伝えられています。

この妖怪たちが息を吹きかけると大風が吹き、水をばらまくとたちまち大雨になりました。そのたびに大洪水が起こり、作物に大被害が生じて村人は弱り果てていました。

そんな時、諸国行脚を続けていた空海が、かの



地に立ち寄ります。話を聞いた空海は、「私がその妖怪を退治しましょう」と、明言したのです。村人は引き留めようとはしましたが、空海は、真言（古代インドのサンスクリット語）を唱えながら磐梯山を登っていきました。

「手長」「足長」のすみかに着くと、「お前たちは出来ないことが無いと言っているそうだが本当か」と問いたしました。即座に妖怪たちは、「俺たちに出来ない事は何も無い」と言い放ちます。それに対して空海は、「ならば、大きくなれるか」と挑発しました。

すると、妖怪たちは、瞬く間に天まで届くほど手足を伸ばして巨大な姿へと変化しました。それを見た空海は、すかさず、「ならば、小さくなれるか」と問いかけました。懷から小さな壺を取り出し、「この壺に入るのはお前達には無理だろう」とさらに挑発します。すると妖怪たちは、簡単だとばかりに壺の中に自ら飛び込んだのです。

それを見届けた空海は、すぐさま壺の蓋をギツチリと締め、真言を唱えて大日力により固く封印しました。そして、その壺を磐梯山の頂上に埋めました。

それ以来、会津は元の豊かな里に戻り、人々は安心して暮らすことが出来たということです。磐梯山には、その他にも、空海にまつわる逸話がいくつに残っています。磐梯山を七回りするほど巨大な妖蛇を、空海が磐梯西麓の烏帽子ヶ嶽に鎮めたという伝説もそのひとつです。

その際に、空海は密教興隆（修行）の場を探すため三
鉈杵こしきを空中に放ちました。その三鉈杵は、何と退治した
妖蛇の尾の端があつた場所に落ちたそうです。空海は、
その地に一大伽藍がらんを建立しました。このお寺は「尾寺」
と名付けられ、地元の人々の真言密教信仰の中心となり
ました。

そんな逸話が数多く残る磐梯山ですが、登山者で賑わ
う観光名所となっています。磐梯山の頂上にあと少しと
いう所には「弘法清水」があります。登山者はこの水で
勇気づけられ、力を盛り返して頂上を目指すそうです。

善女龍王ぜんによりゆうおうの話

その昔、平安京の時代、神泉苑という池には、善如ぜんによと
呼ばれる竜王がすんでいる。そんな噂が、ささやかれて



いました。

天長元年（824年）の春のことです。

長い間、雨が降らず日照り続きで庶民が苦しんでいました。そのため時の天皇が、その神泉苑にて雨乞いをせよと、真言密教に通じた高僧である西寺の守敏しゅびんと東寺の空海の二人に、祈祷の雨乞いを命じたのです。

その命を受け、最初に西寺の守敏が7日間雨乞いを行いました。ところが、ほんの少し雨が降っただけの結果に終わります。

次に空海が7日間の雨乞いを実施しました。今度は、まったく雨が降りません。

「何かがおかしい」と、空海が法力で調べてみると、なんと、守敏の仕業で全国すべての龍神が水瓶に閉じ込められていることがわかったのです。

唯一、「善女龍王」だけは守敏の呪力から逃れて、天竺てんしゆく（北インド）の無熱池にすることが判明しました。



そこで空海は、善女竜王を神泉苑に呼び寄せるため、さらに2日間の延長を願い出ました。改めて祈雨の修法護摩行（加持祈祷）を執り行ったところ、長さ九尺（約2・7メートル）ほどの金色の竜が姿を現し、たちまち雨が都の大地に降り注ぎました。しかも、三日三晩、日本中に恵みの雨をもたらしたのです。

高野山に参詣すると、不動堂の南に「蓮池」があります。その池の中央にある小島に、善女龍王を祀る社がありますが、これにも降雨に関する逸話が残されています。

蓮池の小島にほこらを造営した際、善女竜王像をお祀りしました。すると、瞬く間に大雨が降りだしたと言いつづえられています。

このように、祈雨の修法（大日力）により、恵みの雨をもたらした空海。龍神を操って干ばつに苦しむ地域に大雨を降らせた空海伝説は、全国各地に残されています。

「十夜^{とや}ヶ橋^{がばし}」の話

四国の愛媛県の大洲市に、「十夜ヶ橋」という橋があります。その橋の下には、空海が野宿をして寝ている姿の石像が建立されています。

なぜ、こんなところに寝姿の空海が……。そんな疑問にお答えしましょう。

今をさること約千二百年前、空海は色々な問題を大日力により解決に導くため四国の各地を行脚していました。この地を訪れた時、日が暮れたので民家を探しましたが、人氣がなく、なかなか民家は見つかりません。

そんな時、ふと見渡すと、小川にかかる小さな橋があるのを見かけます。空海は仕方なく、その橋の下で一夜を過ごすことにしたのです。

その日は夜露^{よつゆ}に身をさらしながら、空腹と寒さにじつと耐えた空海。夜明けをひたすら待ちかねて、たったの一夜を十夜にも感じたと思えられています。

やがて夜が明ける頃、空海はひとつの歌を詠みました。

『行き悩む浮世の人を渡さずば一夜も十夜の橋とおもほゆ』



これが、現在、永徳寺えいとくじの御詠歌ごえいかと呼ばれる歌です。

それから空海は、久万菅生山くますけうざんに旅立つことになりました。

この歌は、「悩み迷う人々を悟りの世界に導くために成すべき事を考えると、一夜が十夜も感じるほど長い、長い夜であった」という想いが込められた歌です。空海の多くの人々を救済する強い情熱が伝わってきます。

こうした言い伝えから、この橋はいつしか「十夜ヶ橋」と呼ばれるようになりました。その後、橋のたもとに大師堂が結ばれ、橋の下には横たわって野宿をする空海の石像が置かれるようになったのです。

この十夜ヶ橋を渡るお遍路さんは、橋の上を通る時に杖をつきません。「もしかすると、空海が橋の下で寝ておられるかも知れないから」というのがその理由です。

いつのまにか、その習慣が広がり、今では四国の遍路さんの途中に掛かっている橋を通るときは、どの橋であつても空海が安眠できるような杖をつかない。そんな慣わしが生まれています。

現在、十夜ヶ橋の下は「修行の場」として国内で唯一公式に「野宿」が認められています。

ここで一夜を過ごす巡礼者のために、十夜ヶ橋納経所ではゴザを貸し出しています。

実は、十夜ヶ橋は、「永徳寺」えいとくじの境外仏堂としても有名な場所です。四国八十八箇所霊場に数多くある番外札所の中では、一番人気の番外札所となっています。一度、訪ねてみてはいかがでしょうか。合掌



第2章

空海と願望達成術、そのおしえ



空海と
願望達成術、
そのおしえ

1 仏教の秘「密」のお「教」え密教とは

空海（弘法大師）が、日本に帰国後に「密教」の奥義を理論的に大成させた「真言密教」「真言」とは、何であるかお教えしましょう。

不思議な言葉「真言」の説明に入る前に、仏教の成り立ちからご紹介しましょう。

2000年以上前のインドの話です。仏教の始祖「お釈迦さま」の呼び名は、「悟り」「目覚める」を意味する、サンスクリット語の「ブドウ」に由来します。古代インドの信仰において、すぐれた修行者や聖者に対する呼称でした。仏教で用いられる場合は、「ブツダ」釈迦（お釈迦さま）「ゴータマ・ブツダ」であり、「仏陀」の名前で表されます。そして、仏陀の略称が仏であり、「仏教」や「仏像」などの用語は、この尊称からきているのです。

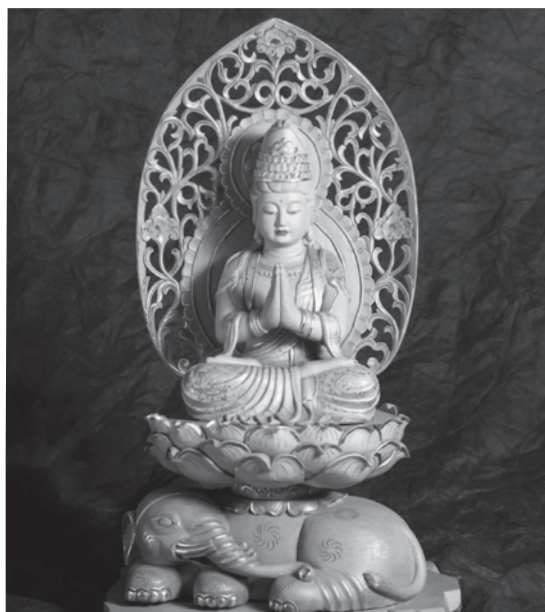
さて、そのお釈迦さまについてお話します。

お釈迦さまの母であるマヤーがブツダを出産した際に、「生まれてすぐに7歩だけ歩いて右手で天を、左手で地を指し、『天上天下唯我独尊』と唱えた」という伝説が残っています。

その後、修行中の35歳のシッダールタ（悟りに達する前のお釈迦さま）は、ナイランジャナー川で沐浴したあと、ピッパラ樹の下に座り、瞑想に入って悟りに達して仏陀（お釈迦様）となった（成道）とされます。

その後、解脱（悟り）にいたるのですが、一般の人々に対するお釈迦さまの説法を体系的にまとめたものが仏教経典です。

それでは、「真言」とは何でしょうか。お釈迦さまの「真実の言葉」を意味し、その言葉には計り知れない深い意味と力が備わっているとされます。その隠されたパワ―の秘密のを知ることが出来る教えこそが「密教」なのです。



空海の密教では、宇宙全体のすべてをあまねく照らすという意味を持つ、本尊の「大日如来^{だいにとくようらい}」が、全ての徳を備えた最高位の存在となっています。そして、現実世界のこの身のままですぐに仏になること、つまり、「即身成仏^{そくしんじやうぶつ}」と現世利益^{げんせじりやく}（生きている今、しあわせになる）、人々を幸せに導く力を授けることができる大日如来は、黄金色^{こがねいろ}に輝く観音さまや、不動明王など色々な仏さまの姿に変身して現われるとされています。

つまり、すべての仏さまは「大日如来」の化身として人々を救うために存在しておられるのです。そして、いつ何時でも、大日如来は私たちを見守り、迷い悩む人々に幸せへの道を示してくださいさる唯一無二の尊い仏さまなのです。

本来私たちは、生まれたときから仏と同じ心（善）を持っています。しかし、日々の多忙な生活の中で、その心は埋もれてしまい多くの迷い（悪）を抱えてしまいます。そこで、空海の教えに従い善行を積むことで、本来の心を取り戻して「悟り」に導いていただけるのが真言密教の根



源仏とされる「大日如来」尊なのです。

こうした考え方を基本に、空海は、密教の教え、何ものにもとらわれない絶対の自由（大空位）を、こう説明しています。

観音さまや「仏陀^{ブツダ}をはじめとする特別な人」の行いは、「現世利益^{げんせいりやく}」を實踐する大日如来の法身（真理そのもの）と同じであるとされています。つまり、その観音さまや空海など高僧の「悟り」こそ、人々を幸せに導くことができる「大日力」の力なのです。

あるがままの姿の現実の人間は、仏などとはまったく無縁の存在のように生きています。しかし、本来の姿は「仏の智慧^{ちえ}」をその身に備えていると言われています。

ところが、普段は仏教の「因果律^{いんがうりつ}の根源」ともなっている物質的、肉体的な低次元の欲望にとらわれています。そこから脱し、本来の人の持つ特殊な能力を体得（体感）することが大切です。つまり、物質世界に生きながらも、色々な問題から逃げたり、くだらないことにとらわれない意識をもつ必要があります。

これこそが、ブツダ（お釈迦さま）の境地である「空観の獲得」であり、意識の改革なのです。

つまり、仏の智慧（超越的感性、神仏の思考性）をもって、ごく自然にそうしたことが体現さ

れたとき初めて、「何があっても諦めない、様々な問題を即座に解決出来る大日力」を体感（成就）出来るということになります。

その具体的な方法論が密教の数々の教え、そして、実践が修行（苦行）や空海の護摩行（加持祈祷）と言うわけです。

空海が引用した『菩提心論』によれば、一般的な人々が、『悟りを得る』ためには、「真言密教の中にも即身成仏する」。つまり、「密教」しか、色々な問題を解決することの出来る大日力を修める方法はないと結論づけております。

「密教」を学び超人的パワーを授かる者は、悪しき道を歩むことなく「人として、正しい道を歩む」境地、「悟り」を垣間見ることが出来るようになるのです。

私は僧侶として生きるまで、何度も成功と挫折を繰り返してまいりました。ただ、そのおかげで「悟り」、つまり空海の説く「大日力」を得ることが出来ました。

「大日力」は通常、修行（苦行）や護摩行などを積み重ねることで自分のものとする事が出来ます。一方で、日常生活の中で身につける事が出来る力でもあります。空海は、人は善の心を持つて生まれながら、日々の生活の中で多くの迷い（悪）にとらわれてしまうものだとして述べております。その負の連鎖を断ち切り、しあわせを得るためには、日々の問題から逃げず、些末な物

事にとらわれない態度を持つことが重要です。

そうした意識を持つて様々な体験（修行）を経ることで、常識的な思考から解き放たれ自由になり、多種多様な問題を解決に導く特殊な能力が不思議と芽生えます。それはすなわち、「大日力」を修得しているのです。

ひと度「大日力」を体得すると、二度と迷いの世界に戻ることはありません。ビジネスなど現世での成功を手に入れ、他者をも、しあわせに導くことが出来るようになるのです。

真剣に空海の真言密教を学び、一度でもその「悟りを得る」境地を体験することが出来た者に對して、空海はこう言い残しております。

「その心身に起こった体験の感覚により、たとえ修行を終え、僧侶から一般人として俗世に立ち戻ったとしても、生きながらに仏心『悟り』を会得しています。大日力により、多くの人々をしあわせへと導けることでしょう」

次頁の「般若心経」は、約8万4千もの仏説の中より「仏陀の智恵」を276文字に短縮された經典で、『仏教』の根源と考えられております。



『般若心經』

「佛說摩訶般若波羅蜜多心經」

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子
色不異空空不異色 色即是空空即是色 受想行識亦復如是 舍利子
是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中 無色無受想行識

無眼耳鼻舌身意 無色声香味觸法 無眼界乃至無意識界 無無明
亦無無明尽 乃至無老死 亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無
得以無所得故 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故 心無罣礙 無罣礙故
無有恐怖 遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃三世諸佛 依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提 故知般若波羅蜜多是大神呪是大明呪是無上呪
是無等等呪 能除一切苦 真實不虛 故說般若波羅蜜多呪 即說呪曰
羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶 般若心經

般若心経には、観音さま（菩薩）の元のお姿である大日如来（金剛界曼陀羅）の智慧が凝縮され、計り知れない深い意味と超常現象をおこす「大日力」が秘められております。いわば、般若心経の主人公は観音さま。白浜千光寺に、黄金色こがねいろに輝く十二尊もの誕生月の観音さまが建立されているのは、そのためでございます。

般若心経を唱え、その内容を深く考えることで一切の既成概念から自由になり、「本当の自分」に出会えることとなります。

では次に、この観音さまが持つ力「菩薩心」「慈悲心」について、少し詳しく述べさせていただきます。

「観音さま」は一般的な呼び方であり、正式には観自在菩薩、または観世音菩薩と言います。古代インドのサンスクリット語では、「アヴァ（＝あまねく）ローキタ（＝観る）イーシュヴァラ（＝自在者）」。「自在に観ることのできる菩薩」という意味になります。

どこに、どのような苦悩にあえいでいる人がいるのか。いかなる助けを求めているのか。観音さまは、それら全てを見渡せるとされ、一人ひとりの「心の声」を受け止めて、仏の世界と、人間の迷いの世界とを自在に結び悩み苦しむ人々を救う存在と言われております。

ギリシャ神話の神々の一人に、アポロンという神さまがおられます。空海は観音さまを、この

ギリシャの神と関連付けております。実はギリシャ神話では、アポロンは真言密教の根源仏となる「大日如来」と同じ位置づけの神。つまり、すべての観音さまは、大日如来の化身とされることから、すなわち、「アポロン（大日如来）の如く、過去・現在・未来の三世を見通される存在」なのです。

では、そもそも観音さまと同意語の観自在菩薩・観世音菩薩の「菩薩」には、どのような意味が秘められているのでしょうか。サンスクリット語では「ボーディ（＝悟り）サットヴァ（＝人）」と言い、「悟りを求める人」を意味します。そして、こうした菩薩の心を「菩薩心（仏心）」と呼びます。

空海の著述「十住心論」でも、「真の自分を求め、他を愛し他を生かし、世界の平和と調和に貢献し献身する心」を発願し、歩み出そうとする心こそ「菩薩心」であると述べられています。こうした「菩薩心」を持ち、自らを仏の子としての本性に目覚め、慈しみの心で「即身成仏」を願い、内なる幸福と外なる平和のために、人々のために生き尽くした方こそ空海であったのです。「観音さま」もまた、「菩薩心」を持って世界人類の救済（済世利民）のために働いておられます。「菩薩心」とは、慈悲の心と言つてよいでしょう。「慈」とは、相手を優しく包み込み慈しみ、相手の悲しみや苦しみ辛さを全身全霊をもって受け止める。そして、その痛みを除いて癒そうとす

る「ぼつくようく拔苦与樂」の慈愛の心を観音さまは持つておられるのです。

観音さまの力について書かれた「観音經」には、「未だわた度をわた得ざれども、まず他をわた度せ」という言葉がごございます。つまりは、「自らのことは捨てて後回しにしても、まずは他人を先に救いたい」という、「菩薩心」を表現しております。自分だけでなく他者の内なる「仏性の光」（＝菩薩心）を真摯に信じて生きることです。初めて、空海が説く「即身成仏」の境地にまで到達することができるとのことです。

現代はこの真逆で、他人を蹴落としても自分だけ助かりたいという利己心が全面に出てしまう時代でございます。しかしながら、現代人が本当のしあわせを手に入れるために必要なのは、この「菩薩心」の光ではないか。観音さまは私たちに、そう語りかけておられるのです。

2 空海の「三密・六大・四曼」について

般若心経を唱え、その内容を深く考えることで一切の既成概念から自由になり、「本当の自分」に出会えることとなります。

空海は、その教えの中で、宇宙は不断に活動し作用しあっており、その働きを、物質的側面〓身密、波動的側面〓口密、精神的側面〓意密の三方向から分析しています。それを、「三密」といいます。

そのひとつ、「口密」には、声音を発するという絶対者（強い意志を持って願掛けされる方）の意思が介在します。音声を、いわば宇宙に向けて放った「大日如来」の行いであるとされております。つまり、人が発声する声音には、「意味」という作用が備わっていて、大宇宙に向けて放射したことになるのです。

人が発声する声音には、この波動的エネルギーと「大日如来の慈悲と智慧」が同時に備わっているため、修行者は口に真言を唱えることで大日如来の化身と化すことができ、大日力が備わる。そのように考えられております。

真言の波動的エネルギーに関しては、私なりの表現をしてみましよう。

「電子レンジは火を焚いていないのに、食べ物熱くなる。この現象と同じく、電子の波動的摩擦により物が熱くなる。つまり、真言（古代インドのサンスクリット語）を強い意志を持って、宇宙に声音を発する事により、想いは大日如来さまに通じる」

そのような行為だと考えております。

さらに声音には、太古の昔から、「意味」を伝えるという作用が備わっています。強い意志を持つて願掛けするために真言を唱えると言うことは、大宇宙に向けて、口に真言を唱えること。そしてそれは、大日如來の化身と化し波動的エネルギーは修行者の「大日力」の源となり、大日如來の慈悲と智慧が修行者の心の宝蔵を開きます。これが空海の「口密」の秘儀ということになると教えています。

それでは次に、「六大」とはなんでしょう。

森羅万象しんらばんしやうをあらしめている最も根源的な本体を指し、「地・水・火・風・空・識」の6つの『種』で表します。

これらが六日如來となり、宇宙や世界となり、人間となり、この宇宙に存在します。つまり、この世に、六大以外のものはないというのが、仏教の奥義、真言密教の思想です。

『曼荼羅まんだら』とは、仏の悟りの境地である宇宙の真理を絵で現したものです。「密教」では、大日如來を中心に諸仏の集会する樓閣を模樣的に示した図像（本書の48ページをご参照ください）。空海は、「密教の教えを言葉で伝えるのは難しい。だから絵で学ぶのが良い」と、中国からの「金剛界曼荼羅」と「胎藏界曼荼羅」を持ち帰りました。二つ合わせて「両部曼荼羅」と言います。その悟りの境地が「四曼荼羅」です。では、「四曼荼羅」とは何でしょう。



白浜・洗心不動尊 千光寺に展示されている曼荼羅（下・金剛界曼荼羅、上・胎藏界曼荼羅）
 本書第7章（210ページ参照）、空海の宿曜経占星術の27宿も胎藏界曼荼羅に描かれているとの言い伝え
 があります。

万物の本体は、すでに説明した「六大」ですが、六大は何らかの形となって現れます。その相を、空海は「四曼荼羅」という言葉で表現しておりました。それは、4つの形で現れるとされます。第一の形とは、「そのまま」で出現します。大日は大日のように、観音は観音のように、あなたは、あなたがそのままだと現れるという意味です。その全体像を「大曼荼羅」といいます。

第二の形は、神仏の誓願を象徴する仏具（三昧耶さんまゐ）によつて表現します。これを「三昧耶曼荼羅」と言います。

より根源的なレベルまで意味を抽象化し、その働きなどを象徴する梵字ぼんじ（古代インドのサンスクリット語）を用いて表現されるのが、第三の形となります。その全体像を「法曼荼羅」といいます。第四の形は、いかなる差別も区別もなく、生き生きと活動して止まない世界そのもののことで、「羯磨（カルマ業）曼荼羅」といいます。カルマは、万物を活動させ、形を与える原動力によつて現れた世界そのもの。これが、「仏の曼荼羅」の世界ということになります。

このような四曼荼羅に描かれた図柄を通して、人は宇宙の象徴のすべてを理解します。そして、究極の曼荼羅とは、世界そのもの、心そのものである。そう『空海』は語っておられます。

密教の修験者は、瞑想法である「阿字観（50ページ写真参照）」の「阿」は人知を超越したものを表し、「観想行かんそうぎょう」の本尊として用いる梵字ぼんじである「阿字」。この文字の境地にいたる事こそ、「大

日力」を得る究極の目的です。そして四曼荼羅が表現する大宇宙の智慧に参入しようとしています。そして、最終的には悟りを開き、護摩焚きにより大日力を授かるうとするのが、真言密教の修行なのです。

余談ですが、和歌山県が生んだ超天才に、みなかたぐまぐす南方熊楠という方がおられます。熊楠は著名な植物学者でしたが、思想家でもありました。空海が日本に持ち込んだ真言密教の「曼荼羅」思想は、熊楠にも大きな影響を与えました。

宇宙そのものであり、すべての仏の根源仏である

「大日如来」から、直接秘密の法を学ぶ事ができる真言密教の思想は、熊楠が自然観察で直接体感した宇宙認識に合致したのでしょうか。彼なりのイメージを具現化した「南方曼荼羅」を世に残しています。

現在、その曼荼羅は、白浜町の南方熊楠記念館で見ることが出来ます。



3 不動明王の力を得る護摩行・加持祈祷ごまく

空海の真言密教の真髄とも言えるのが、秘技、護摩行・加持祈祷です。

最強の力を持つ不動明王へ願いを込めた護摩木を炎に投じること、大日如来の化身である不動明王の深秘の大日力が得られます。これこそが、靈驗あらたかな「願望達成術（HAPPY method）」なのです。

これまで、世界遺産となった高野山を訪れ、密教の本来の法力（大日力）を体感する護摩壇（火を焚く密教の仏具台）を見るにつけ、護摩行や加持祈祷を行うことは難しいかもしれない。そう私は考えていました。

靈峰雪彦山せつぎこさんの千光寺総本山の管長（代表役員）と

なった約20年前からの積年の想いを形にしようと、「すぐそばで参加、体験出来る護摩行」を意図し、千光寺の白浜別格本山の本堂の護摩壇とは別に、境内に



「第二洗心不動尊加持祈祷堂」を建立させていただき
ました。

護摩行では、参拝者の願望を記入した護摩木を「煩惱」、火を「智慧」として、智慧の炎で煩惱（さまざま欲望）を焼き尽くします。手に印（忍者が「忍法！」と、胸の前でするしぐさ）を結び、二千六百年前の古代インドのサンスクリット語（真言）を唱え、不動明王と一体化して大日力を発するのです。

それにより、願い事が叶い実行され色々な問題が解決します。「幸せになりたい」「合格する」「成功したい」と強く念じる事により、宇宙の法則である大日如来と、最強の不動明王からの大日力により、願望は必ず達成するのです。

また、護摩木のほか、後に詳しく紹介しますが、紀州手まりや御手玉のような丸い物を総称する千光寺の「丸うさぎ」に願い事を書き、神仏のご加護を願って不動明王の真言を唱える、白浜千光寺をお任せしている龍照住職による加持祈祷も行っています。

護摩木は、心願を神仏にお伝えするため火の中に投じますが、密教の秘儀・護摩行（加持祈祷）



後の「丸うさぎ」は、不動明王の念を注入した分身として扱われます。「参拝者ご自身の分身」として千光寺境内の不動尊堂に奉納することにより、祈願者をあらゆる災難から身を守ってくださるのです。

さらに、「良縁結び」の大日力により、大きな商談が成立したり、理想的な愛をはぐくむことが出来ると言われています。

古くからカレンダーに記載されていますが、毎月21日は『お大師さま』の日です。

千光寺では、空海の日である21日深夜から22日にかけて、野外で行う大規模な護摩祈禱「柴燈大護摩供」さいとうおほまぐ法要と火渡り術（星まつり）を執り行っています。

この護摩を焚く祈禱は、とにかく大迫力のひと言です。燃え盛る炎、山伏やまぶし（修験者）たちによる真言の祈禱が共鳴し、素晴らしい雰囲気となります。

不思議なことに、当日は、いつも世界平和を祈願するにふさわしい天候に恵まれます。屋外で点火された護摩壇は、みるみるうちに、すさまじい煙をとめない



ながら空に舞い上がる炎となります。この燃え盛る護摩壇の炎には、大日如来が変身された最強の不動明王が宿るのでしょう。

その凄まじい炎が空を焼き尽くす勢いが頂点に達した時のこと。奇跡のような神風が吹き、炎は昇龍となって出現するのです。

千光寺境内にただけで、空海（仏さま）の世界を体感し身体の芯からありがたい気持ちでいっぱいになります。そんな気持ちを実感出来る大イベントが「柴燈大護摩供」なのです。

除災開運、無病息災の御利益があり、あらゆる厄を落としや世界平和と参拝者の開運を願う「柴燈大護摩供」。一般の方々も無料で参加することが出来ますので、ぜひ、その大日力のパワーを体感していただきたいと思います。

4 奇跡の瞬間に出会える「火渡り」「星まつり」

白浜の千光寺で、私が現在には相談役を務める成田不動修験本宗の『山伏』により、2018年5月21～22日にかけて、境内が新しくなってから初めての柴燈護摩法要を執り行いました。大勢

の山伏（行者）が、豪快に炎をあげて加持祈祷を行う中、感動で胸がしめつけられるような出来事がありました。その話をご紹介します。

お寺の外周道路から、屋外での山伏による大きな護摩壇への火入れ準備の様子をじっと見つめている80歳半ばのご婦人がおられました。その姿に気が付いた寺務所の受付係が、「よろしかったら、どうぞ中に入ってご覧ください」と、声をかけたのです。

すると、笑顔を浮かべながらこちらに歩きかけたのですが、足がご不自由なのか歩くのが大変苦しそうな様子でした。そこで、受付係はご婦人の手を取り、ゆっくり境内にご案内して、椅子に座っていただいたそうです。

お話をうかがうと、そのご婦人は若い頃、マラソンランナーとして活躍されていたとのこと。しかも、オリンピック候補になるほどの実力者で、大きな大会にも出場されていたそうです。

高齢になられるにつれて、その健脚も、歩くのさえ困難になら



うとは思つてもみなかつただろう…。スタッフはそう思いながら、興味深くお話を聞いていたそうです。

ここからは、私が実際に拝見して大いに感動した、そのご婦人にまつわるエピソードをお伝えします。

柴燈大護摩さいとうだごまが大きな炎を燃やして焼き尽くされた後、山伏の手を忍者の様な素振りで「印」をむすび「エイ」の気合いとともに、いよいよ「火渡り」がスタートしました。希望された大勢の方々が、順番に火の道を渡り終えたときのことです。

80歳半ばの足が不自由なご婦人が、「ぜひ、私も渡らせてください」と申し出られたのです。この方こそ、かつてマラソンランナーであつた前手の女性でした。

それを聞いた女性の山伏は、「とても無理なのでは…」と心配しましたが、ご婦人は真剣な眼差しで懇願されます。その姿に心を打たれ、「一緒に渡りましょう」と、女性の山伏と寺務所の者がご婦人の両脇を抱えて渡ることになりました。

熱を持った火の道を、山伏に抱えられるようにして歩く光景に、回りを取り囲んでいた人々は皆、感激した様子で「頑張つて!」「もうすぐですよ」と、応援し始めました。

私も思わず手を合わせて、大日力により、「このご婦人の足が治りますように」「老後の日々が

幸せでありますように」と、不動明王に真言を唱えながら祈願しておりました。そのかいあつてか、ご婦人は無事に渡り終えることができました。

ご本人に感想をお聞きしてみると、満面の笑みで、こうお答えになりました。

「足は熱いとは感じませんでした。でも、心は熱かったです」

その一言に、女性の山伏に助けられながらも、自分の足で歩き遂げた達成感の深さを、しみじみと感じ入ることが出来ました。

杖をついても歩くのが困難な方が、必死になつて頑張り大きな挑戦を成し遂げたのです。どのような願いがあつて決心し、どのような深い想いがあつたのかは分かりません。ただ私は、このご婦人の強い気持ちは「お不動さん（不動明王）に確実に届いた」と確信しました。

これから洗心不動尊が、必ずや、このご婦人を助けてくれることでしょう。

火渡りのあとで、ご婦人を支えて火の道を渡った山伏は、「あの方が懸命に足を前に出そうとしていたのが、支えている私の手から全身に伝わって感動の気持ちでいっぱいになりました」と、私に素直な心境を語ってくれました。



見ていた私の気持ちも同じです。渡り終えたご婦人に、「どうか、いつまでもお元気で幸多い日々でありますように」と、心で唱えながらお見送りをさせていただきました。

ちなみに、このとき、ご婦人を支えた女性は、四国で20日間断食や、さまざまな修行をし、新聞にも報道されている有名な山伏（玄津的には超能力者）です。

また、これは後から聞いた話ですが、他にも同じように足の不自由な高齢のご婦人が、火渡りに挑まれたそうです。

そのご婦人は、行事が始まってから、まっすぐ護摩壇を見つめ続け、ずっと手を合わせて口の中で何かを唱えておられたそうです。火渡りが始まり、最初は火の道を渡る人々を眺めておられましたが、我慢しきれなかったのでしょうか。思わず気持ちがたかぶり、「私も渡りたい」と、口からついて出てしまいました。

それを聞いた若者が、「私が支えますので、一緒に渡りましょう」と声をかけ、いきなり靴下を脱ぎ始めました。若者は、ご婦人を抱き抱えるようにして火渡り場に行き、まるで実の親に親孝行をするかのように一緒に火の道を渡りきったそうです。

お二人の高齢のご婦人は、千光寺で柴燈大護摩供さいとうおごまくが行われる事をどのようにして知り、千光寺に來られたのでしょうか。どのような理由であつても、どうしても参加したい。そんな、相当強

い気持ちで来られたに違いありません。

そして、私が主導して、大勢の山伏が古式に則って不動明王に祈り、参加者の願いを祈願する様を見ているうちに、無理を承知で「私も火渡りをしなければ」と、思わず心が動いたのではないでしょうか。空海の真言密教は、こんなにも人々の心を動かす大日力（不思議な力）があるのです。

お二方は、思いがけず山伏の「火渡りの術」の修行を体験され、感謝で満たされたお気持ちで千光寺からご自宅に帰られたと思います。本当に、有難い出来事を経験させていただきました。

5 山伏、その修業で会得した力とは

日本各地の霊山と呼ばれる山々を踏破し、厳しい苦行を行い、自然の霊力を身に付けるために日夜修行に励む…。それが、山伏と呼ばれる人々です。

山岳修行によつて超能力を体得し、その法力を用いて呪術じゆじゆつ仏教の奥義を悟ります。「山に伏して修行する」ことから、山伏と呼ばれるようになりました。

その山岳信仰の対象は、一般の人々の日常生活からはかけ離れた「他界」に属する世界です。

山伏たちは、山岳という他界で修行することで靈力を体に吸収します。そして、他界と現代社会をつなぐ修験者としての自己を引き上げます。その結果、不思議な力（大日力）により人々に「しあわせ」を授ける存在、つまり修験道の指導者となるのです。

山伏は、「験を修めた者」という意味から修験者、一宗一派によらず諸山を歴訪することから客僧という風に呼ばれたりします。教義的には、山伏の山の字は報身・法身・応身の「三身即一」、伏は人と犬の二文字を組み合わせているため、無明、「犬」は法性、「人」は不二を示すとされており。

この二文字によつて、山伏が真言密教の根源仏である大日如来と等しい、成仏しうる存在であることを示していることから、仏教の秘密の教えである密教の悟りを得るために大変な修行をされている「超能力者」の方々ではないか。私自身は、そう捉えております。

山伏の衣装は、鈴懸すずかけを着て、結袈裟ゆいげさをかけ、頭に斑蓋はんがいと頭巾とぎん、腰に貝の緒おと引敷ひしき、坐具ざぐ、足に脚絆きゃはんを着けるといいうでたちです。足には八つ目のわらじを履き、笈おひと肩箱かたばこを背負い、腕うでに最多角かの数珠じゆずを巻き、手に金剛杖しんぐじょうか錫杖しやくじょうを持つて法螺ほらを吹くという独自の服装が特徴です。

教義上では、鈴懸や結袈裟は空海の真言密教の金剛界と胎藏界、頭巾は大日如来、数珠・法螺・

錫杖・引敷・脚絆は修験者の成仏過程とされています。

また、班蓋・笈・肩箱・貝の緒は、修験者が仏としての法力をえるようにと装備しているものです。

こうした衣装の着用によつて、高野聖や修験者が大日如来や曼荼羅となり、『現世利益』『即身成仏』を達成していることを示しているのですが、私は空海も修験道の影響を受け、山伏も空海の影響を受けたと考えております。

空海は、高知県・室戸岬の御厨人窟で修行をして智慧の悟りを得た後、各山岳修行中に修験道を学びました。千光寺の管長としての私の理解では、唐（中国）の恵果阿闍梨の弟子約3000名をさしおいて、日本人の空海が若干30歳にして密教のすべてを修得することが出来たのは、遣唐使として中国に派遣される前に、こうして既に修験道を体感していたからではないか。そう考えてお

写真は、私（玄津）が現在は相談役を務める成田不動修験本宗の「山伏」に於ける「柴燈大護摩供」時の門下の集合写真です



ります。

山伏がもつとも活躍したのは中世期の頃です。吉野や熊野などの山岳で修行し、加持祈祷の活動を行っていました。戦乱などでは従軍祈祷師として活躍したそうですが、明治維新以降は遊行活動^{ゆうぎょう}を禁止されました。

しかし、戦後は見事、山伏は復活したのです。私、玄津も僧侶として、今まさに修験道の道を極めるために全身全霊をかけているところです。

空海が伝授された真言密教の奥義が、いかに理論的で、宗教を超越した実践的な「智慧」「悟りの境地」であったのか。そのことを、少しでもご理解いただけたのではないでしょうか。

ご興味を持っていただけましたら、ぜひとも、真言密教の聖地である高野山へ、今も禪定を続けておられる「お大師さま（空海）」に会いに行ってください。合掌



第3章

玄津、空海にみちびかれて

玄津
空海に
みちびかれて



世界平和

南紀白浜

1 私が僧侶の道へと進んだ理由

私は、幼い頃から大変な喘息^{ぜんそく}持ちでした。週に2回は救急車で病院に運ばれていたほどです。発作が出るたびに病院に担ぎ込まれ…を、何度繰り返したことでしょう。同じような状態が10年ほど続いたでしょうか。

そんな状況を見かねた祖母が、「喘息が治るから」と、神社へお参りしました。神社の左側の小道の先にある、小さな一見粗末な小屋へと連れて行かれたのです。

実は、それが不動明王さまをまつた『不動さん』でした。小屋を見た瞬間、なぜだか一瞬にして親近感を持ったことを今でもはつきりと覚えております。自然に、手を合わせている自分がいました。

21歳で会社を興し、寝る時間を惜しんでがむしゃらに仕事に取り組んでいたこともあり、体は常に悲鳴を上げておりました。心身ともに、ひどい状態が続いていたのです。そんな時、ふと思いつき、垂水神社の『不動さん』へ再びお参りすることにしたのです。

無人の小屋の入口には、『のうまく・さーまんだ・ばーさら・だんかん』との不思議な言葉の

はり紙が貼られておりました。大きな声で、入口の格子戸の中の真っ黒な不動明王さまに向かって8回唱えよと、書いてあります。

意味はわからずとも、不思議にありがたさを感じ、そのじゅ文を、はつきりと声に出して唱えてみたのです。

すると…不思議な、今でも説明し難い「何か」を確かに実感しました。不動明王さまの御慈悲を授かっているような気持ちになり、いつしか、夢中で何度も同じじゅ文、御真言を唱え続けていました。その時です。全身が何かに共鳴して震え始めたのです。不動明王さまと自分自身がしつかりと通じ合うような、そんな不思議な感覚が全身を覆い始めました。

私は、初めての感覚に戸惑いを覚えながらも、なぜか迷いや苦しみで一杯だった頭の中が『空』になっていくのをしみじみと感じたのです。いつしか、とても晴れやかな爽快な気分になっておりました。

そんな不思議な体験をした参拝の帰り道、私はハッと気づきました。先ほどまで出ていた咳が、ピタリと止まっているではありませんか。もしかすると、不動明王さまのお力で喘息が治まったのでは…。足を止めて後ろを振り向きました。

そして思わず、不動明王さまが鎮座されておられる方向に向かって合掌をさせていただいてい

たのです。

その日以来、喘息の発作は完全に止まり、今日まで一度もぶり返すことはなくなりました。今振り返れば、それが、空海の真言密教に導かれることとなった最初の『不思議体験』だったと思います。

私は、頭はけつして良くない成績も悪い子供でしたが、見た物、聞いた話がビデオカメラで撮影しているように頭の中で映画のように再生リプレイされるのです。それは「普通」だと思っております。しかし、のちのち、自分が大人になってから、多くの人と接する中で、そんな再生経験リプレイは、誰もがする『普通のこと』ではない。そう理解するようになってからは、私には、人の心も先のことも見通せる不思議な力が備わっているのでは…と、感じるようになっていったのです。

ときには、「自分は超能力者かもしれない」と、有頂天になることもありました。一方で、「そんな自分とは何者か、これから何をすればよいのか？」と、自分自身をもっと突き詰めていきたい。そんな気持ちにも駆られました。

そこで、霊能力者や占い師の方々など、不思議な『力』を持っている方々を訪ね歩くことにしました。すると、出会う方々すべてが、まったく同じ言葉を私に投げかけてくるではありませんか。「あなたには不動明王さまがついている」と…。

ある占い師の方には、「この言葉の意味が数年先に必ず理解出来ることでしょう」と、予言めいたことを告げられたこともありました。当時は理解出来ませんでした。様々な方々と出会うことで、すべての点と線が「不動明王」をキーワードにつながっていったのです。

そして、最終的に行き着いたのが、『不動さん』『山伏』、そして、『空海』という存在でした。私と不思議な縁で結ばれた『不動明王』信仰のもと、真言密教の護摩行などの苦行を行うことで不思議な力をコントロール出来る様に『悟り』を得る（開く）。単純な私は、「空海の真言密教による願望達成術（S U C C E S S m e t h o d ）、これしか自分の不思議な能力を活かせる道はない」と、心の底から没頭しました。

自分自身や、自分の生き方を模索していた私には、空海、そして、山伏が追い求める「大日力」の修得こそ、目指す姿だと確信したのです。光り輝く大日、つまり、不動明王を通じて太陽の神秘の力で人の奥底に眠っている「超能力」を呼び覚まし、現世利益げんせこりやくをもたらず「大日力」を一生信奉していいこうと決めたのでした。

私は、色々な書物から仏教を学び、勉強をする事が大嫌いであつたのに、何故か、ひたすらに空海の真言密教に没頭しました。不思議な力（大日力）の世界、超常現象を起こして人々を助ける現実の空海伝説に引き込まれ、自分自身の中の不思議な（超）能力の秘密を見つけるべく、姫

路の成田不動さん（明勝寺）で、ご住職に無理をお願いして仕事をしながらの割行にて、僧侶になるためではなく、『不動明王』すなわち空海の密教の加持祈祷（護摩焚き、護摩行）の修行をさせていただきました。

今、振り返って見ると、空海のお導きにより私の中の不思議を探る過程での気づき『空海の十住心論』の第一住心から、第二住心へ、そして第三住心への転換（進化）期だったのだと思います。

『空海の十住心論』とは、次のとおりです。

第十住心「絶対」真理の世界（大日如来）と一体となり、法界が心のすべてになった絶対境の心

第九住心「価値」仏教哲学が、行き着いて生命世界



の実相を悟りつつ、なお究極の悟りがあることを知る心。

第八住心「生命」絶対の真理は唯一無二と悟り、何ものにもとらわれずに永遠の生命世界に生きる心。

第七住心「空」実在に対する迷妄や差別心を断ち切り、一切は空だということを徹底して悟った安楽の心。

第六住心「利他」物心とも因縁から生じた幻影と知り、すべての人々を救済しようとする自愛の念に満たされた菩薩の心。

第五住心「自利」この世界の一切は因縁によつてのみ存在することを自覚し、無知の元を取り除こうと努める心。

第四住心「無我」この世界に実在するのは物（五蘊）であり、実体としての個我は存在しない

と自覚している心。

第三住心「覚醒」いまだ輪廻の世界にいるが、来世の生があることを知って幼子のように安らいでいる宗教的な心。

第二住心「倫理」愚かな子どものような大人ではあるが、生活の規則（日常倫理）に目覚め、人への施しに目覚めた倫理的な心。

第一住心「本能」雄羊（獣）のように性と食のみにとらわれ、本能の赴くままに生きている感覚的・動物的心。

2 空海から408代目となる崇峰管長猊下との縁

約30年前のこと、不動明王の不思議な力を探している過程で、不思議な出会いがありました。

空海亡き後の第408代目（1990年～1994年11月14日まで）、竹内崇峰大僧正管長猥下との面談です。

当時、竹内管長猥下は、私が拝謁させていただいた「高野山真言宗管長」並びに「総本山金剛峰寺座主」でありました。その時のお話をさせていただきます。

私が姫路の成田山「明勝寺」にて修行の日々を送っていたとき、竹内管長猥下のお使いの昇道師匠が私のところを訪ねて来られました。

そのとき唐突に、「君は、誕生日が2月21日ですね。これは即ち、仏縁により、空海の生まれ変わりなのです」と、告げられたのです。そして、高野山の金剛峯寺に上りなさいとおっしゃるではありませんか。

その後、高野山を訪れたおりに、竹内管長猥下に拝謁させていただくことになりました。

あるとき、管長猥下はこうおっしゃいました。

写真左：玄津 写真右：高野山真言宗 第四〇八代目・竹内崇峰大僧正管長猥下



「あなたは、若い人々に『真言密教』をあなたのやり方で広めなさい」

幼少より苦しんでいたひどい喘息が、小さな不動明王堂の前で真言を唱えるだけで完治した奇跡に感動。密教ファンとなった私は、当時、仕事をしながらの割行にて密教の加持祈祷の修行をしておりました。

そのため私は、管長猥下に対しておそれ多くも、返す言葉でこう宣言してしまつたのです。

「管長猥下、誠に申し訳ありませんが、私は頭を丸めたり、僧侶の衣装を着たり、高野山に出家して僧侶になる事は、絶対に出来ません！」と。

しかし、その言葉に対して、管長猥下は諭すようにおっしゃいました。

「あなたは、すぐに僧侶にならなくてもよいのです。なぜなら、ビジネス界で死ぬほどに苦勞するのですから。つまり、それが密教の苦行（修行）となるのです。ですから、あなたは、ご自身の好きなように生きなさい。それこそが大師さま（空海）の「現世利益」であり、真言密教の最終的な解答となる「即身成仏」なのですから」

そうおっしゃったあと、管長猥下は後ろを振り向き、掛けられた書を指差しながら、「この書の『濟世利民』について考えるように。成長した暁には、『玄津』と名乗りなさい」との言葉を私に投げかけられました。

つまり、当時、高野山の最高位である竹内管長猊下より、光榮なことに私は、「玄津」との僧名を拝受させていただくこととなりました。

「玄」は天空、「津」は潤す。すなわち、「人々の幸福を実現するために、仏（空海）の教えを世の中に広めなさい」という意味が込められています。

このような竹内管長猊下とのご縁により、その後、真言宗409代目管長並びに総本山金剛峯寺座主となられた稲場義猛管長猊下（当時）から、書「山寿無窮」をいただきました。また、空海が産声を上げた四国の善通寺から、真言宗善通寺派の善通寺五十六世法主（当時）であつた高吉清順管長猊下からも、「一草開五葉」との言葉が記された書も拝受いたしました。

この2つの書は、現在、南紀白浜温泉の千光寺にて展示しております。ぜひとも足をお運びいただき、ご自分の目で確かめ「徳」をお持ち帰りください。



3 千光寺総本山と南紀白浜水晶山・別格本山について

一般のお寺さんとは異なり、お葬式などを行わない祈願寺（加持祈祷場）というお寺がございます。こうした祈祷寺として、約300年の歴史を継承するのが千光寺総本山です。

千光寺総本山は、元禄10年に彌^や栄^え上人が空海の靈指を受け、摂津の国（現・神戸市）にて千光寺設立を発願し賢照上人により建立されたお寺です。その後、移り変わる時代の中で、庶民の密教信仰の拠り所として親しまれてきました。

そんな千光寺総本山が、未曾有の大災害に巻き込まれた時期がありました。1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災です。

当時、神戸市兵庫区会下^{えげやま}山にあつた千光寺総本山は、崩壊（被災）してしまいました。その後、約24年前に千光寺復興の責任役員となったのが、私でありました。

その時期、元々の場所に全壊した本堂を再建する案や、他に移設する案などの意見が出ていました。檀家総代や信徒総代、熱心な不動明王信仰の信者の方、修験道の相談役、山伏の面々からの意見が噴出したため、一つにまとめるのは至難の技でした。

ちょうどそのような時期に、千光寺復興に姫路の霊峰・雪彦山の登山道に約1万坪の土地を寄付したいとの申し出があったのです。

古くから雪彦山は、山伏や修験道の山岳修行の場として知られていました。不動明王や山岳信仰を支える、雪彦大権現「金剛鎮護寺」と呼ばれ、賀野神社と神仏習合しんぶつしうごうの形式をとってありました。ところが、明治元年の廃仏毀釈はいぶつしやくにより、長らく金剛鎮護寺は廃寺となっていたのです。被災した千光寺を雪彦山の麓へ移設していただきたいとの申し出は、このようなゆえんから出てきた提案でした。

こうした案を受けて、被災寺院にプレハブの復興事務局本部の設置をすることからスタート。本堂の建設をはじめとする総本山の神戸より北姫路への移転が始まりました。この時期、そうした手続きや寺務所の組織再建など、千光寺の復興事務局長を私が長らく務めさせていただくことになりました。

千光寺総本山を建立なされた賢照上人の位牌



神戸市兵庫区にて被災して1年後に撮影した
千光寺総本山



千光寺総本山の本堂が雪彦山の麓に完成した後、関係者すべての皆さまのご推薦により、当時はまだ若造であった私が宗教法人千光寺の代表役員（管長）に就任することになったのです。その際には、私が現在、相談役を務める成田不動修験本宗の山伏による「柴燈大護摩壇」を、千光寺総本山本堂前の雪彦不動明王前に建立させていただきました。

はやいもので、千光寺総本山の管長に就任してから約20年、仏縁を頂戴して、今年で約30年の歳月が流れました。

ちなみに、山伏が山岳修行していた霊峰・雪彦山は、旧夢前町（現

在は姫路市に合併）にある洞ヶ岳（811メートル）、鉾立（950メートル）、三辻山（915メートル）の総称でした。修験道の古い行者の資料には、山伏の修行場として、周辺の明神山、七種山とをあわせて三山を総称し、「霊峰・雪彦山」と呼んでいたという記述があるそうです。

雪彦山の地質は、後期白亜紀の火山岩で、「日本百景ひょうごの森百選」や「近畿百名山」にも選定されております。千光寺総本山のある霊峰・雪彦山への登山口の一帯は、北方につながる峰山高原とともに「雪彦峰山県立自然公園」にも指定されています。



霊峰・雪彦山に移転のために建築中の千光寺総本山

近年では、ハイキングや本格的な登山道、難易度の高いロッククライミングの名所として各方面からも脚光を浴び、一般的にも知られるようになりました。

私は、このような霊峰・雪彦山での千光寺総本山でのおつとめとは別に、空海との縁が深い南紀白浜に千光寺別院を建立し、管長としての活動も行っております。

白浜の千光寺別院は、「国際観光寺」として、日本の若い方だけでなく日本観光に來られた諸外国の方々も、気軽に仏教に興味を持つていただき、空海の現世利益げんせいりやくを叶える真言密教の願望達成術（護摩行）により発する「大日力」を世界中に広める一助になればと願っております。

南紀白浜温泉・水晶山の別格本山として、空海伝説と真言密教の素晴らしさを世界中に広めたい。私のこれからの使命として、そのような熱い想いを持つておつとめに励んでおりますが、千光寺別院（別格本山）につきましての詳細は、あとで述べることにいたしましょう。

4 ほんの少し雑学を、なぜ坊主はボウズなのか？

僧侶は、なぜ皆丸坊主なのか。

「はじめに」でも少し触れましたが、このことについて、不思議に思われる方もおられるでしょう。僧侶が剃髪する理由について、雑学的にお話したいと思います。

お坊さんは、カミソリで剃った丸坊主の頭、剃髪が常識とされています。結論を先に言うと、実は確たる理由はございません。そうした方がよいという慣わしで頭を剃っている。そう考えているお坊さんが大半でしょう。

ただ、仏教界では剃髪すべき理由として、いろいろな説があります。髪の毛は世俗への執着につながる顔の飾りなので、仏門に入るということは、俗世に対する執着を捨てて、仏に帰依する（きえ）という意味で剃髪するという説があります。

また、剃っても剃っても生えてくる様は煩悩（ぼんのう）（欲望）と同じであり、「煩悩」の象徴である毛を剃るべきという説などもあります。この他、お釈迦様が生まれたインドは暑くて仕方が無いからという珍説まであり、諸説存在します。



誤解されないように解説しておきますが、お釈迦様は修業時代から、長さ3〜4 cmくらい髪の毛を伸ばしていたと言われております。しかも、その1本1本が右に巻かれていた、今の世でいうと、いわゆるパンチパーマ（螺旋髪）。大仏様の頭も丸まった螺旋髪で覆われていますので、ご存知の方も多いでしょう。

ただ、観音菩薩さまには髪が生えています、地藏菩薩さまは丸坊主だったり…実にさまざま。仏像を見る機会があれば頭の部分をよく見ていただくと、その違いが分かって面白いと思います。このように、いろいろな説がありますが、私が正解だと思える説がひとつございます。それは、「余計なこだわりを持たないため」という説です。

髪の毛があると、毎朝、髪を整えないとみつともない。伸びたから散髪に行かないと髪の毛の形が気になる。風で髪が乱れた…などなど、気になることがたくさん出てきます。つまり、髪にこだわる事になります。その『こだわりを捨てて修行に専念するため丸坊主にする』という説が有力だと思っています。

ただ、お釈迦様は髪を生やしていたのに、なぜ後世の僧侶は丸坊主にこだわるのでしょうか。そもそも、浄土真宗の僧侶は頭を剃りません。もちろん丸坊主の方もおられますが、多くは短髪や長髪の人もいて、自由だということです。

真言宗でも、髪を伸ばした僧侶や山伏もいるにはいますが、修行に入るときは、髪を剃って臨みます。「こだわりを捨てた状態にして心身を整えて修行に入る」のです。

さて、一般論はさておき、私の場合の話をしたと思います。私は、宗教法人千光寺の代表役員（管長）と言う立場のため、普段のお寺は龍照住職に任せております。ただ、大きな法要や護摩行、柴燈大護摩供要のときには、頭をカミソリで、丸坊主にしてテカテカにし、魂を空にして無心で護摩焚きをしております。

管長と言う立場のため立派な法衣を着る事もありますが、普段は、自坊で作務衣を着たりしております。

また、海外や千光寺の東京別院で「世界人類の平和」活動や、ガン撲滅の「ピンクリボンの推進」運動などの会合や「令和しあわせの会」の設立パーティー、さらには、政治家の先生方にお会いする時や「白浜の発展を考える会」、日本仏教協会の企業経営者セミナーや研修といった講演は、ネクタイをしめて、三つ揃いのスーツを着たりいたします。



ただそれは、見かけの違いだけだと思ってください。私はいつも私であり、世界中へ「空海の真言密教」の布教活動を実践する身であり、仏様に帰依する一僧侶だという考え方は、どのような格好のときも変わりません。

私は、カミソリで頭をテカテカにしておりましたが、丸坊主にこだわりはありません。そのため、2019年の令和元年からは、この本が出版されるまでは、私の髪は伸びるままにしておきます。「僧侶だから丸坊主」「丸坊主が嫌だ!」といったこだわりはありません。どちらでもよい。それが、僧侶としての私のこだわりです。

そう宣言すると、「僧侶が、髪を生やしているのは怪しい」と言う方もおります。それなら、頭に「螺髪」を戴いていたお釈迦様は、修行が足りないのでしょうか。怪しい人物なのでしょうか。そんな事をおっしゃる方は、いないのではないのでしょうか。重要な事は、常識にとらわれず、くだらない事に対して、こだわる事がいけないのです。

例えばスマートフォンは、世界中で、既に生活の必需品となりましたが、誰が今の携帯電話の普及率を想像出来たでしょうか。誰が、ソーシャルメディアの隆盛を予見出来たでしょうか。このことは、今の常識は、明日、そして来年には非常識になることを端的に表しています。

空海は、奈良仏教の「死んで天国へ行くために今善行をする。悪行は地獄へ堕ちる」といった

考え方が常識の時代に、「常識にこだわっては、いけない」と、本当の仏教を追い求めて密教にたどり着きました。仏教の秘密の教えを学ぶために中国に渡り、恵果阿闍梨より密教の全てを学び、後継者となつて帰国し、「現世利益」げんせこりやくすなわち生きている今をしあわせになる「即身成仏」（生きたままに仏になる）との当時は非常識とも言える悟り（お教）として、高野山開山にて真言密教として完成させたのです。

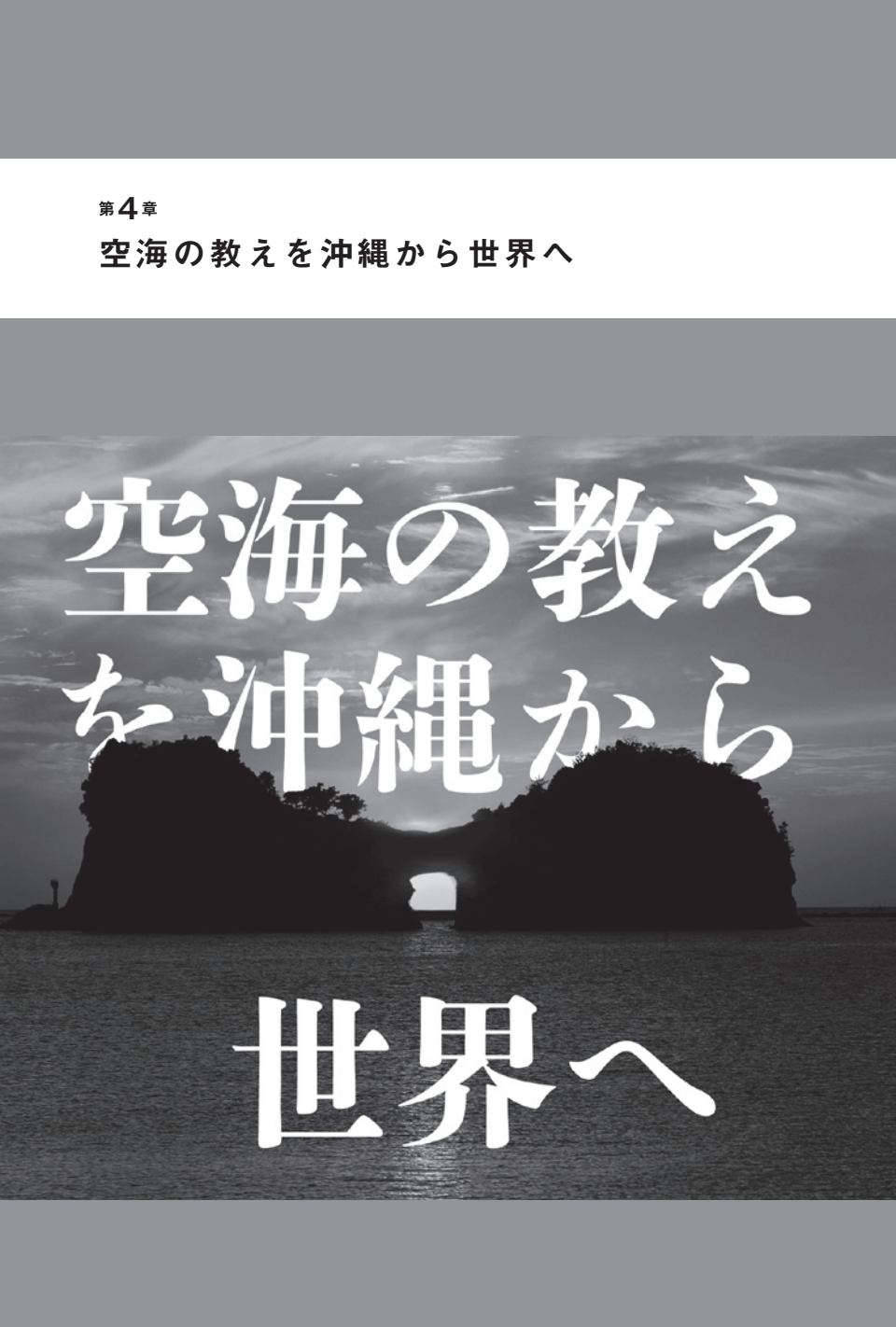
ということ、私の髪の話に戻します。

剃つても髪は生えてきますが、無から生えてくるときは心がときめきます。一方で、千光寺総本山の管長としての行事がある時には、また頭を剃ります。私にとつては、この頭を剃つてテカテカにする剃髪もまた、大変待ち遠しく楽しみな事なのです。合掌



第4章

空海の教えを沖縄から世界へ



空海の教え を沖縄から 世界へ

1 SNSで発信する平和への想い

プロフィールでも書いておりますが、私の出生地は、第二次世界大戦の敗戦によるアメリカの植民地時代の沖縄です。

第二次世界大戦下の沖縄戦では、日本で唯一、地上戦による戦闘が行われました。その結果、24万1566名の貴い日本人の命場が犠牲となりました。そのうち、沖縄県出身者が14万7336人、さらにその中の約9万4000人の犠牲者は民間人であったとのことでした。

そうした悲しい史実に涙し、沖縄の終戦記念日となる毎年6月23日（本書208ページ参照）には、戦争犠牲者の供養をしております。

そして、絶対に悲惨な戦争をしてはならない。そのような想いから、空海のお導きにより、いろいろな形で世界平和の維持活動のおつとめを行っているのです。

その一環として、インスタグラムによる「空海」の布教（PR）活動に力を注いでいるわけですが、その手法に違和感を持たれる方もおられると思います。

ただ私は、これまでのお寺では行われてこなかった、「新発想」で新しいお寺の役割を見出し、

活動を通じて「ご縁」を大切にしたいと願っているだけなのです。そのため、世界人類の平和や南紀白浜温泉の発展、女性の乳ガン撲滅を目指す「ピンクリボン推進運動」、「令和しあわせの会」などの活動を行っております。これもすべては、空海が目指した「大日力」による「現世利益」の奇跡が、すべての人々にあまねく行き渡るようにとの想いを込めた活動なのです。

令和元年の《今》の『世界人類の平和（しあわせ）』の実現を祈願し、さまざまな布教（PR）活動を模索しながら、世界中にインスタグラムで1000回の現代社会における修業と捉えての情報発信を続けております。1200年前の「SUPER☆star空海」が目指した『平和（しあわせ）の輪』を広げる活動に精進していきたい。そんな意を新たにしております。



『日韓友好平和の塔』と『世界人類平和祈願の鐘』の建立推進の本部事務局は、大阪の四天王寺境内にあり、当時の会長が四天王寺の110世管長の出口順徳管長猥下であり、私は事務総長の大役を命じられておりました（93、96ページ参照）

2 大田稔少将と沖縄戦没者供養

先ほど、第二次世界大戦中の沖縄の悲劇について述べましたが、現地では終戦から74年経った現在でもその記憶は各所に色濃く残っております。

そうした現状に上皇・上皇后陛下をはじめ、天皇・皇后陛下、秋篠宮殿下ご夫妻など、皇室の方々も大変気に止めておられ、何度も沖縄を訪問されております。2018年3月には、当時天皇・皇后であった上皇・上皇后陛下が沖縄を訪問されました。糸満市の国立沖縄戦没者墓苑と平和祈念堂を訪問され、供花をたむけられたのです。

沖縄へのご訪問は、その時を含めて実に11回にもおよびます。特に今回は、両陛下のたつての希望で実現しました。それだけ、両陛下が沖縄の苦難を真摯に受け止められ、このようなことは二度と起こしてはなら

令和を“しあわせ”の時代に



第125代天皇陛下（南仁上皇・美智子上皇后）



写真：一般社団法人 日本地方新聞協会

ないという、平和への強い願いを抱いておられるからでしょう。

私は、沖縄に生を受けたものとして、両陛下の想い以上に、世界人類の平和を進める活動を行いたい。そのような気持ちから、沖縄戦による戦没者24万1336名廻向供養を、毎年沖縄の終戦記念日の6月23日に執り行っております。その理由は、沖縄の海軍代表であつた大田稔少将が、手榴弾で自決したことに対する私なりのご供養の想いがあるからなのです。

大田少将の自決のお話は、一般的にはご存知ない方も多いと思いますので、説明させていただきます。

第二次世界大戦下の沖縄戦では、民間人を含めた数多くの方々の命が奪われました。

沖縄戦の敗戦が濃くなったとき、海軍代表・沖縄根拠地隊司令官だつた大田稔少将は、旧海軍司令部壕にて手榴弾で自決します。その前日に、沖縄県民の敢闘の様子を記した電文を本土の海軍次官宛に送っております。

その文面には、これから犠牲になろうとしている沖縄の方々に対する深い愛情が綴られております。その内容は、心を揺さぶられない人はいないほど感動的なものです。次にその全文を紹介いたします。

〈沖縄県民斯く戦えり 県民に対し後世特別のご配慮を賜らんことを〉

沖縄本島に敵が攻撃を開始して以降、軍は県民のことに關してはほとんど顧みることができなかつた。にも関わらず、沖縄県民は青年・壮年が全員残らず防衛のための召集に進んで応募した。残された老人・子供・女性も、悲惨な状況にあるのに軍の作戦の邪魔にならないように狭い防空壕でじっとしている。しかも若い女性は率先して軍に身を捧げ、看護婦や炊事婦はもちろん、砲彈運び、挺身斬り込み隊にすら申し出る者までいる。

陸海軍の部隊が沖縄に進駐して以来、終始一貫して勤勞奉仕や物資節約を強要されたにもかかわらず、ただひたすら日本人としてのご奉公の念を胸に抱きつつ、遂に……（判読不能）与えることがないまま、沖縄島はこの戦闘の結末と運命を共にして草木の一本も残らないほどの焦土と化そうとしている。食糧はもう六月一杯しかもたない状況であるという。沖縄県民はこのように戦い抜いた。県民に対し、後世、特別のご配慮をしていただくことを願う。

※電文の現代語要約

これが全文ですが、どのような感想をお持ちでしょうか。

沖縄出身の私としては、感動の一方で、ふと疑念もわいてまいります。軍人が戦って戦死するのは仕方ありませんが、民間人がどうしてこれほど犠牲にならなくてはいいなかったのでしょうか。なぜ沖縄は、こんな悲劇的な運命をたどらなくてはならなかったのでしょうか。

今なお、沖縄には米軍基地の問題があります。私は大田少将の言葉を思い出しながら、複雑な思いでニュースに注目しています。そのたびに、あらゆる宗派を超え、政治的な立場を超え、空海の「大日力」を持って世界平和を推進していかねばならない。そう、改めて心に念じております。

世界に目を向けると、民族や宗教の対立などから、地域紛争やテロの脅威にさらされている国や地域があり、貧困、難民、飢餓、地球規模の環境問題など、生命と人間の基本的人権を脅かす多くの課題が存在しています。

私達は、真の『世界人類の平和』を実現するために

令和を“しあわせ”の時代に



第125代天皇陛下（徳仁天皇陛下）・皇后陛下



写真：一般社団法人 日本地方新聞協会

は、世界の人々がさらに相互理解に努め、一層協力・調和していかなければなりません。

私は、『空海』の教えをインスタグラムにより、世界に発信するとともに、平和の大切さを正しく次世代に伝えていくことで、一層、国際社会とともに世界平和を《令和しあわせの会》の活動により、実現への役割を果たしてまいります。

『令和しあわせの会』の和歌山県大会が白浜ホール (<http://www.shirahama-seasidehotel.com/>) にて開催され、私（玄津）も実行委員会の委員長として参加させていただきました。

しかし何故、千光寺総本山の管長（僧侶）が、委員長をお勤めするのか？と尋ねられますので、説明させていただきます。

私は、お寺に興味の無かった若い人々も、日本観光に来られた諸外国の方々も、気軽に白浜の千光寺を訪れて、『空海』の教えに触れていただき、真言密教に興味を持つていただきたいのです。いわば真言密教のPR寺として役割を果たしていくことで、空海と真言密教を世界に広める一助になればと願っております。

ちなみに、PRという言葉はキリスト教の布教方法が語源だと聞いたことがあります。

キリスト教が世界に広がったのはPR方法のおかげと思えば、日本仏教も布教活動のあり方にもっと創意工夫が必要ではないでしょうか。

白浜千光寺別院の開山記念事業として、発刊させていた
いた写真集もそのPR方法の一つとして発刊したものです。
お寺らしくないホームページにしたのも、英語や中国語で翻
訳したのも、世界中の人々に「空海」を知っていただき興味
を抱いていただきたいからです。そして、『令和しあわせの会』
の活動を通じて人々の幸福に寄与できるお寺にしていきたい
のです。

これまでのお寺の常識から外れた活動なので違和感を持た
れる方もおられると思いますが、仏教には「世界平和」の教
えを広めていく勤めがございます。私は「新発想」で、新し
い時代の真言密教の布教のあり方を模索し、願望を達成する
為に必要となる、新しいお寺の役割を見い出し、空海の真言
密教の加持祈祷（護摩行）により、『世界人類の平和』を願っ
て、様々な布教PR活動を模索しながらチャレンジしていき
たいと意を新たにしております。



沖縄、米軍基地、戦争の傷痕と平和

沖縄には、日本にある米軍施設の約70%（土地面積）が集まっております。太平洋戦争後、アメリカは、沖縄を植民地とし戦略上の重要拠点として基地強化を図ってまいりました。そのため米軍基地が沖縄に集中し、今でも沖縄に大きな負担がのしかかっております。基地問題は戦後、途切れることなく沖縄を悩ませてまいりました。皆さまも、普天間基地の辺野古移転問題が注目を集めていることはご存知でしょう。地元は、この問題で大きく揺れ続けております。

一方で、世界に目を向けると、民族や宗教の対立などから、地域紛争やテロの脅威にさらされている国や地域が数多く存在します。貧困、難民、飢餓、地球規模の環境問題…など、生命と人の基本的人権を脅かす多くの課題が存在しているのです。こうした国内外を含めて難問が山積する今だからこそ、世界の人々がさらに相互理解に努め、一層協力・調和していかなければならないのです。

何度申し上げても足りませんが、空海の教えや沖縄の問題等をソーシャルメディアで世界に発信しているのは、この世界人類の平和を実現するためでございます。平和の大切さを正しく次世代に伝えていきたい。そうした使命感を持って活動をしているのが、「令和しあわせの会」でございます。私は、こうした活動を通じて、真の世界平和の実現へ、精進してまいりたいと意を新たにしております。



3 「日韓友好平和の搭」と「世界人類平和祈願の鐘」

先ほど、第二次世界大戦中の沖縄戦のお話をさせていただきましたが、今もなお、地球のどこかで戦争が行われております。

戦争のない、世界人類の永遠なる平和と幸せの心からの祈願を…。そんな思いから、「世界人類平和祈願の鐘」を世界各国の主要都市や韓国・日本において、毎年8月15日の同時刻に打ち鳴らし、世界人類の平和を増進させたいと願っております。

鐘の設置場所はそれぞれ、大鐘を韓半島38度線の非武装地帯への建立を目指しながら、中鐘を京都の高麗寺、そして、小鐘を日本47都道府県並びに世界各国主要都市に建立していました。そのひとつが現在、南紀白浜温泉の千光寺に展示しております。

朝鮮半島の南北境界38度線上に世界一大きな「世界



人類平和祈願の鐘」を建立する。この大きな事業の活動の中心人物は、在日本韓民族仏教徒総連合会の釈泰然会長（左ページ写真の右側・曹溪宗普賢寺管長）です。

その活動をサポートしたのは、日本仏教界に多大な貢献をなされた佛教大学の水谷幸正元学長（写真中央・故人・浄土宗元宗務総長）でした。水谷先生は1928年4月1日生まれで、2014年2月7日に、惜しくも肝内胆管がんで亡くされました。

水谷先生は、佛教大学教授などを経て、1979年より、佛教大学学長として活躍されました。仏教学者であり、学校法人東海学園理事長、佛教大学元学長、学校法人佛教教育学園元理事長、浄土宗元宗務総長を歴任。専攻は仏教学であり、文学博士でもありました。

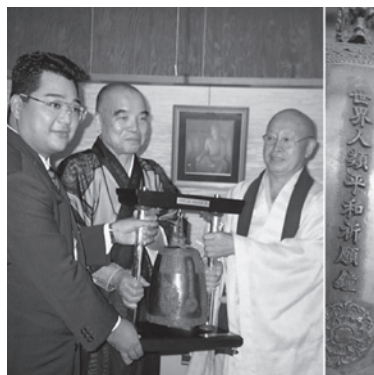
お世話になった水谷学長のご葬儀は、上善寺にておこなわれました。弔辞が4名、弔電が千数百通、そして各界からの数多くの会葬者が弔問に訪れる様子に、水谷学長の宗教活動を通じてのあるべき社会貢献の偉大な足跡に改めて感じ入ることが出来ました。

水谷先生は、宗教人としての公職活動とは別に、アジア各国との民間交流を活発に行われ、中でも日朝友好親善活動の業績は顕著でありました。日中国交正常化の後、日本との過去の清算や国交正常化がなされていない唯一の国となった、朝鮮民主主義人民共和国との友好親善を実現するべく、故・奥田東京都立大学元総長らと共に1970年代から注力されておられました。

また、自由民主党の代議士であり、先生のご友人でもある故・野中広務元内閣官房長官の後援会長を長らく務めておられました。故・金丸信自由民主党副総裁との親交も厚く、私、玄津ともども、北朝鮮と韓国、南北の平和統一と東アジアの平和の問題の解決を目指しておられました。そのため、「日韓友好平和の搭を守る会」や「世界人類平和祈願鐘」の活動について、色々と支援をいただいていたのです。

なお、朝鮮半島の南北統一を願う「世界人類平和祈願の鐘」の事務局は、大阪の四天王にあります。建立の発起人会日本側代表として、宗教法人和宗総本山四天王寺森田禅朗管長（肩書は当時）、水谷先生をはじめとする仏教界・政界など各界の重鎮の皆さま方に混じり、まだ若造であった私、玄津（写真左側）も参加。事務局長（後に事務総長）を命じられて平和活動に勤しむことになりました。

当時は、本当に叱咤激励を受け可愛がっていただきましたが、そのような経緯を経て令和の時代を迎えた今、これから私の使命としては、やはり、「世界人類の平和（しあわせ）」を、空海



のお導きにより続けていくことだと考えております。

さて、「日韓友好平和の塔を守る会」の「世界人類平和祈願の鐘」の会長は、当時は、四天王寺の110世管長、出口順徳管長猊下（写真右侧）でありました。このご縁もあり、当時、大変若かった私も「世界人類平和祈願の鐘」の活動を通じて、四天王寺へは何度も足を運ばせていただきました。当時事務局長より事務総長を拝命し、おそれ多くも大会当日に感謝状を賜りました。

その四天王寺ですが、歴史は古く、593年（推古天皇元年）に建立されました。今から1400年以上も前のことです。

四天王寺は、「日本書紀」の伝えるところでは、このような話が紹介されています。

ものゝつゝもりや
物部守屋と蘇我馬子そがのうまこが争った際、崇仏派の蘇我氏についた聖徳太子が形勢の不利を打開するために、自ら四天王像を彫りました。そのとき、「この戦いに勝利したあかつきには、四天王を安置する寺院を建立し、この世の全ての人々を救済する」と誓願されました。勝利の後に、



その誓いを果たすために建立されたとのこと。そのようなお話が伝わっております。

その四天王寺は、お太子さまを偲しのんで毎年4月22日に、聖霊会舞樂大法要が催されます。その際には、重要無形民俗文化財の天王寺舞樂が披露されており、現在でも、毎年21日の大師会と22日の太子会は、四天王寺の縁日で多くの露天商で賑わいます。

その賑わいに、四天王寺が今でも、庶民の聖徳太子様信仰のお寺としての姿勢を貫いておられる様を実感せずにはいません。

このような四天王寺の故・出口順徳管長猊下ですが、本当に『徳』があるという言葉がピッタリの方でした。今でも、敬愛してやみません。

4 仏教が脈々と息づくアジアの国々と平和活動

私、玄津は若かりし頃から、時間があれば仏教の神秘の力を探るためにアジア各国を訪ね歩いておりました。訪れた国々は、タイ、中国、シンガポール、韓国、モンゴル、チベット…。仏教の信仰が息づく国々ばかりでございます。

そのような国の中から、タイとモンゴル、この両国について印象深い思い出や足跡をご紹介します。

私が秘密の教え「密教」を追求する旅の途中、微笑みの国・タイを訪れたのは約30年前のこと。タイの国民は、その9割以上が仏教徒という仏教国であります。「国民は仏教徒でなければならない」と憲法にも定められるほど、仏教が生活に浸透し社会の基盤を形づくっております。

黄金の仏塔に仏舎利（仏陀の遺骨）が納められている通称、「エメラルド寺院」の通称で知られるバンコクの「Wat Phra Kaew ワップラ・ケオ」など、タイには約3万の仏教寺院がございます。そうした寺院の周辺には学校や市場が併設されており、人々の信仰の場であるとともに、コミュニティの中心となっております。タイの人々にとって、寺院は深く生活に根ざした場所であり、喜びを共有し



感謝する場、教養を与え、悲しみを癒し、活力を与えてくれる場でもあるのです。

日本も仏教が盛んな国ですが、実はタイの仏教と日本の仏教は異なる系統。日本の仏教は、中国や韓国、ベトナムなどの北方を経由して伝わった「大乘仏教」でございます。一方、タイの仏教は、スリランカ、ビルマ、カンボジア、ラオス等南方を経由した「上座部仏教」であります。「大乘仏教」が誰でも成仏出来る、誰でも悟りを開くことが出来るのに対し、「上座部仏教」は出家して悟りを開いた者だけが成仏出来るとされております。そのような教えにより、「上座部仏教」の国、タイにおける仏教の僧侶数は30万人にもおよびます。

輪廻転生を信じるタイ仏教においては、民衆は「徳」を積まなければ良い来世を迎えることは出来ません。そのため、一般の人々は僧侶に対してそれぞれ身の丈に応じた喜捨（きしゃ）（布施）を行います。日常の多くの場面で僧侶による儀式が執り行われて、個人の冠婚葬祭、店舗や工場のオープニング、建前、地鎮祭、年末等の節目には、僧侶を呼んで「タンブン」と呼ばれる喜捨の儀式が行われております。

そのためか、喜捨や托鉢^{たくはつ}によってタイの僧侶の70%が「糖尿病」であると言われます。余談ですが、つい最近、若い女性たちの間で、スマートフォンの中のトップ画面をイケメン僧侶の画像に

するのが流行りだそうです。

とは言え、全体的には仏教に対する感覚が日本より断然厳しく、出家して修行をしないと僧侶にはなれない、僧侶は一生結婚できない、徳や悟りを失うことになるので女性は絶対に僧侶に触れてはならないなど、数多くの戒律やタブーがございます。その大半がキリスト教徒の欧米人がマナー違反を犯しても大目に見てくれますが、同じ仏教徒であるときみなされる日本人には厳しい目が注がれます。たとえば観光客であっても、礼節をわきまえる必要があるのです。

このように、同じ仏教ではあっても、日本とタイでは捉え方や社会でのあり方が大きく異なります。約30年前に現地を訪れた際の写真を改めて見直すと、そのようなことが懐かしく思い出されます。

草原の国・モンゴルもまた、深い縁を感じる国のひとつです。

モンゴルは、南北を中国とロシアに挟まれたモンゴル高原北部に位置する内陸国です。日本の約4倍（156万平方キロメートル）の国土面積に、約270万人が暮らしており、その約4割が首都のウランバートルに居住。ただ今でも、草原が広がる地方では、遊牧民が移動式住居「ゲル」で暮らしております。最近では、モンゴルは、大相撲での元横綱朝青龍関や現在の横綱白鵬

関などのモンゴル出身力士の活躍や、未開発の炭田やウラン、レアアースなどの豊富な資源に対して日本でも注目が集まっている国であります。

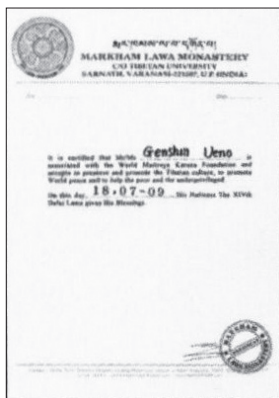
1992年に制定された新憲法では信教の自由が保障され、社会主義時代には衰退していた「チベット仏教」が復活しました。そのような時流の変化もあり、私はモンゴルから足を伸ばして密教の聖地・チベットを訪ね、その後も積極的にアジア各国の僧侶との交流活動が続けております。

2002年4月23日には、日本・モンゴル外交関係樹立30周年を記念して、「日本・モンゴル友好協会」会長であり、表敬訪問の団長である海部俊樹（元総理大臣）先生や、「日本・モンゴル友好協会」議員連盟会長の故・羽田孜（元総理大臣）先生とともに、私はモンゴルを表敬訪問することになりました。2010年からは、首脳・外相レベルの会談が頻繁に行われ、日本人のモンゴル短期滞在に際してビザ（査証）が免除になるなど、その絆はより一層強いものになりました。

そんな中、2018年7月9日、私は僧侶としての世界平



5 令和しあわせの会の活動



世界平和をもたらす努力とすべての人々への献身、真の関心をもって行われた進歩的な成果が認められ、「ユネスコ」「ユニセフ」「ユニシード」「国連ニュース」「国連平和教育協会」の国連NGO5団体・平和賞を授与されました

和や密教の布教活動の功績を認められ、チベット仏教ゲルク派の法王、ダナイ・ラマ14世より感謝状を賜ることとなりました。今後も、より一層精進し、世界の平和を訴え活動を進めてまいります。

世界的に有名なアメリカの経済学者、ピーター・ドラッカーは、次のような言葉を残しています。「われわれは、人の手によるあらゆるものが歳をとり、硬直化し、陳腐化し、苦しみが変わることを知っている。かくして経済と同様に社会においても、あるいは事業と同様に社会的サービスにおいても、イノベーションと起業家精神が必要となる」と。

現在、日本も世界も硬直した空気の中で人々はもがき苦しんでおります。今ほど、このドラッカーの提言が心に重くのしかかる時代はないのではないのでしょうか。

第45代アメリカ合衆国大統領となったトランプ大統領は、現在の地位を築くまでに、実に4回もの倒産を経験しております。そのたびにドラッカーが重要だと説く「イノベーションと企業家精神」によって不死鳥のように蘇り、改革者として人々の期待を背負うことになりました。

このような変革をもたらす「大日力」を持った超人が日本にも必要なのです。そのため、私もまた、「令和しあわせの会」の活動を通じて、現状を打破し、本当に世の中のためになるリーダーの出現を願い、僧侶としてできるお務めを行っていただいております。

新しい令和の時代、人々の「幸福」と「世界人類の平和」を、真摯に求める活動を続けたい。これからの令和の時代は、さまざまな宗教を超えた「超宗派」とも呼ぶべき活動を力強く推進し

ていきたい。

そんな想いから、「令和しあわせの会（光永勇会長）」の設立式典の実行委員長を務めさせていただきます。その際の、私の寄稿文書をご紹介します。

《令和ハピネス・ハーモニーの時代に》

戦後の焼け野原の時代から「日本人は働き過ぎ」と言われるほど頑張ったおかげで、世界有数の経済大国になり、人々の暮らしも豊かになりました。

そして令和の時代。人々の幸福感は「モノ」から「ココロ」へと比重が動いています。「令和しあわせの会」は、幸福な社会を実現するために、多方面にわたる世直し活動を行うと共に、人々の『ハピネス・ライフ』の実現にも、心の側面から応援して行きたいと考えています。「令和しあわせの会」のメンバーの中には、政治・文化・芸能・宗教・科学・学問・事業・ボランティア等々、それぞれの世界で活躍されながら、世の中の安寧と世界平和のために頑張っておられる方々が沢山おられます。

私自身も、千光寺の管長（僧侶）でありながら色々な事業を通して人々の『幸福』と『世

「令和しあわせの会」憲章

わたしの幸せが、あなたを幸せにする
あなたの幸せが、わたしを幸せにする
広げよう、広げよう、幸せの「わ」を。

【令和元年6月5日・制定】

Charter Oath for Our Happiness

My happiness makes you happy.
Your happiness makes me happy.
Let's spread
the harmony of our happiness

[sworn in Jun 5 of 2019]

『世界人類の平和』を願って活動しております。
古来より、我が国の人々は、自然を崇拝し
神仏に祈願して「しあわせ」を願ってきまし
た。

経済的に豊かになった今日、生活面におけ
る経済的な苦労は軽減されましたが、世
界一の自殺願望が多い日本の現実を見ても、
日本人の心の悩みや不安は尽きません。その
ため「心の^よ拠り所」を求める人々が増えてお
ります。若い人々の間で神社仏閣や御朱印
ブームが起きているのも、単なる流行ではな
く、心の安寧を願う気持ちがあるのかも知れ
ません。海外からの訪日旅行者の中にも、心
の拠り所を探し求めて来日される人々が増え
ています。

そして、日本の代表的なパワースポットとして海外でも有名な世界遺産の「高野山」には各国から多くの人々が訪れています。また、四国八十八カ所霊場めぐりの「お遍路」にも、驚くほど外国の方々の姿が見られるようになっています。

宗教は、宗派を問わず、しあわせを願い、心の拠り所を求める人々のために存在します。《ハピネス・ハーモニー（幸福の調和）》が求められている現在、ますますその役割は増してくと考えますが、私達、宗教界もまた「令和」の時代にふさわしい活動をするために努力をしなければなりません。私は『令和しあわせの会』の趣旨である人々の幸せ、そして世界の平和を実現するために、宗教界における立場からお役に立てるべく、これからも頑張りたいと意欲を湧かせております。

いま、若者の間で、神社仏閣ガール、御朱印ガールが現われて話題になっています。信仰心とはほど遠い遊び心と思われるかも知れませんが、心のどこかに、生きる支えがほしい、幸せになりたい



という気持ちがあつてのブームではないかと好感を抱いて見ております。理由はともあれ、若い人達がお寺に関心を抱き、参詣していただくのは喜ばしいことです。

また、私は、このようなブームを起こしている若者達が「令和の時代」のお寺のあり方を教えてくれていると感じ、同時に、新しい時代におけるお寺の役割に関して、多くのヒントを得ることができました。

そのヒントも加えて、白浜千光寺を「空海と触れ合うお寺」「誰もが空海の教えを学べるお寺」と位置づけ、令和の時代における新しいお寺の役割を果たしていきたいと考えております。

《宗教を本来の姿に取り戻すために》

宗教は、本来、人々の幸せと世界平和の実現を願うために存在します。そのため、どの宗教においても聖職者は自らの修行と共に、人のため世のために活動をしなければなりません。しかしながら、現実には目を向けると、宗教本来のあるべき姿とは、かけ離れていると思われる出来事が多々あります。

特に、世界のあちこちで、宗教同士の争い事が絶えず、平和どころか戦争まで起きているのを見ると残念でなりません。世界平和を実現するためには、世界の人々に大きな影響力を持つ宗教が、自ら抱える問題を解決し、宗教本来の姿を取り戻す必要があります。

宗教界の問題は、宗教人によつてしか解決できません。そのため、私は、南紀白浜の拙寺における布教活動に留まらず、世界の宗教人と交流を持ち、お互いに理解を深め合いながら、世界人類の平和のために寄与していく努力を、今後とも続けてまいります。

それが「令和しあわせの会」の実行委員長として、微力ではありますが、私が出来る事ではないかと考えております。

以上のような趣旨で発足した「令和しあわせの会」ですが、令和元年6月5日、発足記念式典



「令和しあわせの会」光永勇会長（写真中央）の令和元年6月5日発起人会のパーティーに参加していただいた環境大臣（当時）の衆議院議員・原田義昭氏（右）、衆議院議員・河村建夫先生（左）

が行われました。

代表発起人の元内閣官房長官、現自由民主党「地方創生実行統合本部長」の衆議院議員・河村建夫先生、自由民主党幹事長・二階俊博先生の右腕と言われている二階派・志帥会会長代行、田中角栄元総理大臣や二階幹事長の本を何十冊も出版している作家の太田英治先生（代表作に『二階俊博の決意』『二階俊博の執念』『津波救国』『永田町知謀戦』『二階俊博の政界戦国秘録』『安部官邸「権力」の正体』等）はじめとする約130名の方々が東京銀座に集合し、盛大に開催されました。

どうか、皆さまとのご縁が結ばれ、その御縁がさらに、またさらにと世界に広がり、ご縁の大きな輪へ。そして、世界平和へとつながりますように…。そう願わずにはいられません。合掌



「令和しあわせの会」会長・光永勇氏（千光寺信徒総代）について

今から約 30 年前、空海のお導きにより、ある人物との奇跡的な出会いがございました。その人こそ、「令和しあわせの会」の会長・光永勇氏です。

光永会長とは、同じ沖縄出身です。出会った時から「世界人類の平和」「日本のより良い選挙制度」の実現を目指しておられ、同じ志に感動したことを覚えております。それ以来、沖縄の方言で「イチャリバチョウデ（兄弟の付き合い）」の間柄を継続。現在も、「令和しあわせの会」など、様々な活動で行動をともにさせていただいております。

光永会長は、市民団体「一般社団法人全国勝手連連合会」の総裁を務め、超党派による無党派の票を集める活動を熱心に展開しておられます。選挙の立候補者が、市民の幸せや地域の発展にとって必要な人であれば、超党派での『世の中力エル』の精神で応援する。そんな活動で、全国各地の浮遊層の約 300 万票を動かすと言われている、傑出した市民運動のリーダーなのです。

世の中を変えようとすることは、何も政治の世界だけではありません。私、玄律が行っている「大日力」による世界平和、地域繁栄、個人の幸せを願う活動も、光永会長と同じ「世の中を変えよう」という運動なのです。



第5章

空海、心のふるさと和歌山・南紀白浜温泉

空海
心のふるさと、
和歌山
南紀白浜温泉

空海伝説②

「三鈷杵」さんこしよの話

空海が中国での修行を終えて、日本に帰国する時のお話です。

密教のすべてを体得した空海は、出航する港で空を見上げていました。そのときです。

「密教を広めるために、ふさわしい地を示したまえ」

そう念じながら、密教法具のひとつである「三鈷杵」を日本に向けて放ったのでした。すると、三鈷杵は金色の光を放ちながら大空を飛び、紫雲の中へと消えていきました。

その後、日本に戻った空海は、やがて密教の修禪道場にふさわしい地を探す旅に出ます。そして、紀伊国（和歌山県）の山中を歩いていたある日のこと、ひとりの獵師に出会いました。

獵師は空海に向かって、「良い場所があります。案内して差し上げましょう」と語りかけました。空海は同行し、漁師は連れていた白と黒の2匹の犬に先導させ、山奥へと登っていきました。実はその獵師、高野山の地主神「狩場明神」かりばあきみじんの化身でした。やがて日も暮れたところで、獵師と空海は山の途中にあつた神社に一泊することになりました。

すると、その神社の祭神「丹生都比売」にうつひめが二人の前に現われて、空海に、こう告げました。

「私は、この山の主です。この山をそっくりあなたに差し上げましょう」

高野山をつかさどる二人の神様に出会ったのも、大日如来のお導き。この地こそ、密教を広める場所にふさわしいのではないか。そう確信した空海は、ただちに京都の都に戻ります。都に戻った空海は、さっそく嵯峨天皇に高野山を自分に与えていただけよう申し出ます。承諾を得た後、かの地で真言密教を開創するため、塔や堂の建立に取りかかったのです。

その工事の最中のこと。空海は、ふと目にした松の枝に、何かが引っかかっているのを見つめます。近寄って見ると、それは、空海が遠く中国の地・唐より投げた「三鈷杵」ではありませんか！以来、時とともに、この松は「三鈷の松」と呼ばれるようになりました。こうして空海伝説の松として人々に語り継がれていくのです。

そもそも、この松は実に不思議な松の木でした。松葉の葉数は通常2本ですが、この松の葉は3本に分かれていたのです。



そのため、縁起の良い松として当時から都人に人気でした。平安時代には、高野山を訪れた貴族たちが御利益を得たいと、根元に落ちた三本葉の松葉を拾い京の都に帰る際のみやげにしたと言われています。

それから約千二百年を経た現在もなお、高野山の大塔前で、この「三鈷の松」が枝葉をゆつたりと広げている光景を目にすることができます。伝説の、三本松葉を探してお守りにする観光客の方々でいつも賑わっています。

なお、高野山の檀上伽藍のそばでは、空海を高野山へと導いた「狩場明神」と「丹生都比売」を祀る社を拝むこともできます。高野山に参拝する機会があれば、この伝説を思い出しながら、皆さまも訪ねてみてはいかがでしょうか。

ちなみに三鈷杵は、願望を実現する強烈な力を発揮すると言い伝えられています。そのため、護摩木を焚く加持祈祷を行う際には、私は必ず三鈷杵を手にして大日力を観じるようにしています。

不動明王の真言と般若心経を唱えて太鼓を鳴らし、護摩壇で火を焚きながら、人々の願望成就の深い願いが届くように加持祈祷を行っているのです。

「姿見の井戸」の話

高野山「中の橋案内所」から奥の院参道に入った所に「中の橋」があります。そこを過ぎた「かくばんざか覚鏝坂」の途中には、上部が木製の井桁状に組まれた井戸が掘られています。

その昔、病を患った扶閑すけずみ中納言の夢の中に空海が現れ、「我が山の霊水を飲めば、病は速やかに治りましょう」と告げたのでした。

そこで、中納言がこの井戸の水を飲むと、不思議なことにたちまち痛みが止まりました。そのため、井戸には当時、「薬井」という名前が付けられたということです。

唐（中国）の恵果阿闍梨より仏教の秘密の教え『密教』の最高位の後継者に空海がなったときに、「護摩行（加持祈祷）」の強力な大日力、靈験が、「高野聖」などによる真言密教の布教活動により日本中に広まりました。それにより、「薬井」



などの空海伝説も広まり、高野山信仰を集めるようになったのです。

昔から、この薬井の水で目を洗うと、どんな眼病もたちまちに治ったと伝えられています。そのことから、この井戸は「姿見（薬井）の井戸」と呼ばれ、高野山の七不思議のひとつに数えられています。

江戸時代には、この井戸をのぞき見て、自分の姿が水に映らなければ3年以内の命である。そんな言い伝えが広まり、現在のように「姿見の井戸」と呼ばれるようになりました。

「姿見の井戸」の左側には、同じく「こころや七不思議」のひとつといわれる「汗かき地藏」の伝説もあります。

「汗かき地藏尊」は、空海の分身として、つねに人々の罪を苦しみ、身代わりになって、汗を流しているお地藏さまのことです。中の橋のたもとのお堂に安置されています。

高野山に参拝される時には、ぜひとも、汗かき地藏尊とその右側の「姿見の井戸」を訪れてみてください。そして、空海のパワースポットの数々に触れてほしいと思います。

1 空海が信仰の拠り所とした高野山とは

平安時代のはじめに、空海（弘法大師）によって開かれた日本仏教の一大聖地、高野山。2004年には、ユネスコの世界遺産に、「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産の一部に登録されました。

816年（弘仁7年）、当時の帝・嵯峨天皇により高野の地を賜った空海は、真言密教の根本道場として、現在は、高野山真言宗の総本山である金剛峰寺を建立しました。

それ以来、約1200年経った今日もなお、空海は高野山にて「即身成仏（生きたまま仏になる）」されたまま、禅定を続けておられます。さらには、「世界人類の平和」「衆生救済（しゅじゆうきうさい）」「国家の安全」を願って、仏の真実の教えである密教を和歌山県から世界に伝え続けておられるのです。

そんな聖域、高野山についてお話ししましょう。しかし、実は「高野山」という山はありません。

高野山の中心である金剛峯寺は、和歌山県伊都郡高野町高野山にございます。寺紋は五三桐紋と三つ巴紋となっております。

和歌山県の北部に位置する高野山は、周囲を1000メートル級の山々に囲まれた標高約800メートルの平坦地です。117の寺院が密集する、日本では他に例を見ない宗教都市で、京都の東寺とともに、真言宗の宗祖である空海が修禅の道場として開山したのが始まりです。

空海は、高い峰に囲まれた平坦地である高野山を八葉蓮華（やうれんげ八枚の花弁をもつ蓮の花＝曼荼羅の象徴）と見なしました。そのため、山上に曼荼羅世界を現出できる理想の場所と考え、開山を目指したのです。

平安中期の成立とされる「金剛峯寺建立修行縁起」には、高野山に仏教の伽藍を建立するにいたる経緯が伝説的に記されております。それが、空海伝説②の「空海伝説『三鉗杵』の話」でのエピソードです。

この伝説に出てくる丹生明神は山の神であり、狩場明神は山の神を祭る祭祀者であると解釈されております。つまり、神聖な高野山に異国の宗教である仏教の伽藍を建立するにあたって、地



元の山の神の許可を得た。そうした解釈を示しているのだとされています。そのため高野山では、狩場明神（高野明神とも称する）と丹生明神とを開山に関わる神として尊崇しております。

このことから分かるように、二人の神を祀る丹生都比売神社と金剛峯寺とは古くから密接な関係にありました。神仏分離後の今日でも、金剛峯寺の僧侶は、丹生都比売神社への参拝を行っているそうです。

高野山を賜った後の空海は、日本で最初の2層の多宝塔として翌年から弟子達に命じて真言密教の「根本大塔（壇上伽藍）」の建立に取りかかりました。しかし、交通不便な山中での作業のため、工事ははかどらず、空海の在世中に完成した法界体性塔はごくわずかでした。

空海の他界後、弟子であり実の甥でもあった真然が約20年をかけて根本大塔などの伽藍を整備し完成させました。835年（承和2年）には、定額寺に列して官寺に准ずる寺格を得ることになりました。

ところがその後、994年（正暦5年）には落雷による火災のため、ほとんどの建物を失うこととなります。僧侶は、みな山を下りることになり、高野山真言宗は存亡のふちに立たされることになりました。

それでも、荒廃した高野山は、1016年（長和5年）頃から、定誓じょうよによって再興されました。

1023年（治安3年）には藤原道長公、平安末期には白河上皇や鳥羽上皇が相次いで参詣します。高野山は、現世の浄土としての信仰を集めて、再び栄えることになりました。

その後の源平の騒乱期には、高野山で出家する貴族や武士が目立つようになります。高野山に草庵を建てて住み、仏道に励んだそうです。また、北条政子が亡夫源頼朝のために建てた金剛三昧院のように、有力者による寺院建立もありました。そのため、最盛期には、高野山に2000もの堂舎が立ち並んだとも言われるほど、活況を呈するようになりました。

後の戦国時代には、かの豊臣秀吉も^{おうご}応其に帰依し、亡母の菩提のため、青巖寺（現在の総本山金剛峯寺の前身）を建てたそうです。この頃には、武士の間でも空海の高野山信仰が広まり、戦国大名が出資した子院が数多く作られました。

徳川家が大徳院を菩提所（宿坊）と定めたこともあり、諸大名をはじめ多くの有力者が高野山に子院（宿坊）、霊屋、墓碑、供養塔などを建立するようになったと言われております。

全長2キロメートルにわたる高野山の奥の院の参道沿いには、今も無数の石塔が立ち並んでいます。その中には、著名人の墓碑や供養塔も多く世界一の霊廟となりました。しかし、1879年に大火があり、多くの堂舎が焼失してしまいました。

現在は、1200年間の経緯と時間の流れの中で、1946年（昭和21年）からは、高野山真

言宗と名称を統一して今に至っております。

次に、高野山の奥の院のお話をしましょう。

奥の院とは、ひと言で表現すると「日本仏教の聖地」ということになります。国の史跡・世界遺産であり、御廟橋ごびやの先に灯籠堂、その裏に空海の御廟があります。

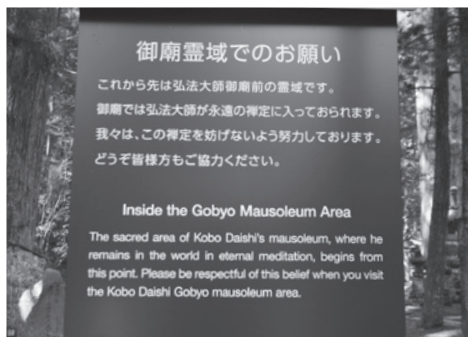
「奥の院」とは、「高野山真言宗総本山の金剛峯寺」を中心とした寺院群を指します。高野山内には、今も117の真言宗寺院が立ち並び、空海伝説のご加護を願う多くの参詣者を迎え入れています。

奥の院は、大きく2つのエリアに分けられます。

そのひとつ、墓地エリアには、徳川家康の徳川御三家の紀州徳川家をはじめとして、織田信長、豊臣秀吉、上杉謙信、戦国大名の6割以上の墓所があります。さらには、皇室、公家、などの墓が多数並びます。

その総数は正確には把握出来ないほど。無縁仏を含めると30万基をはるかに超える世界最大の墓所と言われています。





「奥之院」と「壇上伽藍」を二大聖地とし、今も人々の信仰を集める高野山。奥之院には、墓所のほか数多くの慰霊碑や供養塔があります

諸大名、皇室のお墓が立ち並ぶ中、日本を代表する企業墓や、誰もが一度は耳にしたことがある歴史上の人物のお墓を目にすることが出来ます。このことにより、奥の院は、一つの宗教のレベルを超えた「世界最大規模の霊廟」と言われております。

空海の御廟までの参道の両側に、凜として、立ち並ぶこれらのお墓は、圧巻のひとつと言。思わず1200年の歴史の流れる「静寂」に心を洗われ、すかすがしい気持ちに浸ることが出来ます。

一方、聖地エリアは、まさに高野山における「空海ならびに真言密教」信仰の中心と言うべき場所です。

奥の院では、1200年もの間、一日の休みも無く毎日、空海の食事の入った小箱を届ける儀式「生身供しょうじんく」が今も続けられています。その儀式は、僧侶が3人で燈籠堂を経由して御廟へ運ぶというもので、「維那いなの」と呼ばれる高僧だけが、御廟に入って空海に食事を届けることができます。残りの2人は、御廟に入ることができない決まりになっているのです。

つまり、高野山内でも御廟に入ることができるのは、この維那たったひとり、ということになります。そのため、維那の役職に就任した者は、御廟内部のことは一切、他言してはならないという掟があります。この世で空海の御廟の中を知っているのは、維那のみなのです。

御霊廟についても、やや詳しく紹介しましょう。

奥の院の最奥に位置し、空海の即身仏が奉られている場所がご霊廟です。真言密教では、「入定」と呼ばれる修行方法があり、空海も、62歳の時に御入定してから86年後となる921年（延喜21年）に、醍醐天皇より諡号（Ⅱ送り名）の「弘法大師」を下賜されております。

これを伝えるために東寺の「観賢」阿闍梨が高野山の御廟へ向かい、空海の岩窟御廟の石扉を開いて石室へ入ったところ、次のような言葉を残しております。

「まるで大師（空海）が生きているように座るお姿があつた」

その後、観賢は大師の伸びきったヒゲと毛髪を剃りあげ、醍醐天皇から賜った袈裟を着替えさせたと伝えられております。

その話は、時の権力者、藤原道長や、多くの人々の耳にも入ることとなりました。急速に、日本中に真言密教と「空海の即身成仏」が、伝播していくことになりました。

空海は、1245歳となった今も、世の安寧と人々の幸福を祈り続けている。そんな、「入定信仰」と呼ばれる信仰が沸き起こったため、藤原道長公自身も、後世までに残る有名な一句を残しております。

「ありがたや高野の山の岩陰に大師はいまだ在しますなる」

空海の御入定の理由としては、仏教の尊さを忘れた時代とされる56億7000万年後の「末法



空海の真言密教の天空の聖地、高野山。曼陀羅の仏が乗る八葉の蓮華座のごとく、標高約900メートルの八つの峰に囲まれたこの地に、約1200年前SUPER☆star『空海』によって真言密教の根本道場が開かれました。高野山内には百十七の寺院があり、これらを総称して『金剛峯寺』といいます。

時代」の荒廃する世に、一切の衆生（世界人類）を救済するという弥勒菩薩の降臨を待ち、その間、空海自らが仏となつて世の全ての人々を救うためではないか。そのように、語り伝えられております。

また、空海は、こうも示しておられます。

我々をとりまく宇宙を含めた環境すべては、その体现者たる大日如来の身体や言葉、意識の働きである。そのため、即身成仏となつて永遠の瞑想状態に入るためには、その大日如来の動きに同調させることが出来れば、この身のまま成仏出来る。

そう語っております。

これは、人間とは本来、この物質的な肉体を抱えたまままで生きながらに仏となり、仏の智慧を得ることが出来るはずだということをと伝えているのです。空海は、この論理を理論立てて、「即身成仏義そくしんじょうぶぎ」という經典にまとめておられます。

実は、御廟の内部にはもうひとつ建物があつて、それこそが本当の御廟。現在の御廟は「覆おほひ堂どう」で1585年に建て替えられたものであります。現在の御廟は、御入定された場所の上に建立されているのです。

つまり、奥の院・燈籠堂には地下室が存在し、御廟の地下約3メートルの「靈窟れいくつ」（＝神仏の御



霊が宿る岩穴」から、数十メートルのところにあり、地下室へ行くためには、燈籠堂の通路を時計廻りに歩かなければなりません。その真裏に向かう形で進むと、やがて眼前に空海の御廟が出てくると言うわけです。現在、内部へ入ることが出来ませんが、前でお参りすることが出来ます。さらに時計廻りに進むと、「地下法場（法場＝修行をする場所）」へ続く階段が視界に入ります。その階段を降りた先が、燈籠堂の地下室。まるで、迷路のような造りとなっております。

その最奥、空海の肖像が描かれた額絵の後方は、石壁になっております。そして、その石壁の向こう側が、ちょうど空海が座するとされる御廟の岩窟です。霊窟は地下4・5メートルに掘られた1・8メートル四方の石室の内部に石棺があり、その中に空海が座して御入定していると言われています。

高野山は、こうした場所以外でも、「高野山七不思議」の逸話が残るなど、数々の伝説に彩られた聖山です。その七不思議のお話を最後に紹介しましょう。

その一、 高野にハブ（大蛇）なし

昔むかし、高野山にも大蛇のような毒ヘビがおり、参詣人を見つけると襲いかかつて食べていたそうです。

これを聞いた空海は、大変お嘆きになりました。そこで、竹のホウキでこの大蛇を封じ込め、再び竹のホウキを使う時代が来れば封じを解く。そう約束されたそうです。しかし再び、竹のホウキは使われなかった。そういうことなのです。

その二、 高野に白なし

ある時、豊臣秀吉公が高野山に立ち寄られ、割がゆを所望されたことがありました。当時の高野山には米白がなかったので、米粒を包丁で二つに切って献上したのだとか。

太閤殿下は、米粒の切り口が見事であることにお氣付きになり、「山には白はないのか」と尋ねました。住職は、「はい、女人禁制の山に杵は沢山ありますが、白は一つありません」と答えました。

そのユーモア溢れる返答に、秀吉公は上機嫌だったと伝えられています。

その三、

姿見の井戸

このお話は、空海伝説②でもお伝えしましたが、改めて、お話をさせていただきます。

奥之院の参道、中の橋の橋詰に汗かき地藏をお祀りしているお堂があります。このお堂の右側にある小さな井戸は、姿見の井戸と呼ばれております。この井戸をのぞきこんで、自分の顔が映らないと3年以内に死んでしまう。そう伝えられております。

その四、

高野の大雨

高野山は、空海の開創以来、魚肉を禁じられております。かつて、肉食愛好の異人さんが登山すると、お大師さまはお山全体を洗い清めたと言われております。

また、毎年空海の御影供の翌日は、不浄を流し清めるために大雨が降る。そんな伝説も伝えられています。

その五、

玉川の魚

空海が、玉川のほとりで小魚を捕つて、串に刺して焼いて食べようとした山男を見つけた
ときのこと。小魚を買い取り、清流に放してやりました。すると、小魚がすいすいと泳ぎ始
めたので、男は殺生の罪を後悔して、魚をとることをやめたと伝えられています。

小魚の斑点は串で刺した痕といわれ、今でも高野山では、この魚を食べないそうです。

その六、

杖ヶ藪

京からの帰り道、空海は今まで杖に使われていた竹の棒をもういらないと考え道端にさし
こみました。すると、その逆さまの竹の棒が、やがて根をつけて枝をはり、葉をつけ、大き
な竹藪になったと言われています。

その七、

覚鑊坂かくはんとくさか

奥之院参道の、中の橋を渡ってすぐさしかかる石段は、覚鑿坂と呼ばれています。四二（死）を越えるという意味がある坂です。

四三段になっているこの坂は、万一途中で転ぶと3年ともたない寿命になる。そんな、怖いいわれが…。別名を三年坂ともよばれており、皆さまも、注意を払ってしっかり登りましょう。

高野山の七不思議、いかがでしたでしょうか。

高野山は今、海外の方々をはじめ、とても女性に人気のパワースポットとなっております。一生に一度は必ず訪ねてみるべき場所だと思います。

2 世界に注目される紀伊半島の魅力

先ほど、2004年に、ユネスコの世界遺産に、「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産の一部に登録されたことを紹介しました。世界遺産に登録されたのは、紀伊半島の富田坂（白浜町）から始まる熊野古道（大辺路街道）を含めた地域です。

そのことにより、世界が注目する観光スポットとして、紀伊半島は大いに注目されています。今では、国内はもとより、世界各国から旅行者が訪れるようになりました。

どれほど、世界を魅了する地域であるのか。世界的に有名な旅行情報誌「ロンリープラネット」に、訪れるべき日本のエリアとして、紀伊半島が世界5位と発表されていることから分かります。これは、2018年版世界ランキング（地域編）で発表されました。

この雑誌の掲載地域は、世界各地を訪れているライターが、世界で訪れるべき上位10の国、地域、都市を選んでいるもので、世界的に知られた観光地が中心です。

そんな中で、日本の一地域が選ばれるのは異例なのだそうで、世界遺産の熊野古道や高野山などの「ありのままの姿」が高く評価されたということです。具体的なエリアとして、高野山や熊野三山、熊野古道などの世界遺産、海岸沿いでは温泉リゾートの白浜が挙げられています。

その世界的に有名な旅行雑誌に、和歌山県的那智なちの滝せいがんとしの青岸渡寺の写真が掲載されておりました。

那智の大滝は、落差133メートルの一段の滝として日本一を誇ります。青岸渡寺の三重の塔の手前、本堂の如意輪観音菩薩像は、4世紀頃の仁徳天皇の時代に、インド从那智に渡来した



那智の大滝は、落差133メートル、一段の滝としては日本一を誇ります。青岸渡寺（上記写真）の三重の塔の手前本堂の『如意輪観世音』像は、仁徳天皇の時代（4世紀の頃）、インドから那智に渡来した裸形上人が那智滝の滝壺で見つけ、本尊として安置したと言われています。本堂は天正18年（1590）に豊臣秀吉が再建したもので、桃山時代の特徴を色濃く残しており、2004年7月にはユネスコの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として登録されています。その『如意輪菩薩』像を南紀白浜温泉・千光寺境内の洗心園入口左側（12月の誕生月の観音さま）にも、如意輪観音を建立しております。

裸形上人らぎようじんが、那智滝の滝壺で見つけて本尊として安置したと言われています。

本堂は1590年（天正18年）に豊臣秀吉が再建したもので、桃山時代の特徴を色濃く残しております。こちらにも、2004年のユネスコの世界遺産の一部として登録されております。

私、玄津が管長を務める千光寺のある白浜についても、その魅力をご紹介します。

白浜、そして千光寺は、紀伊半島の世界遺産を巡る拠点として理想的です。なぜなら、美しい自然や南紀白浜温泉、イルカショーやパンダで人気の「白浜アドベンチャーワールド」などの人気の施設、新鮮な海の幸に出会える「とれとれ市場」等々…。魅力的なスポットに満ち溢れているからです。

リゾートを楽しむ人々が増えている今、私が確信する日本一のリゾート地しらはまが白良浜、そして、南紀白浜温泉です。

南紀白浜温泉は、元湯のひとつである「まぶ湯」から源泉を引いております。水着着用の混浴露天風呂「しらすな」が、冬期は足湯として年間を通して営業し、崎の湯などの名湯、露天風呂が周囲に多いこともあり、冬季にも訪れる観光客も多いのが特徴です。白浜町民約2万2000人の白浜町に、年間を通して約334万人の観光客が訪れる、一大観光地となっております。

歴史をたどりますと、日本書紀に、当時の歴代天皇が、南紀白浜温泉に訪れたことが記載され

ております。その後も、斉明天皇、持統天皇、文武天皇などが湯治温泉を楽しんでおられます。万葉集にも「牟婁^{むろ}の湯」が登場するほど、古くから有名な温泉地でした。

それ以後、貴族や、江戸時代以降は紀州藩主から庶民まで、たくさんの人々が南紀白浜温泉を楽しんでおりました。

江戸末期の「紀伊続風土記」によれば、「村中六十余戸、皆浴客の旅舎となり、飲食玩好歌舞の類に至るまで都会の地に羞じざる…」と記されるほど賑わっておりました。当時の民衆の熱狂ぶりがうかがわれます。

また、南紀白浜（温泉）という呼び名の「南紀」とは、本来は紀伊国（廃藩置県後の和歌山県全域と三重県の一部）全体を指す言葉でした。そんな南紀地域も、1922年に白良浜ビーチ付近で源泉が掘り当てられたことから劇的に変化していきます。

戦後の観光ブーム、昭和40年代頃には、新婚旅行スポットとなったことで注目を浴びます。ま



た、京阪神の奥座敷として団体観光客向けの歓楽温泉として発展していきました。

その後、1975年頃から、「南紀白浜アドベンチャーワールド」や「白浜エネルギーランド」が次々と開園。それに伴い、家族向けのレジャー温泉地へと変化を遂げ大規模な温泉街に発展していったのです。

ちなみに皆さまは、「白浜温泉」という名称の語源をご存知でしょうか。

白良浜ビーチの砂は、ケイ酸含有率90パーセント以上の石英砂からなっております。白良浜の白い砂は、一般的にも古くから知られており、歌枕として使われたり、白いことの形容として使われたりしておりました。

そんな白良浜に、1989年より2005年までに約7万4500立方メートルもの白砂がオーストラリアから運び込まれ投入されました。その結果、沖縄以外の日本国内では、類をみな非常に綺麗な白い砂浜が保たれています。

オーストラリアから砂を投入したのは、日本国内では、本来の白良浜の砂ほどに白い砂が近くで見つからなかったというのが、その理由です。

白良浜ビーチの砂の成分である石英は、花崗岩に付帯する金属などのために白い砂にはなりません。オーストラリアなど、大陸内部の砂丘で長時間に渡ってさらされた砂であってはじめて、



東京（羽田空港）と白浜空港を65分で結ぶ、民営化・国際線化でますます発展する白浜空港から5分の立地に位置する水晶山・洗心不動尊千光寺・白浜別格本山

真つ白な白良浜ビーチが実現するようです。

さらに白浜は、自然が作り出す造形美にも溢れています。

そのひとつが、景勝地・三段壁です。世界的飲料メーカーが主催する飛び込み種目のワールドシリーズの会場にもなりました。

三段壁は、和歌山県白浜町三段にある自然景勝地の崖で、白浜人気ベストスリー、「円月島」「千畳敷」「三段壁」のひとつ。国の名勝に指定されています。

三段壁は、「吉野熊野国立公園」内にあり、南紀白浜温泉「崎の湯」の1・8キロメートル南の海に直立しております。長さ2キロメートル、高さ50メートル〜60メートルに及ぶ断崖絶壁の名勝として知られております。断崖には展望台が設けられ、地下36メートルには海蝕洞窟が形成され、断崖上から地中をエレベーターで降りると洞窟内部を観覧でき、三段壁洞窟と呼ばれています。

その名称に関しては、三段壁の場所に、鯨（魚）の群れを見つけるための監視場（見段・みだん）があり、これが転じて三段壁と呼ばれる様になったそうです。実は、あまり人目のつかない茂みの中に、大きな岩に文字が刻まれた「口紅の碑」があります。

1950年6月10日に、ある事件がこの場所で起こりました。ある若いカップルが、海に身を

投じたのです。許されぬ結婚を誓いあつた男女が、生まれ変わつても一緒になることを誓い合い心中した事件でした。

そばの岩に「白浜の海は、今日も荒れてゐる」と、口紅で遺言が書き残されておりましたが、その文言は、二人の結婚が成就するようにと、友人が翌年の6月10日に岩に刻みこんだと言われております。

二人とその友人の想いには、恋愛成就の意が込められていたことからか、その岩をカップルや夫婦で触れるといつまでも一緒に幸せになれる。あるいは、好きな人と一緒に触れると両想いになれる。いっしょか、そんな噂が広まり、人気スポットとなっていました。

近年では、カップルが岩場に座つて景色を楽しんでいたりと、ウエディング写真を撮影したりと人気のデートスポットになっているようです。2016年4月には、プロポーズにふさわしいロマンチックな場所として恋人の聖地に認定されております。

展望台横に設置されているハートのモニュメントには愛鍵（南京錠）をつけることが流行とな



り、2017年には、第3回恋人の聖地観光交流大賞を受賞するなど、ますます盛り上がりを見せております。

そんな三段壁ではありませんが、その昔、熊野水軍の舟隠し場だったとされる洞窟があります。

16世紀のヨーロッパで最も普及していたラザロ・ルイスの世界地図には、紀伊半島の熊野は「盗賊島（海賊）の根拠地」と書かれております。熊野水軍は、それほどヨーロッパ人たちに怖れられていました。結果として、ヨーロッパ諸国の日本への侵略を阻んだのかもしれない。

それでは、熊野水軍とは、いかなる軍団だったのでしょうか。

白浜温泉のある紀伊半島は山に覆われ平地はほとんどありません。そのため、物資を陸上で運ぶのは不便な場所でした。一方で、豊富な船材と良港に恵まれた地域だったため、海上交通が発達しました。

そのため、水上兵力が大きな力をもつようになりました。やがて、「熊野水軍」と呼ばれる人々が海上を舞台に活躍するようになり、別名、熊野海賊とも呼ばれました。熊野水軍は紀伊半島南部を拠点として活動し、次第に、瀬戸内海の制海権を握るまでに勢力を拡大します。

熊野水軍を統括したのは、熊野三山の実際上の統括者である熊野別当くまのべつどうです。熊野水軍は、平安時代末期の源平合戦に参加。合戦も大詰めに入ったころ、熊野別当家の湛増たんぞうは、平氏に味方する

か、源氏に味方するかで迷います。そこで、白浜に隣接する田辺市の闘鶏神社で占いをたて、神意を問うたと言われています。

その占いとは、社前で赤白の鶏を戦わせ、赤の鶏を平氏、白の鶏を源氏に見立てて勝ったほうに味方するというものでした。赤白の鶏を戦わせてみると、白の鶏がすべてに勝利します。この様子を見て、湛増は源氏に味方することを決めたと伝わっております。

そして、200船あまりに及ぶ熊野水軍を率い、壇の浦へ出陣。平氏の軍勢を壇の浦に沈め、源氏を勝利へと導きました。

熊野水軍は、紀伊半島西南部の日置川ひきがわの安宅氏あたぎ、すさみの周参見氏すさみ、新宮に鵜殿氏うどの、尾鷲九鬼浦の九鬼氏くき、尾鷲浦の向井氏などで構成されておりました。そのうち、安宅氏は一族が淡路に渡り、戦国時代には三好氏の水軍として活躍しました。九鬼氏は、本拠地を志摩に移し、戦国時代には織田信長の水軍として活躍。江戸時代には、大名として存続しました。

熊野水軍関連の観光名所としては、田辺市の闘鶏神



社や、田辺扇ヶ浜海水浴場などがあります。扇が浜の公園には、「熊野水軍出陣の地」の碑があり、「九龍島」は、熊野水軍の拠点だったと言われています。

いずれも、白浜に隣接した地域。白浜を訪れたら、一度、足を伸ばしてみてください。

南紀白浜温泉では、景勝地「えんげつとう円月島」観光も外せません。

円月島は一般的な呼称で、正式名は高島たかしまと言います。白浜町の臨海浦に浮かぶ島で、国の名勝に指定されており、南紀白浜温泉のシンボルでもあります。

景勝地としての歴史は古く、1887年ごろに来遊した津田正臣が詠んだ五景詩のうちの「円月島」に始まり、1889年発行の「紀州西牟婁瀬戸鉛山温泉図」には、絵画や漢詩とともに円月島の名が登場しております。1908年の「紀州田辺湯崎温泉案内」によって、円月島の名は全国に広く知られるようになりました。

円月島夕景 (sunsetview) の名所として知られ、春分・秋分の時期には島の中心部の穴を通



して夕日を拝むことが出来ます。近年のソーシャルメディアブームにのり、その時期の夕方には、一流カメラマンとSNSの投稿撮影する200〜300人位の方々と、大変賑わっております。

円月島の大きさは、南北130メートル、東西35メートル、高さ25メートル。島の中央に、海蝕による直径約9メートルの円月形の穴（海蝕洞）が開いていることが大きな特徴です。この外見的特徴が、一般的な通称の由来となったと言われております。

白浜観光のご紹介の最後は、「アドベンチャーワールド」で締めたいと思います。

パンダとイルカショーで有名なアドベンチャーワールドは、白浜の千光寺から車で約5分の場所にあります。

その名前に「冒険」を意味するAdventureと、「世界」を意味するWorldを組み合わせて、「動物園」「水族館」「遊園地」が一体となった世にも珍しいテーマパークがアドベンチャーワールドです。

1978年4月のオープン当初は、「南紀白浜ワールドサファリ」という名称でした。その後、「人間と動物と自然とのふれあい」をテーマに、今日の形に進化し話題となります。

その園内には、ジャイアントパンダの飼育展示をはじめとするPANDA LOVE、広大な敷地に放し飼いにされた動物たちの中を冒険バス「ケニア号」が進むサファリツアー、イルカたちのマリッライブ「Smiles」などが人気です。動物たちの生き生きとした姿を観ることが出来る、

貴重なスポットとなっております。

春・夏・冬休みの期間中には夜間営業も行われ、昼間とは違う動物たちの姿を見ることが出来ます。また、夜間営業中は、夜間のイルカショー「LOVESナイトマリンライブ」が開催され花火も打ち上げられるなど、昼間のショーとはまた違った趣きで楽しめます。

しかし、なんと言っても有名なのは、ジャイアントパンダでしょう。飼育の様子を気軽に見ることが出来る貴重な施設として、全国的な人気を誇っております。

アドベンチャーワールドは、中国の成都市の「成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地日本支部」として活動しておられるそうです。パンダの繁殖研究事業では、2018年9月までに17頭の繁殖実績があり、これは、出産頭数、成長した子供の数ともに中国本土を除けば世界最多。双子のパンダを両方とも育てることに成功しております。

現在、日本では、アドベンチャーワールドの6頭、東京「上野動物園」の3頭、神戸「王子動物園」の1頭を合わせて10頭のパンダが飼育されております。



その中で、白浜のパンダは、屋根の無い空間で自由に過ごすパンダを見ることも出来る「PANDALOVE」と「ブリーディングセンター」の2カ所に分かれて暮らしています。ただ、アドベンチャーワールドは、中国のパンダ繁育研究基地の日本支部を兼ねているので、パンダは子供も含めて、すべて中国の所有となっており、1頭のリース料が1億円?とささやかれております。

和歌山県と白浜町では、このパンダを最大の観光資源と位置づけており、白浜千光寺から250メートルの位置にある白浜町役場には、「パンダの町白浜」の揭示を行い、積極的にアピールしております。

その他にも、アドベンチャーワールドとJR西日本がコラボレーションしたラッピング列車が運行されておりしております。また、パンダのイラストが描かれたバスの運行など、「パンダの町」として町を挙げて取り組んでおります。

ちなみに、白浜で誕生したパンダの名前は全て2文



字目を「浜」に統一しております。現在飼育中のパンダは、1992年9月、中国の北京動物園にて誕生し、1994年9月6日に白浜へ来園したオスの永明チョウメイをはじめとする6頭です。

2011年3月には、仁坂吉伸和歌山県知事より、「和歌山県勲功爵くんこうしやく（わかやまでナイト）」の称号が、パンダたちに贈られております。

このように、見どころ満載のアドベンチャーワールドですが、周辺も含めた設備・施設の充実ぶりにも目を見張るものがあります。

園内は、動物をテーマにしたレストランやカフェなども開設。出入口の前には、愛犬と一緒に泊まれて、飲み物や食べ物を持ち込みOK、しかも、自炊も可能な「Kパンダのお宿チェーン」(<http://www.kpandanoooyado.jp>)の貸し別荘空間が広がっております。

約1600区画展開しており、子供たちだけでなく大人でも楽しめる宿泊施設として、ただ今、人気急上昇中です。各戸、天然温泉付きの貸別荘として、大勢のファミリーやカップル、ご夫婦が利用しております。

世界人類の平和を祈願して建立された、約8メートルの黄金色に輝く「大慈眼観世音菩薩」を含めた観音さまが、「大日如来」を中心に放射状に建立されており、まさに『空海の立体曼荼羅の世界観』として話題の空海のテーマパーク白浜千光寺をはじめとする白浜の観光地や、アドベ



空海ゆかりの千光寺境内で執り行われた古くから修験者（山伏）に伝わる秘法、柴燈大護摩供の後に執り行われる火渡りで穢れ、心の迷い、煩惱、厄を焼き清めます。

ンチャーワールドを観光で立ち寄られた際には、ぜひともご利用ください。

空海伝説③

和歌山に残る「空海伝説」の足跡

熊野古道や白浜温泉の周囲の集落には、空海が歩んだ足跡（お遍路）の伝説がたくさん残っています。その中から、いくつかご紹介しましょう。

空海が熊野に向かう途中、現在の南紀白浜温泉に隣接する上富田町朝来あその集落に差しかった時のことでした。喉が渴あせいたので、村人に水を所望しました。すると、村人は、遠くにある水場まで行き水を汲んで戻ってきたのです。

その様子を見た空海は、「この村は水を得るのに苦労しているようだ。私が何とかしてやろう」と、その場で不動明王真言を唱え『加持祈祷』を始めました。すると、足下から清水がこんこんと湧き出てきました。村人は大いに喜び、その清水を空海の「弘法井戸」として名付け親しまれているそうです。

その他にも、熊野九十九王子（修験道を繋ぐ神社）のひとつ、本宮町内の「水呑王子」も、空海が地面に杖を突き立てて、大日力により、清水を沸き出させた場所だと言い伝えられています。

その本宮町の^{おおげ}大瀬という集落には、空海と蕎麦^{そば}にまつわる伝説が残されています。

集落の馬頭観音のそばに一軒家がありました。空海は、旅の途中に日が暮れたため、その家を訪れて、出迎えたお婆さんに「一晚、泊めていただきたい」と申し出ました。

お婆さんは快く空海を迎え入れましたが、旅のお坊さんを持てなす食事を用意する余裕がまったくありません。そのためやむを得ず、蕎麦を育てるために保存していた蕎麦の種を3合、臼で引いて空海に提供しました。

その持てなしに空海は感激し、お婆さんにあることを伝えて去りました。

「そのそば殻を、家の外の適当な所に捨てておき



なさい。しばらくすると蕎麦が生えてくるでしょう」

「おかしな事をいうお坊さんだな」と首を傾げながらも、お婆さんは家を出て適当な場所にそば殻を捨てました。すると不思議な事に、そば殻から芽がでて育ち始めたそうです。以来、種をまくことなく、毎年、自然に蕎麦が生えるようになったといえます。

村人たちは、大瀬の馬頭観音の境内に「蕎麦大師」として空海の像を建立し、空海への感謝を表したそうです。

この他にも、まだまだ「空海伝説」は、和歌山の各地に残っています。

有田市に残っている逸話もそのひとつです。空海がこの地を訪れた際、直径4メートルの岩に阿弥陀如来と地藏菩薩の姿を描きました。自らの爪で描いた「爪書地藏」が、今でも残っています。薄い線で描かれ、里人の安全・幸せを願って描いた仏様だと言われています。

そこで「水をかけると浮き出てくる」と、水をかけお参りする人がいたため別名「水かけ地藏」と呼ばれる事もあったそうです。ただし、信仰心のない人や悪い人には何をしても見えないとか…。

現在は、その爪書地藏を覆うように祠ほらが建てられています。

白浜温泉のお隣の串本町の海岸には、空海が天邪鬼あまのじやくと、「一晚で大島まで橋を架けてみせ

よう」と競争をした名残だと言われる伝説が残っています。「橋杭岩^{はしぐいいわ}」と呼ばれる奇岩群がその舞台です。

この勝負で、空海に負けそうになった天邪鬼は、コケコッコーと鶏の鳴きまねをして夜が明けたと空海をだまそうとしました。空海はその策略にまんまと陥り、鶏の声に夜明けがきたと勘違いして橋を架ける作業を止めてしまいました。

そのため、島にかける橋を完成させることなく、杭のみが残されました。「橋杭岩」は、その伝説から名付けられたそうです。

この他、空海が難蛇龍王のお告げで開き名付けた南紀白浜温泉に隣接する田辺市の龍神温泉「龍神の湯」、空海が高野山を開創した際、月に9度はこの道を歩いて山を下り、麓の慈尊院に滞在していた母のもとに通われたという高野山の「町石道」、空海が杉の箸を地面に突き立てたところ、芽が出て巨木になったといわれる本宮町の「弘法杉」などなど…。

千光寺のある和歌山県白浜町の周辺は、空海伝説に彩られているのです。 合掌



南紀白浜温泉の「松下村塾」を目指して

日本の歴史の中で、江戸時代の幕末期ほど、数多くの偉人を輩出した時代はないでしょう。そうした方々の育ての親とも言うべき人物が、吉田松陰先生で、私塾「松下村塾」からは、後の明治維新を形づくった主役たちが次々と巣立っていきました。

そんな山口県の「松下村塾」を、和歌山県の白浜千光寺境内に設置させていただいております。千光寺の信徒総代であり、「令和しあわせの会」会長の光永勇氏が目指す、「世の中力エル」運動。そう考えて開設させていただきました。

人には、上も下も右も左もございません。ここは、皆で一緒に、前向きな「しあわせになる」ための勉強をする場でありたいと考えております。私としては、塾長の光永会長には、多くの塾生と一緒に現代版の明治維新、「令和維新」を、ぜひ興していただきたいと思っております。その力に少しでもなれるよう、常日頃から、空海の秘技「加持祈祷」を執り行っているのです。

いつかこの白浜千光寺の「松下村塾」が、本家のように世の中を変える原動力となる人材育成の拠点を意図して、日本仏教協会の「仏教」を用いた企業・経営者を対象とした研修制度を導入しました。



第6章

空海にしたしむ、千光寺



1「空海のテーマパーク」を白浜に

「インスタ映え間違いなし」。

そんな噂で持ち切りの、今話題のお寺があるのをご存知でしょうか。それが、空海ゆかりの南紀白浜温泉の洗心不動尊千光寺です。

境内には、世界人類の平和を祈願して、仏教の奥義である密教の根源仏、大日如來の石像を中心に放射状に建立。黄金色に輝く皆さまの誕生月の菩薩さま十二尊を配置し、空海の描く立体の曼陀羅の世界観をそっくり再現しております。参拝される方々に、その世界を感じていただけるように建立したお寺でございます。

場所は、南紀白浜温泉にある白浜町役場とその前のヒルトンホテル系列のマリオットホテルから約250メートルの位置にあります。この「空海のテーマパーク」、千光寺について、その成り立ちからお話しましょう。

南紀白浜温泉にある洗心不動尊千光寺の総本山（宗教法人の主たる事務所）は、兵庫県にあり

ます。

先の章でもご説明いたしました、彌栄上人から、約300年の歴史があります。ただし、宗教法人としての設立は、1952年9月19日となり、約67年が経過しております。

その間、1995年に発生した阪神・淡路大震災により、私とご縁を持った多くの方々が命を落とされました。その死に直面した時ほど、命の尊さや、仏さまを観じたことはありません。

その時、煩惱（欲望）をパワーに変えて空海の「現世利益」げんせいりやくを、生きている今を一所懸命に生ききる。そう痛感いたしました。そのため、空海の高剛界の曼陀羅の知恵を悟り、被災寺院から姫路の霊峰・雪彦山の麓に移転したのです。

そして、再建等々で長らくお務めさせていただいた千光寺の責任役員より、代表役員（管長）に2000年7月2に就任。速いものでそれから約20年、仏縁を頂戴して、令和元年



で約30数年の月日が流れました。

千光寺の宗教法人設立の登記目的は、千手観音を本尊とし、弘法大師を宗祖として尊信し祖廟中心の宗是に基き高野山真言宗（現在の千光寺は単立宗教法人です）の教義を広め、儀式行事を行い信者を教化育成。祖風宣揚密教隆衆生済度の聖業に精神し、その他この寺院の目的を達成するための業務及び事業を行うと、目的を記載、登記されております。

そのころは、弘法大師（空海）を宗祖とし、高野山・真言宗の教義（真言密教）を広める目的を達成するための業務及び事業を行うことです。それが千光寺に課せられた役割であり責任となっております。

こうした責務をさらに推進するために、南紀白浜温泉に「空海の立体曼陀羅の世界」を創造することになりました。そして、その白浜千光寺境内を、空海になり代わって教えを広めた高野聖の末裔^{まつえい}としての千光寺総本山の管長となった私が、空海玄津として、インスタグラムにより外国の方々にも発信。「SUPER☆star空海」の願望達成術（HAPPY method）として、真言密教の布教活動を日夜、精進していくことになったのです。

こうして誕生した白浜町水晶山の洗心不動尊、千光寺（白浜千光寺）ではありますが、境内の洗心園の面積は約3000坪あります。私が管長となり千光寺を移転する際、よりよい「空海の

千手観音真言

オン バザラ タラマ

キリク ソワカ



空海を宗祖とし、千手観音を本尊として、高野山真言宗の教義を広める
目的を目指す千光寺総本山の責務

テーマパーク」にすべく、大規模な改修工事を行いました。

千光寺の立体曼陀羅の世界観を感じていただくため、黄金の約8メートルの大慈眼観世音菩薩や、同じく黄金に輝く約3メートルの十二尊の観音さま、不動明王八尊の建立をいたしました。こうした移設を含めた大規模な工事を敢行したのです。さらには、白浜千光寺から白良浜ビーチ側への北出入口の道路を広げ、ロータリーとアスファルト舗装も施工いたしました。この整備が完成し、白良浜ビーチまでは徒歩5分となり、海水浴場への抜け道として、とても便利になっております。

また、白浜千光寺には、天然温泉を引き込み温泉湯治施設を兼ねた宿坊しゆくぽうも建設予定でございますが、もともと古井戸があつた場所でした。その宿坊にまつわるお話をさせていただきましょう。「宿坊（宿房）」とは、主に仏教寺院などで僧侶や参拝者のために作られた宿泊施設のことです。僧侶専用の施設は僧房ともいいます。

本来は、僧侶や参拝者のみに特化した宿泊施設でしたが、現在では一般観光客も積極的に受け入れる施設が増加しました。それに伴い、設備やサービスを拡充しようとする傾向が見られるようになりました。高野山福智院のように、天然温泉を引いた露天風呂を併設する寺院もあります。このような一般の方々も宿泊まり出来る施設に変化していったのは、平安時代のころからです。

当時、寺社参詣の普及により、貴族や武士、更には一般の参詣者も宿泊させるようになりました。運営者も僧侶から寺院周辺の半僧半俗の経営者（御師）に移っていきます。

江戸時代になると、お伊勢参りや金毘羅参り、善光寺詣でが大衆化します。そのため、各地の大寺社には宿坊が整備され、一般の参詣者や観光客を泊めるようになりました。特定の地域と特定の宿坊が結びつくなど、一種の観光事業を形成するようになったのです。

近年では、高野山宿坊などのように、上質さを競う傾向も見られます。その一方で、巡礼者のために宿坊を直接営む、四国八十八箇所寺院のような形態もあります。そして、ほとんどの宿坊では、宿泊者に対して朝のお勤めとして住職の講話などを行っており、任意参加の形式の所がほとんどとなっております。

一部の寺院では、比較的安価な宿泊料金で、精進料理を味わうことができます。禅寺などは、坐禅も体験する事が出来るようになっていたのも大きな特徴です。

一部の宗派の包括的総本山、または、本山となっている寺院の宿坊を兼ねている寺院では、その包括的宗派に所属する僧侶・信徒のみが利用出来るものもあります。そのような宿坊では、所属寺院から発行される証書を持つことが宿泊許可の条件とされるケースが多くなっております。

さて、白浜千光寺の宿坊に関しては、次のようなエピソードがございました。

私が、白浜千光寺へ、最終的な改修工事の打ち合わせに行ったときのことです。境内の大日如来尊の石像に祈願されていた高齢の女性から、突然、「寄付するので、ここへ宿坊を作ってください」と、お願いされたのです。

そのご婦人がおっしゃるには、大阪の枚方から度々来るのは大変なので、河津桜の横の海の見える古井戸の場所に、宿坊を立ててほしいとのことでした。さらにお聞きすると、このように語ってくださいました。

「亭主に先立たれ、子供も身寄りもございません。そのため、自分が他界すると、墓守りもいなくなります。その寂しさから開放されるのは、唯一、白浜の水晶山にあらせられる『大慈眼観音菩薩』さまに、手をあわすことです。ただ、足が悪いため、枚方から何度も電車で来るのは大変です。今の小さな自宅を寄進しますので、売却したお金で宿坊を立ててください。その宿坊で、



大慈眼観音さまと一緒に、海を眺めて暮らしながら余生を楽しみたいのです」と。

その時私は、「実は私は、このような出で立ち（作務衣）ではありませんが、千光寺総本山の管長なのです。おばあさまのお気持ち、受け止め、必ず宿坊を完成させていただきます。そのことを、大日如来尊の前で、お約束させていただきます」とお伝えし、お別れさせていただきました。

そして約1ヶ月後に、檀家総代さんより「今、宿坊風のホテルビジネスが話題だね…」と言われ、私はびつくりしました。またしても、空海の「引き寄せの大日力」としか言いようのない現実の話となりました。現在、白浜千光寺の道路を挟んだ目の前に近代的な宿坊として、15階建て（68室）の「ホテルコンドミニアム（分譲マンション型）宿坊・民泊モデル」が建設中です。建設事業会社は、JVにより、近畿一円でビジネスホテル等（約2000室）を展開しているCTF社により令和2年12月のオープンを目指して急ピッチで大規模な工事が進んでおります。この建物が完成するころからは、東京（羽田）〜白浜温泉を65分で結んでいた白浜空港の民営化・国際線化も進み、南紀白浜は大発展を遂げる「きっかけ」となると、私は確信しております。

このように、白浜町水晶山の千光寺境内の改修時には、様々なことがございました。それでも、人生最大といってよいほどよかった事もございます。それは、ITなど全く無縁だった私が、世界中に境内で写真を撮ってインスタグラムに投稿して布教活動が出来る時間が取れた事です。

よく考えてみると、これは、空海の願望達成術である真言密教を、世界中の人々に伝えなさいとの、初代空海からの霊指だったと確信しております。やはり、空海は超人、そしてSUPER☆starだと感じ入っているところであります。

インスタグラムでの1000回の投稿修行としての発信を決めたのは、白浜の千光寺の改修工事であとわずかで完了するという時でした。安堵したのもつかの間、新たなお務めがスタートすることになりました。これもまた、有難いお仕事（新しい現代風の修行）だと思っております。

2 千光寺の宝「空海像」について

千光寺には、大切な宝物ほうぶつが安置されております。それが、約300年前に製作された、と言われる伝説の空海の木像です。霊峰・雪彦山にある千光寺総本山のお蔵に安置されていた像を、白浜の千光寺に移したものです。

この像は、阪神・淡路大震災のうちに、被災寺院となった神戸市内の千光寺本堂の瓦礫がれきの山から探し出した寺宝です。しかし、必死になって探索しましたが、残念な事に、右手に五鈷杵ごこしよを持

ち左手に108玉（煩惱の数）の念珠をお持ちになられる手が、いくら探しても見つかりませんでした。そのうえ、像本体も大変損傷が激しい状態でした。

しかし、奇跡的に千光寺総本山を建立したと伝えられる「賢照上人」の位牌と一緒に見つける事ができました。それが、現在、白浜の千光寺の寺宝像として安置され公開されております。

ちなみに、千光寺の建立を発願した彌栄上人は、もともと高野聖でありました。高野聖とは、空海の使命によつて第二の空海になり代わり、全国各地で困っている人々をお助けした方々を指します。こうした救済活動を行っているときのみ、「空海」を名乗る事が



許されておりました。

そうした高野聖のひとり、彌栄上人を師事した賢照上人は、空海伝説をつくりながら、護摩行による「大日力」などの真言密教の現世利益げんせこりやくを各地で伝えておられた方です。その使命により、摂津（現在の兵庫県神戸市）にて、布教活動をしていたと言いつたといわれています。

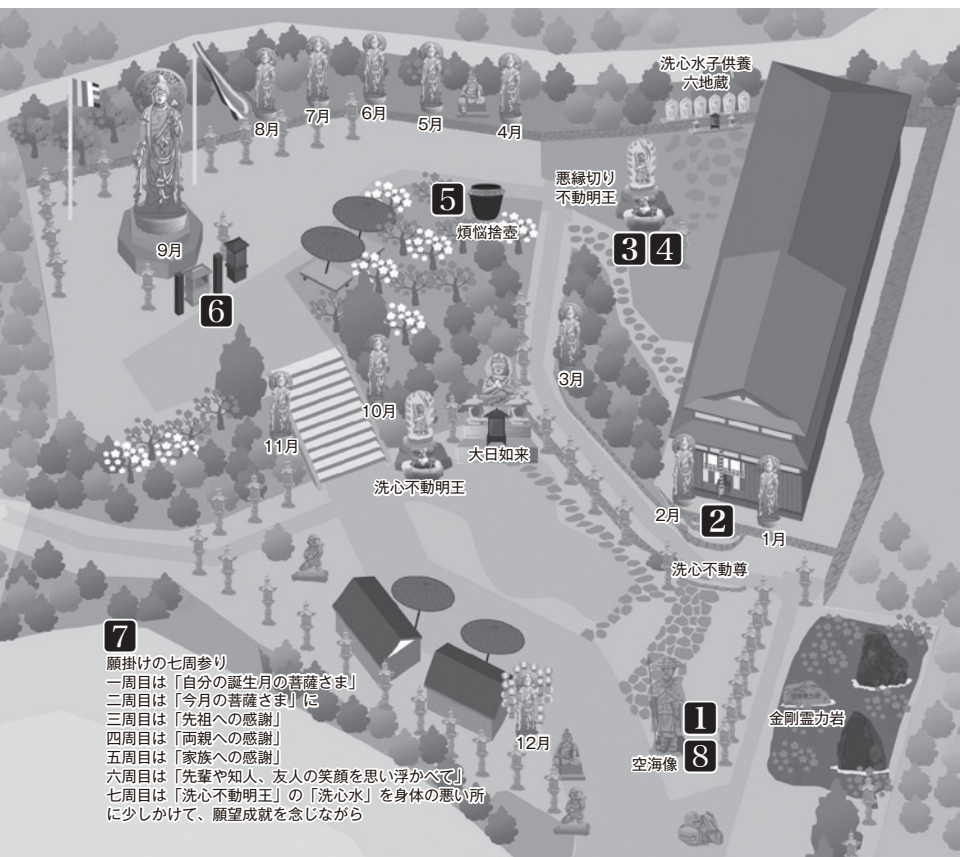
そのようなわれから、高野聖の流れを汲む千光寺総本山の管長となった私、玄津は、「善徳の行い」と「真言密教の布教活動の行い」を遂行していると言うわけです。そのため、僧侶として、そうした使命を行う場合に限り、「高野聖の流れをくむ、空海玄津」として、活動しております。

3 空海との「同行二人」どうぎょうににんで祈願成就を

今、若い女性にも人気のお遍路さん。お遍路とは、元々は弘法大師（空海）の足跡をたどる、四国八十八ヶ所の霊場を巡拝する旅のことをさしております。

お遍路の目的は、自分探しや開運・縁結びなど様々です。巡礼者が持つ笠には、「同行二人」どうぎょうににん

《白浜町水晶山 報恩洗心園内の参拝順路MAP》



という文字が書かれており、一人は自分、そしてもう一人は空海を意味しております。つまり、お大師さまと自分自身との二人で巡礼の道を歩く。それがお遍路なのです。

白浜千光寺なら、四国をお遍路として巡るのはちよつと無理かも…と思っておられる方でも大丈夫。境内の観音さまに参拝するだけで、お遍路が出来てしまうからです。

そこで、観音さまについて、そして白浜千光寺のお遍路（同行二人）についてお話ししましょう。

観音さまは、悟り求めて修行しながらも、人々のあらゆる願い事をかなえてくれる現世利益の菩薩さまです。三十三の姿に変化して人々を救うとされています。その変化の様子を仏像で表すため、古来より多様な観音菩薩像が作られました。そして、多くの人々の心の拠り所として信仰されてきたのです。

空海の真言密教では、全ての観音菩薩は南紀白浜温泉の洗心不動尊千光寺の洗心園の中心に建



立されている大日如來の化身とされており。その空海の靈指により、白浜千光寺では、黄金色の十二体の觀音さまを建立しております。

願掛け参りをされる方は、洗心園内の1月から12月の各觀音さまを順番にお参りしていただきます。順路に沿って、2周目に参拝される方の誕生月、3周目に、参拝に訪れた月の觀音様に手を合わせて、その觀音様の真言（古代インドのサンスクリット語へオンバザラマキリクソワカ）等々（觀音様によつて真言は変わりますのでご注意ください）を8回唱えていただきます。

そのことにより、真言密教の法力、つまり、人が本来持つオーラパワー、超能力を引き出す「大日力」を与えられます。唱えるときは、手は胸の前で、左手の小指を下になるように指と指を交互に合せて金剛合掌いたしましょう。その際には、心で先祖さまやご両親、家族など、係わりを持った全ての人々に感謝を強く念じていただきます。そのようにすれば、真言密教の奥義「三密」によつて、参拝者の願望が達成出来るとされております。

これは、空海と一緒に願掛けしているのと同じことだとされ、これが「同行二人」です。

今の願いを叶えたい、厄払いをしたい、試験に受かりたい…。それらの願掛けを成就するためには、最低限度のルール「作法」が必要となります。その不思議な「大日力」を体験できる、白浜千光寺の「同行二人」の作法を詳しくご紹介しましょう。

千光寺境内の梅林「洗心園」の入り口には、後ろ姿の空海像があります。その空海像の正前に建立されている大日如来石像を中心とした空間（立体曼荼羅）は、世俗と離れた仏さまの世界です。空海像より内側へ進むということは、迷いの世界から悟りの世界への第一歩を踏み出すということです。参拝者は一礼をし、心を引き締めて「同行二人」、つまり空海と二人で一緒に南紀白浜温泉の洗心不動尊千光寺境内に入る姿を思い浮かべてください。

その際は、「南無大師遍照金剛」と、3回唱えてみましょう。これは、真言密教では「御宝号」と呼び、空海を讃えるお言葉です。このお言葉を唱えて日々の感謝を表することにより、守護の法力を得ることが出来るのです。

こうして準備が整ったら、次のように順序立てめぐりましょう。



1 大日如来像にお辞儀をする

空海石像の右（東）横に立ち、大日如来像へ向かって合唱したままお辞儀します。女性は右足から、男性の場合は左足から右手の千光寺本堂へ向かう自然石の階段の方へ進みます。



2 心しずかに合掌する

階段の左右の千手観音さまにお辞儀をして、階段を上がり、改めて胸の前で合掌したままお辞儀をし、お賽銭は投げずにそっと入れます。鈴を鳴らして真言（右手看板下に記載）を唱えてから願い事を唱えます。

3 「悪縁切り不動明王像」へと進む

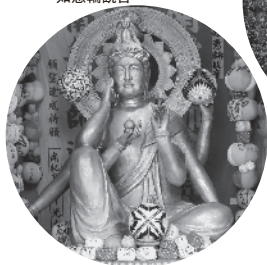
本堂に向かって左手の順路に進み、右手にある厄よけ、良縁結びの「悪縁切り不動明王像」の前にある手水舎で手や口を清めます。

4 手や口を清める

柄杓を右手に持ちたつぷりと水を汲んで左手を清めます。柄杓を左手に持ち替えて、さらに右手を清めます。再び柄杓を右手に持ち左手で水を受けて口をすすぎます。改めて左手を



▼12月誕生月の菩薩様
如意輪観音



清めます。残った水で柄杓の柄を清めて元の場所に戻します。

5 煩惱を捨て去る

左手へ進むと大きな「煩惱捨壺」があります。その壺の中へご自身の抑えきれない欲望や邪心を、頭の中で唱えながら捨てます。

6 祈願する

正面にある「大慈眼観世音菩薩」の前で一揖（軽く一礼）し、胸の前で合掌したまま祈願します。終わった後で再度、一礼します。

7 願掛けの七周参り

願掛け参りをされる方は、さらに「七周参り」（合計八回）を行うとよいとされます。願掛け参りの一周目は「自分の

いかがでしょうか。「プチお遍路さん」これなら、「私にも出来る!」と、安心されたのではないのでしょうか。

こうした「同行二人」は、寺院・神社などの聖地を参拝する巡礼の旅ですが、心身を浄



▲5月誕生月の菩薩様
准胝観音

誕生月の菩薩様」。二周目は「今月の菩薩様」に祈願します。そして三周目は「先祖への感謝」。四周目は「両親への感謝」。五周目は「家族への感謝」。六周目は「先輩や知人、友人」の笑顔を思い浮かべてお詣りします。最後の七周目は、洗心不動明王の「洗心水」を身体の悪い所に少しかけて、願望成就を念じながら廻ります。そして、願掛け「七周参り」を終えた後に、本堂に改めて願い事をしてお務めは完了です。

8 最後に千光寺境内の梅林「洗心園」から出る

正面より空海像に合掌し、一緒に順路を廻っていただいたお礼を伝えていただき、左手本堂に一礼して退出します。

化するとともに、日常から解放される旅でもあります。こうした旅は、古来より、四国八十八ヶ所の他にも各地で行われてきました。「高野山」「熊野三山」「伊勢神宮」などがそれです。

こうした有名な聖地を巡礼することは、いつの時代も庶民の憧れでした。巡礼の際には、白衣を身にまとい、空海の金剛杖を手に持つのが慣わしです。

白衣には、心身を清らかにして、空海のお導きで巡礼・修行させていただく意味が込められております。そして、金剛杖は、空海と一緒に「同行二人」で巡礼していることを意味しているのです。

南紀白浜の洗心不動尊千光寺は、真言密教の聖地である高野山や熊野三山へ続く「お辺路」の入り口にあります。

そのため、白浜千光寺で白衣をまとい金剛杖を手にして巡礼の準備をするのもおすすめです。皆さまの誕生月の菩薩さまと、大日如来の化身である大慈眼観世音菩薩様に手を合わせてから高野山へ出発する。そんな方も、実際におられます。

ただ、あまり気負わずに参詣される方も大歓迎です。白浜千光寺の境内は、ハイヒールでも5分〜10分で巡れます。気軽に白浜千光寺に来ていただき、願掛けをされてはいかがですか。

4 誕生月の観音さまについて

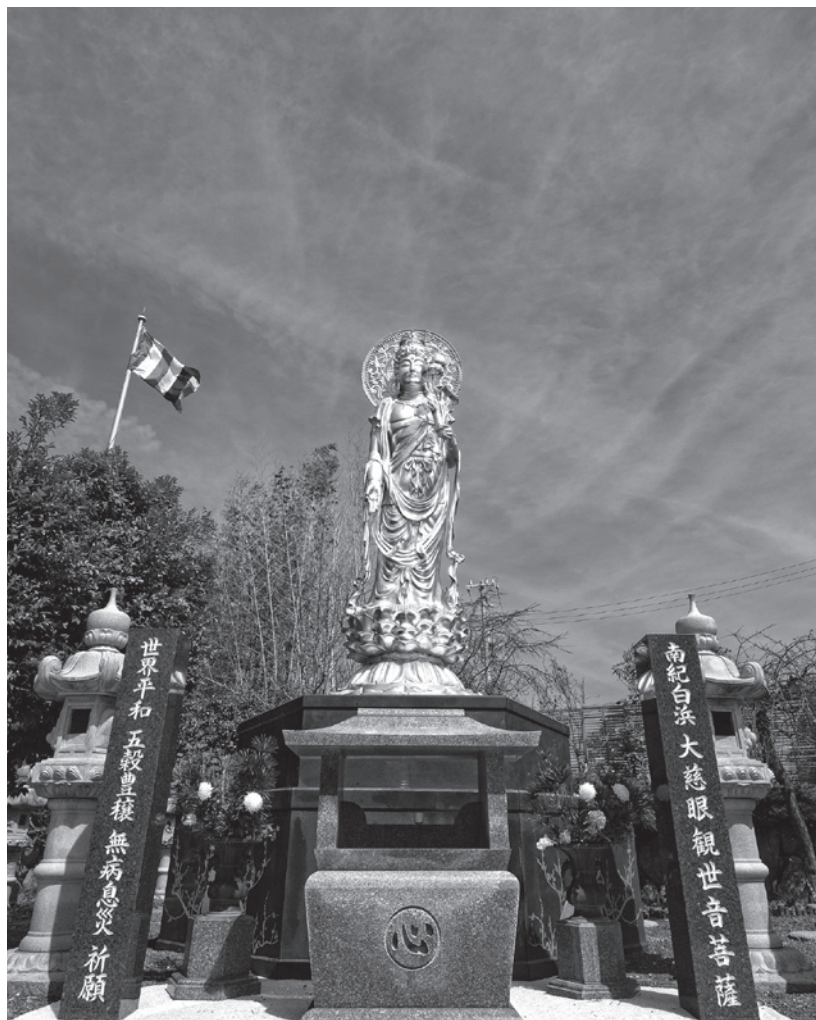
先ほど白浜千光寺にて、夢を叶えることが出来る「同行二人」についてご紹介しました。ここでは、境内を巡る際に祈願する観音さまについてご説明しましょう。

南紀白浜温泉の千光寺境内には、空海の立体曼陀羅まんだらの世界が広がっております。そこには、皆さまを御守りする誕生月が1月から12月までの十二尊の等身大の黄金色こがねいろに輝く観音さまと本堂内も含めて不動明王六尊が配されております。

その中で、ひとときわ光り輝く観音像が、黄金にきらめく約8メートルの誕生月が9月の大慈眼だいじげん観世音菩薩かんぜおんぼさつです。世界人類の平和を祈願して建立されて話題になっております。

9月の観音さまである大慈眼観世音菩薩は、和歌山県、そして南紀白浜を天災より守護しておられる観音さまです。大きな慈悲の心や深い慈愛のこもった眼差しで、いつも地元の方々や国内外の参拝者の皆さまの安全と幸福を見守ってくださっております。

この世で苦しむ人々が「真言」を唱えることにより、どこにでも身を現して人々を救ってくだ



9月誕生月の観音さま 大慈眼観世音菩薩

さいます。

観音さまは、悟りを求めて修行しながらも、人々のあらゆる願い事を叶えてくれる現世利益げんせいりやくの菩薩さまで、三十三の姿に変化して人々を救うとされております。その変化の様子を仏像で表すため、古来より多様な観音菩薩像が作られ、多くの人々の心の拠り所として信仰されてきました。

8月は千手千目観音です。8月生まれの方々をお守りし、願いを叶えていただけます。

最大の特徴は、そのお顔と手にあります。十一面のお顔で四方を見渡し、千本の手でどのような人々の事でも漏らさずに救済の手をさしのべる観音です。

古来より、一切の病、一切の悪業を除き、富や長寿をもたらす功德をもつと言われております。そのため、千手観音には、現世利益げんせいりやくだけではなく死後のご利益である後世利益をももたらしていただきます。千手観音により、15の悪い死に方



1月誕生月の観音さま 十一面千手観音



8月誕生月の観音さま 千手千目観音



3月誕生月の観音さま 聖観音



2月誕生月の観音さま 千手観音

を免れ、後世で15のよい境遇を得るとされています。

次にご紹介するのは、1月および、2月生まれの方々をお守りする千手観音菩薩です。

千手観音さまは、千光寺総本山のご本尊であり、本堂の前と洗心園内に2体建立されております。

千本の手は多くの人々に救済の手をさしのべる慈悲を表すとされております。特に、災難を避ける、寿命を延ばす、病気の治癒、夫婦円満、恋愛成就：などにご利益があります。

千本の手のたなごころには、眼が一つずつついており、この眼で一切の衆生の願いを余すところなく見届けられます。そして、千本の手に象徴される、あらゆる手段で願いを叶えてくれると言われているのです。

3月の誕生月の人々の願いを叶えていただけるのは、聖観音でございます。

聖観音は、観音菩薩の本来の姿と言われております。その

ため、一般的に観音さまと呼ばれるのはこの聖観音を指します。日本の観音像で最も多いとされ、多くの人々から信仰されてきました。

聖観音は、地獄道に迷うため人々を救うため、さまざまに姿に身を変えて救いの手を差し伸べます。苦難除去、現世利益^{げんせいりやく}、病氣平癒、厄除け、開運、極樂往生…といった、とても幅広いご利益があります。

4月の観音さまもご紹介しましょう。

この月は、十一面千手観音となっており、十二面のお顔で四方を見渡し、千本の手でどのような人々の事でも漏らさずに救済の手をさしのべられる観音さまです。古来より、一切の病、一切の悪業を除き、富や長寿をもたらす功德をもつと言われています。また、千手観音には、千手千目観音と同じく、現世利益^{げんせいりやく}だけではなく、死後のご利益である後世利益もあるとされます。

今回はご紹介しておりませんが、それぞれの誕生月の観音さまが園内で見守っております。実際に足をお運びいただき、大日如来のお力、「大日力」のご利益をご自身で体感してください。



4月誕生月の観音さま 十一面千手観音

5 不動明王と如意輪観音、そして丸うさぎ

空海が8世紀に、唐より密教を伝授され日本へ向かう途中、暴風雨に襲われました。その時です。大日如来が遣^つわした「波切り不動明王」が右手に持つ宝剣で逆巻く波頭を切り裂くと、海は嘘のように穏やかな風^なへと変化。無事、空海は高野山へと導かれることになったと伝えられています。

このように、洗心不動明王（不動尊）の右手の宝剣は悪縁を切り、そのことにより良縁が増える。そう言い伝えられています。

このことから、洗心不動明王（不動尊）は、厄よけ（悪運切り）と良縁結び両方の願いを叶えていただけるとされております。実は、この不動尊は、大日如来が人びとをお助けするために変身されたお姿だと言いいえられています。



白浜千光寺には、この洗心不動尊が建立されております。強大な怒りと破壊の力で悪心を破壊し、炎で迷いや煩惱を焼き尽くし、災いを焼き払ってくれる仏さまです。その大日力により、深い悩みや耐えがたい苦しみを抱えている人々を、力の限り救ってくださるのです。

その「力」を体感、体験していただける場所が、白浜千光寺境内の第二洗心不動明王を祀る加持祈祷堂でございます。

当初は、お花や御守りを販売する、何の変哲もない小さな小屋でした。そのような状況だったため、高野山にあるような立派な護摩壇（火を焚く密教の仏具台）や、真言密教の奥義である護摩行、加持祈祷を行うことなど、夢のまた夢……。私は、そのように考えておりました。

しかし、国内および海外から観光に訪れた方々に空海の願望達成術（S U C C E S S method）である密教の本来の大日力を、ぜひ体感してほしい。

そんな強い想いを貫きたいと一念発起し、本堂の護摩壇とは別に第二不動尊堂を建立させていただきました。これにより、目の前で空海の真言密教の奥義である護摩行を体験出来るようになります。参拝される皆さまの願掛けや、諸々の問題解決にお導き出来るようになりました。

それでは、白浜千光寺で執り行われている護摩行、加持祈祷とは、どのようなものでしょうか。護摩行では、参拝者の願望を記入した護摩木を「煩惱」、火を「智慧」として、智慧の炎で煩

悩を焼き尽くすこととしております。現世利益げんせごりやくを願う時は護

摩木、または、紀州手まりやお手玉のような丸い物を総称した呼び名「丸うさぎ」に願い事を書いていただきます。そのうえで、神仏のご加護を願って不動明王の真言（サンスクリット語）を唱えながら、私もしくは白浜千光寺の龍照住職による加持祈祷を行います。

護摩木は、心願を仏さまにお伝えするため火の中に投じます。護摩行後の丸うさぎは、不動明王の念を注入したことにより、「ご自身の分身」となっております。

そのため、丸うさぎを千光寺境内の洗心園内の不動尊堂に奉納することにより、祈願者をあらゆる災難から身を守ってくださるようになるのです。さらに「良縁結び」の大日力により、大きな商談が成立したり、理想的な愛をはぐくむことが出来ると言われております。

次に、最近、お問い合わせの多い、「丸うさぎの願掛け」



についてお話ししましょう。

9月の大慈眼観世音菩薩をはじめとする誕生月の1月から12月までの黄金色の十二尊の観音さまのお話は、すでにお話いたしました。その際には、あえてご紹介しませんでした。12月の如意輪観音（にょいりんかんのん）のお話から始めましょう。

如意輪観音は、人々に六本の手を差し伸べ、苦しみから救済すると言われております。その意のままに、良縁結びや安産、延命などのご利益をもたらしてくださる観音さまとして有名です。

このような、人が生きていくために望む事を全て叶えてくれる力により、如意輪観音は、白浜千光寺の十二尊の中でも、「丸うさぎの良縁結び」の願掛け祈願をする方が多い観音さまとなっております。祈願する際には、真言「オン ハンドメイシンダマニジンバラウン」と唱えます。そうすれば必ず、恋愛や結婚が成就すると言われております。

では、良縁結びの願掛けの必須アイテムである丸うさぎとは何でしょうか。



丸うさぎは、丸い「紀州てまり」や「お手玉」の総称です。うさぎは煩惱や欲望の象徴に例えられており、放っておくと、自分勝手に飛び跳ねてしまうとされております。そうならないようにと、不動明王の左手の紐で、手足をくくられて丸くなり、動けない姿を表したのが、丸うさぎなのです。その姿を人間自身に例え、人間の心の中にある「欲望」が動かないように、不動明王の左手の紐によってくくりつけられているというわけです。

欲望は、放っておくと止めどなく湧き出て心を曇らせてしまい、不満や悩み事をつくる元になってしまいます。それは結果的に、願い事の成就を邪魔してしまうのです。

その欲望の心を消し去るために、不動明王の右手の剣で悪縁を切り、不動明王の後ろに燃え盛るカルラ炎で悪い心を燃焼。洗心不動明王に、悪縁やくされ縁を完全に洗い流していただきます。それが良い出逢いにつながり、良縁が舞い込こんで良縁結びとなるのです。

そのことから白浜千光寺では、願望成就のご利益を授かるために、丸うさぎを加持祈祷所に奉納していただいております。最近では、護摩行の後に自分自身で丸うさぎを、如意輪観音をお祀りしている如意輪観音堂に吊るす人々が増えております。

さて次に、丸うさぎに関するうん蓄をもう少し、お話しましょう。

そもそも、なぜ「丸いうさぎ」なのでしょう。こういった運が授かっているとされるのか、

丸うさぎの由来についてご説明していきましょう。

●全体運→うさぎは月の使いだと言われております。そのため、月（ツキ）を運ん

でくれるからという説

●知識運→耳が長いため、情報が早く耳に入るからという説

●飛躍運→びよんびよん飛び跳ねるからという説

●結婚運・家庭運→縁をつなぐ動物だからという説

●子宝運→うさぎは多産の象徴だからという説

以上のように、諸説ございます。

それでは、良縁結びの丸うさぎの始まりとされる丸うさぎ信仰の元となった丸い「紀州てまり」について、ご紹介しましょう。

和歌山の紀州てまりの起原は、空海が生きた平安時代にさかのぼります。当時は、「神殿まり」



として姫君たちに愛されておりました。その神殿まりをもとに、伝承されてきた和歌山の伝統工芸品です。

その後、紀州五十五万五千石の殿中で、女官たちがお城の姫君のために作り始めたのが、今の紀州てまりの起こりといわれております。

また、この紀州てまりは、昔から結婚のお祝いに送る習慣があります。「いつまでも丸く美しく納まるように」との願いがこめられており、嫁入り道具の一つとしても利用されてきました。円満な家庭を築き、丸々とした二世の誕生を祈念する縁起物ということなのでしょう。

紀州てまりは、伝統を生かしながら、現在風のセンスを加味したものが多くのが特徴です。今でも、和歌山の「おばあ様」の伝統の技法を受け継いでおり、一つ完成させるのに100時間以上もの時間を費やしてつくられていると言います。

古くなった紀州てまりを洗心不動尊千光寺に奉納して、ご先祖を敬う。そんな習慣が復活して、



今の「丸うさぎ信仰」につながったと伝えられています。

その伝統を今に伝える白浜千光寺で、加持祈祷、護摩焚きを体験し、丸うさぎを如意輪観音堂に結わえてみる…。そんな、白浜千光寺ならではの経験を試してみたいかがでしょうか。

不動明王が持つ良縁結びの大日力により、ビジネスがうまく運び、理想的な愛が成就する。皆さまの、そんな夢が叶えられることでしょう。

ここで、ほっこり心温まるお話をひとつ。

白浜千光寺には、うさぎのお家がございます。これは、地元の方々から「奉納」されたうさぎたちで、最初はペット用のかごに入れて預かっておりました。ただこれでは、あまりに可哀想ということで、お家を建てようということになりました。

地域の皆さまのお力を借りて日曜大工的に作業をして完成。立派なうさぎたちのお家が完成したのです。

小屋は、境内に入って右手にありますので、ぜひご



覧ください。可愛らしいうさぎたちの姿に、癒やされること間違いなしです。丸うさぎの願掛けにも、より一層のご利益があることでしょう。

6 パワースポット・白浜千光寺の不思議を巡る

有名な神社や寺院は、なぜ、その場所に建てられたのでしょうか。これには、実に明確な理由があります。なぜなら、その場所が強力なパワースポットだからです。

白浜千光寺が開山した場所も、まさにパワースポットの中心。地名を、白浜町水晶山と住所表示がなされています。

地名にもある水晶（クリスタル）は、古来より神秘的なパワーの源とされてきました。不思議な力を持つ石として、世界中の霊能者によって、さまざまな儀式に用いられてきました。霊石として崇められ、災いや魔を払い、危険から守ってくれ、邪気払いや幸運を招くパワーを持っていると考えられているからです。

水晶は現代でも、地鎮祭の時などに地面にまいたり、建物やお寺などの土地には水晶が埋めら

れたりしております。水晶によって土地が清められ、厄がはらわれ、運氣の流れをよい方向に整えるとされているからです。

水晶は、このように、「地」「人」「場（環境）」など、すべての「気（オーラ）」を浄化し清める力があるのです。実際に、靈的に敏感な方が水晶に触れたり、水晶山の近くにいた場合は、不思議なことに、ひんやりとして心地よく、美しい波動（オーラパワー）を流れているのを実感することができます。

それは、山岳修行時のように、自然の滝や湧き水に触れた時や、早朝の新鮮な空気を吸い込んだ時のような清々しさに似ております。このように水晶は、人の中に潜んでいる力を呼び覚ます力があるのです。

人は潜在的に、自然に対して癒しを求めます。森林浴などを行うことで自然を感じ、自然に成長を合わせること、無意識に自分のオーラを活性化、浄化しているのです。

この「自然の癒し」に最も近い波動を持つのが、水晶パワーなのです。心と魂を清め、生命力を活性化させ、潜在能力（超能力）や才能を呼び覚まします。これは、本来の人の力を妨げている「厄」や「悪縁」、「悪運」「悪霊」など、さまざまな要因を取り去って、浄化してくれるからなのです。

水晶は、人間的成長を促し、霊能力、超能力を高めてくれることから、占い師や呪術師が好んで身に着けております。なぜなら、創造力・直観力・洞察力を高め、自然から「何かを学び取る力」を得る事ができるからです。そのために修験者は水晶を身に付け、山岳修行、苦行を日夜行っておられるのです。

また、水晶（山）は、負のエネルギーを吸い取り、人々を外界（厄、悪縁、悪運）から守ってくれるとされております。その水晶と最強の不動明王（洗心不動尊）が合わさることで、頑強な盾となり、良くない気を吸い取ってくれます。その結果、身体浄化が行われるのです。

そして、水晶の波動を繋ぐ架け橋のような役割が、真言密教の真言です。

真言密教の根源仏である大日如来が変身された不動明王による「大日力」の波動を、炎（水晶）とともに共鳴させる。その事により、いろいろな願望が達成されるのです。

そんな、水晶の強力なパワーに覆われているおかげでしょうか。白浜千光寺では、神秘的な現象がしばしば起こります。例えば、9月の観音さま、大慈眼観世音菩薩を撮影した際に、現実にはない後光のような光がさす、といったようなことです。

実はこれは、偶然ではありません。というのも、私は「大日力」あふれるこの場所だからこそ、白浜に別格本山としての千光寺を開山して管長を務めさせていただこうと決心したからです。



白浜温泉水晶山 洗心不動尊 千光寺境内の約8メートルの黄金色に輝く「大慈眼観世音菩薩」

空海の奥義（HAPPY method）の「大日力」を発揮できるのは、真言密教の金剛界の智慧の修得や、修験道の山岳修行によって、悟りを得た山伏（修験行者）の方々になくてはなりません。ただしそれは、加持祈祷を、どのような場所で行ってもよい訳ではないのです。本来は、空海の言密教の聖地、高野山が最もふさわしい地ではあるのです。

そのため、私も真言密教の僧侶として、長年にわたり高野山に自坊を持ちたいと希望しておりました。そして、空海のお導きにより、高野山ともつながる、和歌山県白浜温泉の水晶山に自坊（祈願寺）を持つことになりました。それが、白浜千光寺でございます。

超常的な現象は、不思議な力を持った「場所」「智慧を習得、悟りを体得した山伏（行者）」「大日如来が変身した不動明王」「護摩壇の炎」「明確な目的を持った心願」の5つが、すべて揃った時に起こります。

こうした条件が揃っている白浜千光寺に、不思議な現象がよく起こるのも必然だと言えるでしょう。

白浜千光寺の境内には、強力な力を持った、さまざまなパワースポットが点在しております。そうした「不思議」の数々を紹介しましょう。

金剛靈力岩の粉末を持ち帰る

白浜千光寺境内の梅林の洗心園には、不思議な梅の木がございます。誕生月が7月の方をお守りする十一面観音のそばに、その梅の木があります。なんと、一本の木で、紅白に咲き分ける貴重な木でございます。

白浜千光寺には、国内はもとより、中国や韓国、香港の方など海外からも多くの参詣客に来ていただいておりますが、皆さまに一番人気なのがこの梅の木です。花が咲く早春の時期には、「インスタ映え」をねらって、多くの方がスマートフォンをかざして撮影しておられます。

その梅の木が咲き分けるのは、境内に据えられている岩の霊力ではないか。そのように噂されているのが、夫婦の「金剛靈力岩」です。

ここで、金剛靈力岩が、オーラパワーを持つように



なつたいわれをご説明しましょう。

それには、空海の真言密教の奥義「三密」のひとつ、「口密」が深く関わっております。

空海いわく、波動的な口密というのは、言語・声音の作用によつて、万物は形成されるとおっしゃいます。宇宙を根源要素とする密教思想では、声音というエネルギーの波によつて万物が創られました。こうした、波動思想の古代的表現に他ならないとされております。

ただし、声音は単なるエネルギーではなく。

そこには、声音を発するという絶対者（強い意志を持つて願掛けされる方）の意思が介在します。音を、いわば宇宙に向けてたたき出すのが大日如來の行いなのです。

つまり、人が発声する声音には「意味」という作用が備わっております。つまり、声に出すということは、声だけでなく、その意味までも大宇宙に向けて解放した事と同じだというわけです。この波動的エネルギーと、大日如來の慈悲と智慧が同時に備わっているのが修行者です。そのため修行者は、声を出して真言を唱えることで、大日如來の化身と化し大日力を発することが可能なのです。では、真言の波動的エネルギーとは何でしょうか。千光寺の管長である、私的に表現してみましよう。

それは、電子レンジのようなもの、ということでしょうか。電子レンジでものが熱くなる現象

に似ていると考えております。

電子レンジは、火を焚いていないのに、食べ物も熱くなります。これは、科学的な根拠のある現象ではありませんが、見た目には、それとは分かりません。

この現象を仮に約2000年前の言葉（真言）に当てはめると、電子の波動的摩擦により、物が熱くなる。つまり、真言を、強い意志を持って仏さまに言葉を発する事により、想いは仏さまに通じ「大日力」を発する。このような行為だと考えております。

こうした真言（古代インドのサンスクリット語）を唱え、修行者（山伏）が山野を何度も巡るうちに、そのパワーが宿ったのが金剛靈力岩です。

古来より多くの修験者が、不動明王の真言（ノウマクサーマンダバーサラダンカン）を唱え続けたため、強大な霊力を抱く岩になりました。その力ゆえに、人々の願いを叶えるようになったと言ひ伝えられております。



白浜千光寺の金剛靈力岩は、このようなパワーを秘めた神秘の岩。金剛靈力岩にむかつて願いを込めた後に岩を少し削り、粉末を紙や布で包んでお守りにすると、金運、勝負運、結婚運などの幸運を呼び寄せると言われております。

境内入口の如意輪観音堂の購買部にて、金剛靈力岩の粉末を入れる御守護袋を無料でお渡ししております。お詣りの際に、お気軽にお立ち寄りください。

願いを叶えるための煩惱捨壺

昔から、壺の中には世俗とは異なる「神秘の世界」が広がっているとされておりました。中国では、壺の中には神通力を持つ神仙が住んでいる。あるいは、壺の中には桃源郷のような別天地（壺中之天）があるなどと言われ、何か特別な空間が存在していると信じられてきました。西洋でも、壺は「生命の泉」として宗教絵画などでもよく描かれております。

このように、世界洋の東西を問わず、古代より壺の中には不思議な何かが存在すると言い伝えられてきたのです。

確かに、壺を覗くと不思議な感覚を覚えることがあります。それは、壺の中に充ち満ちている宇宙エネルギーに触れたからなのでしょう。同じように、大昔から多くの人々は、壺の中を見つめる時、その感覚に戸惑い、人間界には存在しない神秘のパワーを感じてきたのだと思います。白浜千光寺の境内には、大の大人が二人がかりの両手でも、抱えきれないほど大きな壺が置かれています。それが、「煩惱捨壺」と呼ばれる、特別なパワーを貯えた壺です。中をのぞくと静かに佇んでいるエネルギーを感じ、吸い込まれそうになります。

その壺に、人が煩惱（欲望）を一つ吐き出すと、その方の悩みの一つが解消される。または一つの願いが叶えられるという言い伝えがあります。

壺の周りには竹柵がありますが、悩み解消や願望成就を願う方は、竹柵を超えても構いません。壺に両手を添えて、例えば「嫉妬」「愚痴」「物欲」「怒り」などの煩惱のうち、たった一つだけ、壺の中に吐き出してみましょう。そして参詣順路に鎮座されている生れ月の観音様の前に立ち、今度は一つの願い事を唱えていただければ、その願いは成就します。

人間は、たくさんの煩惱を抱えております。その煩惱が心身を縛りつけて自由を奪うため、人々は悩み苦しむのです。抱えているすべての煩惱を捨てることができれば、「空海の悟りの境地」

へと導かれることができます。ただ、そのためには、密教の修行を積まなければなりません。そこで、多くを望まず、たった一つだけ煩惱（欲望）を捨てれば、その捨てた分だけ願望を叶えてもらえる。それが、煩惱捨壺なのです。

煩惱は、放っておくと、どんどん膨らんでいくものです。

たくさんの煩惱を抱えたままで生きると、とても生きづらく苦しい日々を送らねばなりません。煩惱を捨てる事が出来ればよいのですが、日々の生活の中で

はその事に気付く機会もなく、捨てる方法も思い付かないのが現状でしょう。

ところが、そんな方でも、煩惱捨壺の前に立つと、心に何らかの煩惱をここに捨てればいいんだと、気づかされるはずです。

そう感じることが出来れば、躊躇せずに竹柵をまたいで煩惱捨壺に触れてみてください。その
しあわせ
一步の歩み（策越え）が、皆さまを変えてくれるかも知れません。いつしか、幸福へと導いてく



れることでしよう。

白浜千光寺に詣でられたら、参拝順路を巡りながら煩惱捨壺を見つけてください。順路の途中の左側にありますので、煩惱を思い切つて壺に捨て去りましょう。希望ある未来が到来しますよう私も一緒に祈りしております。

洗心不動明王（お不動さん）六尊

千光寺本堂内には、悪縁切りの「洗心不動明王（不動尊）」が建立されております。また、本堂ならびに境内には六尊の洗心不動尊が建立されております。先ほど、空海が中国からの帰途において、大日如来が変身した仏さまが空海を救われたお話をさせていただきましたが、その仏さまが洗心不動明王です。

白浜千光寺の洗心不動尊は、強大な怒りと破壊の力で、悪心を破壊。火焰かえんで迷いや煩惱を焼き尽くし、災いを焼き払ってくれる仏さまとして全国各地で『お不動さん』としての信仰をなされております。

その強力な靈力により、深い悩みや耐えがたい苦しみを抱えている人々を救ってくださるのです。密教経典によれば、洗心不動尊とは、菩提樹の下にて釈迦が悟りを開いた坐禪中に、煩惱（百八種類のあらゆる欲望）を焼き尽くした際の忿怒の姿だとしております。

そんな洗心不動尊が発したとされる四行のメッセージ「四箇偈」がございまして、その内容を紹介させていただきますよう。

〈四箇偈〉

見我身者発菩提心

|| 我が身を見る者は、菩提心を発し

聞我名者断惑修善

|| 我が名を聞く者は、惑を断じて善を修す

聴我說者得大智慧

|| 我が説を聴く者は、大智慧を得る

知我心者即身成仏

|| 我が心を知る者は、即身成仏する



このような洗心不動尊からのメッセージを、自分自身の知恵とし、願いを込めて洗心不動尊の真言（ノウマクサンマンドバザラダンセンダマカロシヤダソワタヤウンタラタカンマン）を8回以上唱えてみましょう。そうすれば、その効力は計り知れないものとなるでしょう。

それを証明するように、仏教の奥義である密教の護摩行に参加され、真剣に祈願される方々は後を絶ちません。その強大なご利益の力「大日力」を実感されておられるからでしょう。

洗心不動尊は、加持祈祷を行えば、すべての願掛け（願い事）を叶えてくれると言われる仏さまです。特に、邪気払いや勝負必勝、立身出世、商売繁盛などのご利益があるとされており、一度、白浜千光寺をお訪ねになり、洗心不動尊にむかって真言を唱えてみてください。きつと、体の底から底知れぬオーラパワーが湧き上がってくることでしょう。



その一言（真言）で励まされ

その一言（真言）で夢を持ち

その一言（真言）で立ち上がる力を生み出す

水子供養の洗心六地藏菩薩

白浜千光寺境内には、ひっそりと佇みながら、7頭の竜神に守られている水子供養の洗心六地藏が建立されております。

仏教の教えでは、両親が生前に行った行為の善悪で、子どもの死後に、「地獄」「畜生」「餓鬼」「修羅」「人」「天」という六道の世界を輪廻^{りんね}、転生^{てんじふ}すると言われております。そのため、ご両親に成り代わり、六道それぞれの道に進んだ子供たちの苦しみを救済するのが六地藏菩薩です。

お詣りする際には、六地藏の真言（オンカカビサ
ンマイイソワカ）を8回唱えましょう。そうすれば、
六道に陥った子どもたちが救われます。



千光寺の3兄弟の一休さん

白浜千光寺の境内への入口には、可愛らしい一休さんの像がごさいます。その昔、人気のアニメで、「いつも、バタバタ、せかさか、せずに、一休み、ひとやすみ…」とつぶやいておられた、あの一休さんです。

白浜千光寺の石像は、長男、次男、三男の3体。皆、ホウキを持ったり寝転んだり、思い思いの姿勢で参詣者の方々を見守っております。

赤ちゃんなど、幼い子どもたちが一休さんの頭をなでると、頭が賢くなると言い伝えられています。

お子さまのおられる方は、ぜひ、頭をなでさせてあげてください。

いかがでしたでしょうか。白浜千光寺が、いかに楽しめるパワースポットであることがわかりただけたのではないでしょうか。白浜観光に来られる際には、パワースポット・洗心不動尊白浜千光寺を、



一休さん（長男）



一休さん（次男）



一休さん（三男）

ぜひお訪ねください。

7 空海の教えを広めるために

白浜千光寺では、世界人類の平和を願い、また、世の中の不安を少しでも軽減する一助となるため、空海の真言密教の教えを広める活動を積極的に行っております。

その一端をご紹介します。

柴燈大護摩法要

白浜千光寺は、兵庫県の千光寺総本山の別院として、2018年3月に開眼法要を行いました。5月22日には、世界平和と日中親善、和歌山の発展を祈願する法要を執り行いました。これは、空海の真言密教の奥義による、野外で行われる大規模な加持祈祷で、「柴燈大護摩供」と呼ばれております。

柴燈大護摩供は、真言宗を開いた空海の孫弟子に当たる聖宝理源大師が初めて行ったと言われております。醍醐寺など、真言宗当山派修験道を継承する寺院や真言密教系寺院のみで行われている加持祈祷です。

本来、空海の真言宗系の寺院が行う「柴燈護摩」は、山岳修行にて行者だけで修するものであります。そのため、国内外でもほとんど類を見ない護摩祈祷であり、不動明王（洗心不動尊）の強力な法力を得た行者（山伏）により、様々な奇跡（願望達成、問題解決）をもたらすとされる最強の奥義です。

空海の真言密教系の柴燈護摩に「柴」の字が当てられているのは、山中修行で正式な密教仏具の用意もままならず、屋外で、柴や薪で壇を築いたことによると伝えられております。

こうした貴重な柴燈大護摩供を白浜千光寺で実施することになったのですが、その際は中国の国会議員である潘慶林先生ご夫妻をお招きいたしました。先生は、日本語が堪能なお方で、中国本土からのインバウンド誘致に積極的に取り組んでおられます。このときは、日中親善のため、中国の方々



14億人の代表者として参加していただきました。

お陰さまで、白浜千光寺の柴燈大護摩法要も、滞りなく終了することができました。

年末年始の参詣

毎年、南紀白浜温泉では、年越しの白浜花火大会が毎年行われております。12月31日の午前0時より、白浜千光寺から約6分のところにある白良浜ビーチにて開催されております。

当日は、たくさんの方々が花火大会の後に、白浜千光寺にお参りくださいます。2018年の年末には、境内でぜんざいと年越しそばを振舞い、来たる福を祈念して加持祈禱を実施。たくさんの方々に参加いただきました。

元旦からは、お正月三ヶ日間の毎日、加持祈禱所にて、



空海の護摩行（加持祈祷）を執り行いました。2019年が、皆さまにとってよい年になりますことを世界平和とともに願ひ、お務めさせていただきました。

ぜひ令和元年の年末から新年にかけて白浜千光寺へご参拝にお越しく下さい。

今後、皆さまの幸せや世界人類の平和を祈念して、「大日力」を広めるために積極的な活動を行っていきたいと思っております。

現在は、さらに空海の教えを世に広めるため、現在743回の投稿 (<https://www.instagram.com/kukaigenshin/>) しているインスタグラムの1000回投稿修行が終れば、空海がなしえなかった北極やアフリカなどの世界中へ向けて、真言密教の布教（PR）活動を行い、人気動画サイトYouTubeで「空海・玄津」としての1000回の投稿修行としての発信も考えております。白浜千光寺および私の今後の活動に、良きご理解とご支援ください。

合掌 

空海玄津
Instagram





燃え盛る護摩壇の炎には、不動明王が宿ります。上記写真の護摩行（加持祈祷）とは、衆生（人々）の願い事を叶えるために火をもちいて行われる修法のことで、オーラパワー「大日力」を発します。語源は、古代インドのサンスクリット語の「ホーマ」（homa：焚く・焼く）に由来します。

沖縄の終戦記念日にて

突然ですが、沖縄では、結婚式や葬式、追悼式などの公的な催しに出席するときには、カリユシウェア（アロハシャツ）が正式な服装となっております。こうしたイベントの際には、本土の方々も、このカリユシウェアを着用するのがスタンダードとなっております。そのため、総理大臣も、このカリユシウェアに着替えて参加するのが、6月23日、「沖縄の終戦記念日」でございます。

この日には毎年、沖縄の糸満市の平和記念公園で「沖縄戦全戦没者追悼式」が行われます。2019年にも、安倍晋三総理大臣をはじめ各大臣、玉城デニー沖縄県知事が参列し、平和への誓いを述べられました。

当日は、あいにくの雨にも関わらず、24万人超の戦没者の名を刻んだ「平和の礎」や「魂魄の塔」など、各慰霊塔には多くの遺族らが訪れ、手を合わせておられました。

沖縄戦の犠牲者は、今年新たに42人が追加されております。これで、刻銘者数は計24万1566人となりました。沖縄出身の僧侶として、2度と悲惨な戦争が起きない事を祈願し「空海」と「真言密教」を世界中に広めることこそ私の生涯の使命である。そうした想いを新たにした令和元年6月23日ございました。



第7章

空海の占星術「宿曜経」



1 空海が日本に伝えた「宿曜経」しゆくようぎょう

これまで、空海とその教え「真言密教」、そして、その理念や思想を現代に体现した「空海のテーマパーク」白浜千光寺のお話を中心にご紹介してまいりました。空海の偉大さ、その強力な力をご理解いただけたことと思います。

そんな空海の教えがつまった占星術があるのをご存知でしょうか。空海の秘伝である最強の占星術、宿曜経しゆくようぎょうがそれです。

空海が編み出した現世での願望達成術には、大日如来の力、「大日力」が必要であることを繰り返し述べてまいりました。大日は太陽ですが、すべてのパワーの源です。この太陽が「表」とすると、「裏」から人々を幸せに導くのが夜の空に輝く月なのです。

宿曜経は、月の満ち欠けによって占う真言密教の占星術で、大日力とともに表裏一体となって皆さまの未来を明るく照らします。

それでは、すべての方々を現世利益げんせりやくに導く、宿曜経についてご紹介しましょう。

宿曜経の起源は、今から3000年ほど前までにさかのぼります。インドで歴（こよみ）として発祥し、その後、中国へと伝播しました。

空海が宿曜経を日本に伝えたのは、今から約1200年前のこと。遣唐使として中国に渡り、多くの仏具や経典を日本に持ち帰りましたが、その経典の中のひとつが、宿曜経でした。

空海は、日常生活や行動に積極的に宿曜経を取り入れました。弟子たちにも、その教えを伝え世の中に広めます。当時は、政治や経済の舞台で陰陽師が重宝されておりましたが、大きな勢力となり都の人気を宿曜経と二分するまでになります。

宿曜経の使い手は、宿曜師と呼ばれるようになります。当時は、陰陽道と宿曜道、この2つの占いにより国が守られていたということが伝わっております。そうした平安時代において、空海は、宿曜経の他に五行や干支の考え方を用いて、数多くの「奇跡」を世にもたしました。第一章の「善女龍王の話」でご紹介した、神泉苑の雨乞いのエピソードもそのひとつでございます。

干上がりきった大地を一瞬にして潤した空海、そして、加持祈祷と宿曜道のパワーの凄さを実感していただけたかと思えます

宿曜経は、正式には「文殊師利菩薩及諸仙所説吉凶時日善惡宿曜経」と呼びます。あまりにも長い名前だということから、後ろの三文字をとって「宿曜経」と縮小して呼ぶのが一般的となつ

ております。

ちなみに、正式名称の中にある「文殊師利菩薩」は、文殊菩薩のことです。「三人よれば文殊の知恵」で有名な仏さまとして知られております。このように文殊菩薩は、色々な観音さまを主導するほど聡明な仏さま。学問成就や知恵、息災、増益、出産、除病の功德がある菩薩とされております。

同じく名前の中の「及諸仙所説吉凶時日善惡宿曜經」は、その他諸々の仙人たちが文殊の知恵を授かって日々の吉凶や物事の善惡を説いたという意味だそうです。このように、長い題目を見ただけでも、宿曜經が教えてくれることがいかに壮大であるかを如実に物語っております。

宿曜經については、平安時代には、様々な書物にも登場しております。紫式部の「源氏物語」もそのひとつです。

その文中に、「宿曜のかしこき道の人」との記述があり、「桐壺」の巻では、主人公の光源氏が誕生した際、宿曜師にその運命を占わせる場面も登場します。平安時代最強の政治家、藤原道長の日記の暦注にも書き記されているなど、宿曜經の評判の高さを知ることができます。

後の戦国時代には、宿曜經は「軍師」の役割を果たすようになり、武将たちを補佐する役目を担うようになります。

一説には、織田信長も敵対する武将との相性を占った上で、戦いに臨んだと言われています。また、武田信玄の軍配にも宿曜経の27宿が描かれているなど、名だたる戦国武将がこの神秘の占いを頼りました。

それゆえに、当時の武将は、敵に生年月日を知られては勝利の妨げになると考え、生まれた日を隠したほど。戦国時代の武将は、宿曜経を活用して戦術を立て、自分に有利な戦況に持ち込もうとしました。どれだけ、宿曜経の力が信じられていたかが分かるエピソードでしょう。

戦乱の世が終わった江戸時代には、徳川家康の側近、天海てんかい僧正が宿曜経を大いに活用したと伝えられております。天海は、27宿の斗宿の星の下に生まれた徳川家康と全国の大名との相性を占っておりまして。家康公は、その結果を踏まえて、大名の配置転換などを行ったと伝えられております。宿曜経は、民衆のしきたりにも大きな影響を及ぼしました。七五三の行事にも、宿曜経が使われております。

七五三の発祥は諸説ありますが、旧暦の11月15日に固定化したのは、三代将軍・徳川家光だと伝わっております。家光の四男で、後の五代将軍・綱吉つなよしとなる功名徳松こうみよしくまづは、幼い頃は大変病弱な子どもでした。それを心配した家光は、その無事と成長を祈るために、袴着はきぎの儀式や修法しゆぽうを行いました。その日が、旧暦の11月15日だったのです。

なぜ、その日に祈念したのでしょうか。それは、旧暦11月15日は満月であり、この日の宿は「鬼宿」にあたっていたからです。「鬼宿」^{しぎ}は、あらゆることが大吉とされる大変な吉祥日。お釈迦さまの誕生にも由来する日とも言われております。その後、庶民もこれに習い、現在の歳祝いとして引き継がれているのです。

このように、時代を通して、様々な場面で活用されてきた宿曜経ですが、そのあまりの的中率の高さに、ある時から徳川幕府は宿曜経を封印してしまいます。再び注目されるようになったのは、明治時代に入ってからのこと。宿曜経は、「宿曜占星術」として見直され、近年再び、「宿曜秘宝協会」の高畑三恵子先生が出版された『あなたの未来を切り開く宿曜秘宝』等々により大きな注目を集めるようになってきました。

空海のお導きとしか言いようのない不思議な「宿曜師」高畑三恵子先生との出会いにより、その高畑流の宿曜占星術の秘宝についてのお話を令和元年9月26日に東京新橋の第一ホテルでうかがう機会

高畑三恵子先生（一番左）令和しあわせの会本部の山田順子さん、千光寺寺務所の上地康之所長



を得ました。本当に素晴らしい美しいお方です。

2 空海の驚異の占い「宿曜占星術」の驚異的中率

古代から人々は、月や星の動きと地上の出来事との間に、目に見えない不思議な因果関係があることを知っておりました。宿曜経も、その月の動きがキーワードとなっております。

現在、「宿曜占星術」と呼ばれるようになった宿曜経は、第6章の最初に述べましたように、月の運行を基にした占いであることが大きな特徴です。月の運行と太陰太陽暦（旧暦）を基に、性格・運勢・日々の吉凶・相性を占います。

宿曜占星術とは、すべてにおいて生年月日から割り出される「宿」が基本となります。全部で27宿ありますが、12宮の星座に分類されます。これは、現代人が慣れ親しんでいる西洋占星術と、ほぼ同じだと考えてよいでしょう。

また、それぞれに作用する要素がいくつかあり、その影響が組み合わさって、性格や運、相性などが変わってきます。ここでは、大まかな宿の特徴をご紹介します。



参宿 さんしゆく

基本的な性格・斬新な発想力で変革を実行



觜宿 ししゆく

基本的な性格・巧みな会話術で知識が豊富



畢宿 ひしゆく

基本的な性格・マイペースな大器晩成型



昂宿 ぼうしゆく

基本的な性格・品がよく真面目な優等生

玄津管長の著書で出会った皆さまが、左記のQRコードをスマホで、いつでも、その時に必要な情報や、行動、さらには学びや方向性、未来の暗示を受け取れるようにと思ってメッセージを書き上げました。

このカードが皆さまのために、宿曜経のメッセージを運んでくれる道しるべとなり、オラクルの「美の経典」として、運気のオーラパワーをアップさせるために活用していただければ幸いです。

令和元年10月22日 高畑三恵子



星宿
せいしゅく

基本的な性格・人生を積み上げるいぶし銀



柳宿
りゅうしゅく

基本的な性格・物静かな中に強さを内包



鬼宿
きしゅく

基本的な性格・感性豊かで発想力が個性的



井宿
せいしゅく

基本的な性格・理論的思考と幅広い知識



宿曜占い サイト

「生年月日」で性格、相性、

運勢がズバリ的中!!

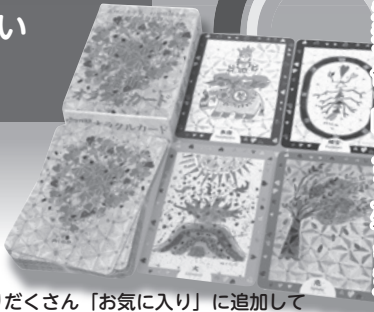
あなたの本質・気質

あなたのまわりの人間関係、

相性、運勢、相手の運勢

さまざまなコンテンツが盛りだくさん「お気に入り」に追加して

いつでも、どこでも、どんな時でも、誰といても毎日楽しめます。



空海の「宿曜経」で人生が変わり
未来を切り開くことが出来ます



角宿

基本的な性格・遊び心を忘れない柔軟性



軫宿

基本的な性格・交際上手で活動的な決断力



翼宿

基本的な性格・羽ばたく使命を背負う人



張宿

基本的な性格・自己演出が得意なプレーヤー

人と会うたびに幸運が舞い込む

空海パワーで自分の枠を
ラクラク飛び越える7つの秘宝



毎日の運勢リズム
のメルマガ

27宿

ふりまわされない
人間関係を築く

無料

メール
講座





心宿
しんしゆく

基本的な性格・魅力的な天性のタレント



房宿
ぼうしゆく

基本的な性格・縁と財を備えた吉祥人



氐宿
ていしゆく

基本的な性格・タフでエネルギーギツシユ



亢宿
こうしゆく

基本的な性格・価値観を貫く統率者



宿曜秘宝
相性
&
運氣チャート



高畑三恵子
LINE公式
アカウント



ヤフー占い
監修サイト



〈 空 海 の 宿 曜 占 星 術 の ご 紹 介 〉



女宿 じょしゆく

基本的な性格・忍耐と努力で地位を確立



斗宿 としゆく

基本的な性格・高い志で輝くカリスマ性



箕宿 きしゆく

基本的な性格・怖いもの知らずの度胸



尾宿 びしゆく

基本的な性格・根気ある集中力と持続力

「空海」の密教占星術が解き明かす人の本質と運命が見える『宿曜オラクルカード（84枚）』と上記の27宿を照らし合わせる秘宝があります。

平安時代、空海（弘法大師）によって密教のひとつとして日本へもたらされた宿曜経（文殊師利菩薩及諸仙所説吉凶時日善惡宿曜經）は、高野聖や密教徒によって受け継がれ、宿曜占星術、宿曜道として伝えられてきました。

宿曜占星術は、天体の動きや巡りによって日や人の有り様、星を見極め、その星の神仏をまつことで運勢を好転させます。

そうした宿曜の叡智を詰め込んだ宿曜オラクルカードは、人の本質の運命を解き明かし、あなたのこれからの人生を切り開くよき道しるべとなるでしょう。



壁宿
へきしゆく

基本的な性格・洞察・分析力で不動の信念



室宿
しつしゆく

基本的な性格・スケールが大きくパワフル



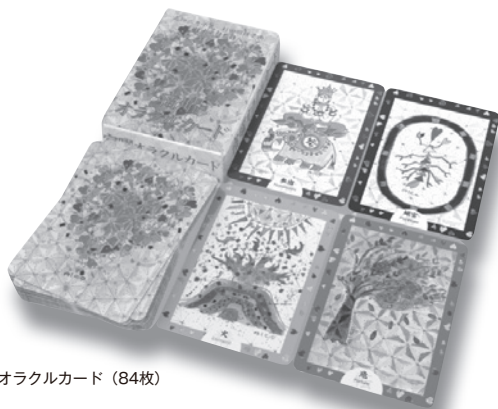
危宿
きしゆく

基本的な性格・大胆・好奇心旺盛な冒険家



虚宿
きよしゆく

基本的な性格・繊細な感受性で閃き力抜群



宿曜オラクルカード (84枚)



胃宿

基本的な性格・自立心溢れ情熱的に活動



婁宿

基本的な性格・人をつなぐ抜群の調整者



奎宿

基本的な性格・神秘的な雰囲気漂う存在



以上、誕生日から導かれる「良縁」27種類の運命・宿命「27宿」の基本的な知識をご紹介します。あなたの「基本的な性格は？」

これは、ほんの触りだけです。ちなみに、高畑先生によると、私（玄津）は「畢宿^{ひつしよ}」で、畢宿の利点とは、『母なる大地のように何かを生み出す才能があり、実現するための体力と精神力に満ちあふれ生み出したものを守り続ける能力をお持ちです』とのお話をいただきました。

密教占星術が解き明かす人の本質と運命が見える高畑三恵子先生（AICO画）と竹本光晴先生が監修された『宿曜オラクル（神託）カード（84枚）』として右記の27宿を照らし合わせる秘宝があります。平安時代、空海（弘法大師）によって密教のひとつとして日本へもたらされた宿曜経（文殊師利菩薩及諸仙所説吉凶時日善惡宿曜経）は、高野聖や密教信徒によって受け継がれ、宿曜占星術、宿曜道として伝えられて来ました。

宿曜占星術は、天体の動きや巡りによって「日」や人の有り様、「星」を見極め、その星の神仏を祀ることで運勢を好転させる事が出来るのです。

そのため、密教系寺院が屋外で執り行う「柴燈大護摩供」の後の厄払いの「火渡り」を含め、火まつりと表現せずに宿曜教の影響により、「星」まつりと古の時代^{いにしえ}より言い伝えられております。

そうした宿曜経は、密教の叡智を詰め込んだ「宿曜占星術」と一緒に使うオラクルカードとの秘宝術は、人の本質と運命を明確に解き明かし、あなたのこれからの人生を切り開くよき道しるべとなるでしょう。

詳細なご自身の生年月日より割り出す「宿」などの他、運勢、相性などを知りたい方は、左記の高畑三恵子先生のウエブサイト、書籍で紹介しております。ぜひ、ご活用ください。

● ウエブサイト

「宿曜秘宝協会」 <https://syukuyo.com>

● 書籍

『あなたの未来を切り開く宿曜秘宝』 高畑三恵子著 ビオ・マガジン発行

ここまで、空海がいかに理論的かつ科学的な事実に裏打ちされた「現世利益・今しあわせになる」を大切に考え実行・実施していたかをお話してきました。皆さまは、どうお感じになられたでしょうか。

人がこの世に生まれ、生身のままで究極の悟りを開き、仏になるという「即身成仏」の思想が、

そのすべてを物語っております。これを、現在の考えに置き換えると、「自己実現」や「次元上昇」といったところになるのでしょうか。こうした考えを端的に反映されているのが、宿曜師・高畑三恵子先生がナビゲートする空海の「占星術」です。

皆さまの人生を、大変容へと促すパワーが宿曜占星術には秘められております。さらには、生きていく上で大切な知恵とメッセージが含まれているのです。

人はこの世に、それぞれに個性や才能、使命を持って生まれてきております。ただ、いくら生まれ持つて才能に恵まれていても、それを充分に発揮できなければ、充実した人生を送ることはできません。

空海の教え「宿曜占星術」を大いに活用し、運気の流れを先読みすることができれば、個性がまばゆい光を放つようになり、ご自身の本領を遺憾なく発揮することができるようになるでしょう。

空海の加持祈祷による「大日力」と自分自身の運命・宿命を知る事が出来る「宿曜占星術」こそ、人生を成功に導く空海の願望達成術（S U C C E S S method）そのものです。皆さまの幸多き未来の役に立てるために必ず必要となる「知恵」となります。すなわち『知らぬ（無知）は一生の損』となりますので、ぜひ空海のお教を今日よりご活用ください。

3 良き縁を見つける「引き寄せ」の法則

第7章では、これまで空海が日本に持ち込み広めた占星術「宿曜経」について解説してまいりました。その歴史や驚くべき的中率などに関してお話しましたが、これもすべては空海の真言密教の教え「大日力」がなせる技でございます。

何度も申し上げておりますが、「大日力」には、悪縁を絶ち良縁を引き寄せる力がございます。これまで私は、この良き縁を「引き寄せる法則」の一端を、自ら幾度となく体験してまいりました。その奇跡的なご縁のお話をさせていただきますましょう。

すでに申し上げましたが、経営の神様、故・松下幸之助氏は、空海、そして真言密教の熱心な信者でありました。和歌山県出身者でもあった氏は、高校野球の強豪校として有名な通称・智辯和歌山の母体、辯天宗の宗祖・智辯尊女（私的には昭和の空海様）とも親交がございました。その縁もあり、辯天宗の信徒総代を務めておられました。

実は、この智辯尊女（稀代の超能力者）のご子息、智辯宗の大森慈祥管長猥下と私は、約30年

前に拝謁して以来、親交を温めさせていただいておりました。残念ながら現下は故人になれましたが、このご縁も、空海の「大日力」の良縁を引き寄せる力が働いたと、今振り返ると、そのような想いでいっぱいでございます。

さらに最近、故・松下幸之助氏に関わること縁に関して、より「大日力」の力を実感した出来事がありました。氏の息子（実子）さんは、秘書として20数年間おそばに寄り添い、松下電器産業の理事、そしてPHP総合研究所の社長（当時）となられた方が、「令和しあわせの会」代表発起人に名を連ねることになったからです。これもまた、「大日力」の良き縁を引き寄せる法則のなせる結果となるのでしょうか。

松下幸之助氏、智辯尊女、大森慈祥管長現下、「令和しあわせの会」代表発起人、そして、私、玄津…。

写真左：玄津 写真中央：辯天宗 大森慈祥管長現下 写真右：千光寺 二見昇道 相談役



すべては、空海の「大日力」の強力な磁力によって引き寄せられたご縁なのです。

それでは、こうした奇跡的な「良縁を引き寄せる法則」を、一般の方々が身につけるにはどうすればよいのでしょうか。

実は真言密教には、宿曜占星術とは別に、ある「おまじない」を唱えるだけで、さらに幸運、良き縁を引き寄せることが出来る法則があります。最後に、その方法をご紹介しますでしょう。

悪縁を切り良縁を引き寄せるには、『御宝号（空海を称える真言）』と、色々な願望を達成するには、『不動明王の真言』を唱えることで叶います。

〈御宝号〉
ナムダイシヘンジョウコンゴウ
南無大師遍照金剛

ノウマクサンマンドバザラダンカン
〈不動明王の真言〉
イボササキイボササキ

これを各8回声に出して唱えてみましょう。

この2つの真言は、天才超能力者である空海と、その中心となる教え、大日如来の化身とされる不動明王を称え、その『大日力』を自分のものとするために唱えます。唱える際には、ご自身の心の中で空海や不動明王のお姿をイメージして、願い事を「心願」しながら、声に出すとより効果的でしょう。

こうした真言を口に出して唱えると、何かの悩みがあつてそれを払拭したい時、あるいは、どうしても叶



晴天で無風（後ろの旗を参照）の穏やかな日に行われた柴燈大護摩法要。山伏が護摩壇へ火入れした瞬間、「洗心不動明王」へ向かって突風が吹き、燃え上がる炎が龍神となって現れました。山伏が不動明王真言を唱えると同時に、不動明王が建立している方角へ「炎」が真横に動いたのです。この様子をご覧になっていた中国の国会議員・潘議員夫妻（204ページ参照）は「奇跡だ!」とたいへん驚かれ、パワースポットとしての千光寺にあらためて感動されておられました。

えたい願いがあるときには、絶大な力を発揮してくれます。男性であれば、立身出世や金運の強化、商売繁盛など、ビジネスにまつわる運氣を引き寄せることに有効でしょう。女性であれば、悪縁を切り良縁を引き寄せる効果から、恋愛の成就、結婚運のアップにもつながります。

このように、大日如来の力「大日力」は、空海や修行者など選ばれた人にのみに与えられた特権ではありません。すべての人が、持っている力です。それを解き放つのが、先に挙げた御宝号と不動明王の真言を唱えることなのです。

日々の生活の一部に、ほんの少し真言（おまじない）を唱える習慣を加えるだけで、あなたの人生が間違いなく大きく変わります。空海の真言密教の教えを学び、「大日力」を力に、いろいろな問題を解決に導いていただけるのはもちろん、「しあわせ」を観（感）じる未来を手に入れてください。それが本書を発刊する私の望外の喜びです。合掌



おわりに

現在、日本各地に展開するコンビニエンスストアの数をご存知でしょうか。おおよそ、5万7000店あるとされております。それに対して、寺院の総数は、7万7256社。街のコンビニよりも、ずっと多いのです。

では、現在のお寺は、コンビニよりも社会に対して大きな役割を果たしているのでしょうか。

本来、お寺は、仏教の出家者が修行を行う施設であり、教えを説く場所でした。それが、江戸時代以降、庶民の心の支えとなりました。仏の教えを聞いて学び、心を安らげるためにお寺参りをする。あるいは、悩みを相談する。「寺子屋」として、子供たちが学ぶために通う。そうして皆、昔は事あるごとに、お寺に集まっておりました。このようにお寺は、その時代の人々の要望に応えながら、その役割をしつかりと果たしてきたのです。

そうした歴史を踏まえ、私は、宗教界そして、僧侶は、そうした責務を果たすために修行を重ね、地域社会、さらには世界人類の平和しあわせに少しでも貢献するため、空海（仏）の道を世に広く伝えなければならぬ。私は、そう信じて活動しております。

その活動の中心となる考え方は、空海の教え「真言密教」と護摩行（加持祈祷）から発する「大日力」による「願望達成術（HAPPY method）」なのであります。

空海と、その教えである真言密教を高野山にある和歌山県出身の経営の神様と崇められるパナソニックの創業者、故・松下幸之助氏も「超能力」「不思議な力（大日力）」の存在を深く理解し、それらの「力」の持主を認め大切にしておられました。密教を心から信じ、色々な場面で決断する時に不思議な力の持主に「神仏の声を聞く」「神仏に心願する」を実行したからこそ、大きな成功を成し遂げることが出来たのでは…と私は確信しております。

今の世の中では、引きこもりや自殺、幼児虐待、貧困など、多種多様な悩みやコンプレックス、挫折の渦の中に全ての人々が巻き込まれております。「神仏に心願する」事が出来ない人は、そこから抜け出せずに、もがき苦しむ状況が広がっており、令和の新時代が訪れても、それは一向に解消する様子が見られません。

そのような今の時代だからこそ、空海の「大日力」を、困っている人へ私なりの方法で伝えたい。その結果、皆さまが、それぞれの生きがいを見つけて「しあわせ」になってほしい。

そのような考えから、今回、空海のお導きにより「令和しあわせの会」の設立のお勤めをさせ

ていただき、活動いたしております。皆さまの幸せな人生の一助になれば幸いです。

合掌


真言宗千光寺派 宗教法人千光寺総本山・白浜別格本山

管長（代表役員） 上野 玄津

※世界人類の平和祈願運動の一貫として、一人二円募金を行なっております。

ご賛同いただける方は、左記の口座へ御寄進いただけましたら幸いに存じます。

きのくに信用金庫 白浜支店 口座名 宗教法人千光寺

普通口座 8091271 シュウ センコウジ

SUPER★Star

空海の 大日力

2019（令和元）年11月21日 初版発行

Religion philosopher

宗教法人 千光寺・管長（代表役員）

著 者 ————— **上野 玄津** *Ueno Genshin*

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町水晶山2527-1
南紀白浜温泉・空海ゆかりの洗心不動尊 千光寺別格本山

編 集 —————  **NKStation**
Publication

カバーデザイン ————— アタイデザイン青井典子

発 行 所 ————— **さんが出版**
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 NSMS48

印 刷 所 ————— 広光印刷株式会社

© Genshin Ueno 2019, Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。

本書の無断転載を禁じます。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

